

平成27年度

大学院生による授業評価結果報告書  
(後期分)

鳴門教育大学 大学院学校教育研究科

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
6	広領域コア科目	30031000	数学と芸術、そして科学間の接点を探る	佐伯 昭彦,胸組 虎胤,金児 正史, 齋藤 大輔
7	広領域コア科目	30032100	伝統文化（音楽・美術）における表現の思想	栗原 慶,遠藤 綾子
8	広領域コア科目	30033000	子どもの規範意識の現状と課題	曾根 直人,奥村 光太郎
9	広領域コア科目	30034000	コミュニケーションと言語・教育	原 卓志,畑江 美佳,石濱 博之
10	広領域コア科目	30111000	教師のための声とからだことば	頃安 利秀,余郷 裕次,綿引 勝美
11	広領域コア科目	30112000	学校危機管理研究	阪根 健二,竹内 和雄
12	広領域コア科目	30113000	予防教育科学	内田 香奈子
13	人間形成	30116000	教育哲学演習	木内 陽一
14	人間形成	30119000	発達健康心理学演習	山崎 勝之
15	臨床心理士養成	30421000	臨床心理学演習	今田 雄三,葛西 真記子,吉井 健治, 中津 郁子,小倉 正義,久米 禎子, 栗飯原 良造
16	臨床心理士養成	30422000	臨床心理査定演習Ⅱ	葛西 真記子,今田 雄三
17	臨床心理士養成	30424000	心理療法研究	古川 洋和
18	臨床心理士養成	30425000	臨床心理面接研究Ⅰ	中津 郁子,久米 禎子
19	臨床心理士養成	30432000	学校精神保健学演習	今田 雄三
20	臨床心理士養成	30433000	臨床心理学統計法	古川 洋和
21	幼年発達支援	30444000	幼年期福祉演習	木村 直子
22	幼年発達支援	30446000	幼年発達心理演習	田村 隆宏
23	幼年発達支援	30448000	幼年発達と幼児教育内容論演習	塩路 晶子
24	現代教育課題総合	30449000	現代総合学習論	小西 正雄,谷村 千絵
25	現代教育課題総合	30452000	現代教育人間論	谷村 千絵,近森 憲助,太田 直也, 田村 和之
26	現代教育課題総合	30513000	人間とコミュニケーションⅠ（基礎研究）	谷村 千絵,金野 誠志
27	現代教育課題総合	30516000	人間とコミュニケーションⅡ（実践研究A）	金野 誠志,小西 正雄
28	現代教育課題総合	30518000	人間と環境Ⅰ（基礎研究）	田村 和之
29	現代教育課題総合	30522000	現代の諸課題と学校教育Ⅱ	小西 正雄
30	特別支援教育	30524000	特別支援教育コーディネーター実践論	井上 とも子

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
31	特別支援教育	30637100	社会資源開発運用・連携論	井上 とも子
32	特別支援教育	30638100	特別支援教育課程特論演習	高橋 眞琴
33	特別支援教育	30639100	特別支援教育指導特論演習	大谷 博俊
34	特別支援教育	30643200	特別支援教育臨床支援技法演習	高原 光恵
35	特別支援教育	30646200	特別支援教育学習支援演習	島田 恭仁
36	特別支援教育	30647200	発達障害児支援医学演習	津田 芳見
37	特別支援教育	30649200	発達障害児神経学演習	田中 淳一
38	言語系	30657000	日本事情・日本文化	小野 由美子
39	言語系	30658000	日本語Ⅲ	田中 大輝
40	言語系	31150000	日本古典語演習	原 卓志
41	言語系	31153000	日本文学演習Ⅰ	黒田 俊太郎
42	言語系	31160000	日本文学演習Ⅱ	小島 明子
43	言語系	31161000	日本語教育学演習	小野 由美子
44	言語系	31164000	日本語文法演習	田中 大輝
45	言語系	31166000	日本語語彙論	田中 大輝
46	言語系	31168000	国語科教育学演習	村井 万里子
47	言語系	32138000	国語科授業演習	幾田 伸司
48	言語系	32140000	日本語教育法演習	小野 由美子
49	言語系	32144000	英米文学応用演習Ⅰ	前田 一平
50	言語系	32146000	学習英文法演習Ⅰ	眞野 美穂
51	言語系	32148000	小学校英語教育演習	ジエラト マーシロ
52	言語系	32150000	アカデミック・ライティングⅠ	吉川 エリザベス
53	言語系	32153000	英語科教育演習Ⅰ	石濱 博之
54	言語系	32156000	英語科教育演習Ⅱ	山森 直人
55	言語系	32158000	英語科教育演習Ⅲ	畑江 美佳

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
56	社会系	32159000	歴史学研究Ⅰ	川岡 勉
57	社会系	32161000	歴史学演習Ⅰ	大石 雅章
58	社会系	32173000	歴史学演習Ⅱ	町田 哲
59	社会系	32175000	歴史学演習Ⅲ	原田 昌博
60	社会系	32179000	法学・政治学演習	麻生 多聞
61	社会系	32183000	社会科教材開発演習Ⅰ（地理領域）	伊藤 直之
62	社会系	32220000	社会科教材開発演習Ⅱ（歴史領域）	梅津 正美
63	自然系	32224000	代数学演習	平野 康之
64	自然系	32226000	幾何学研究	松岡 隆
65	自然系	32227000	幾何学演習	松岡 隆
66	自然系	32230000	解析学研究	成川 公昭
67	自然系	32231000	解析学演習	成川 公昭
68	自然系	32276000	数学科教育学演習	秋田 美代
69	自然系	32277000	数学科授業研究	坂井 武司
70	自然系	32278000	数学科教材開発演習	佐伯 昭彦
71	自然系	33158300	物理学特論Ⅲ	栗田 高明
72	自然系	33158300	無機化学特論	早藤 幸隆
73	自然系	33158700	化学特別演習Ⅰ	武田 清
74	自然系	33159300	化学特別演習Ⅱ	早藤 幸隆
75	自然系	33159500	生物科学特論Ⅰ	米澤 義彦
76	自然系	33171000	地学実験法特論	小澤 大成,村田 守,香西 武,足立 奈津子
77	自然系	33173000	理科授業研究	早藤 幸隆,寺島 幸生,佐藤 勝幸, 香西 武
78	芸術系	34125000	音楽劇総合演習	真鍋 美恵
79	芸術系	34172000	歌唱表現演習	頃安 利秀
80	芸術系	34175000	室内楽（器楽）	森 正,山根 秀憲

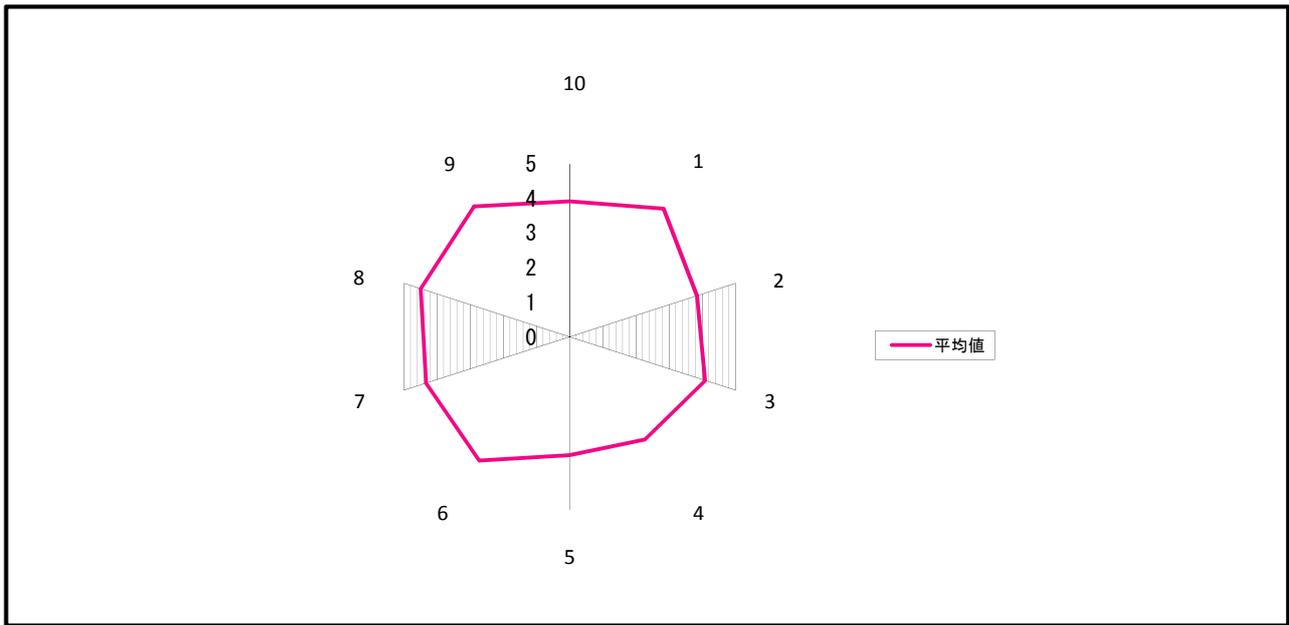
頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
81	芸術系	34212100	作曲法基礎演習	松岡 貴史
82	芸術系	34215100	音楽科授業研究	小山 英恵
83	芸術系	34225100	油画制作演習	鈴木 久人
84	芸術系	34228500	版画制作演習	鈴木 良治
85	芸術系	34229000	彫刻制作研究	野崎 窮
86	芸術系	35113000	映像デザイン演習	内藤 隆
87	芸術系	35115000	工芸制作研究	栗原 慶
88	芸術系	35116000	総合造形研究	高橋 耕平
89	生活・健康系	35117000	学校体育経営演習	藤田 雅文
90	生活・健康系	35120000	健康科学演習	廣瀬 政雄
91	生活・健康系	35129000	情報技術演習	菊地 章
92	生活・健康系	35130000	エネルギー工学研究	畑中 伸夫
93	生活・健康系	35131000	エネルギー工学演習	畑中 伸夫
94	生活・健康系	35171000	画像情報処理研究	伊藤 陽介
95	生活・健康系	35172000	デジタル制御研究	菊地 章
96	生活・健康系	35174000	情報応用演習	曾根 直人
97	生活・健康系	35211000	コンピュータ科学演習	宮本 賢治
98	生活・健康系	35222000	機械工学演習	宮下 晃一
99	生活・健康系	35227000	技術科教育演習	尾崎 士郎,宮下 晃一
100	生活・健康系	35273000	生活経営学演習	坂本 有芳
101	生活・健康系	35274000	衣生活学演習	福井 典代
102	生活・健康系	35276000	家庭科教育学演習	速水 多佳子
103	生活・健康系	36115000	家庭科授業・教材開発研究	坂本 有芳,福井 典代,松永 哲郎
104	国際教育	36117000	国際教育演習 I	近森 憲助,石村 雅雄,小澤 大成,石坂 広樹
105	国際教育	36120000	国際教育協力特論 II	小澤 大成,近森 憲助

頁数	科目区分	科目コード	科目名	担当教員名
106	国際教育	36121000	国際教育協力研究	石坂 広樹,近森 憲助
107	国際教育	36123000	国際教育協力演習	石坂 広樹,近森 憲助
108	国際教育	36131000	国際理解教育特論Ⅱ	近森 憲助,小澤 大成
109	国際教育	36133000	国際理解教育演習	近森 憲助,小澤 大成
110	国際教育	36171000	国際教育総合セミナーⅡ	近森 憲助,石村 雅雄,小澤 大成, 石坂 広樹

# 結果報告書

授業科目名 数学と芸術、そして科学の接点を  
探る  
 評価実施日 平成28年1月19日  
 担当教員名 佐伯昭彦, 胸組虎胤, 金児正史, 齋藤大輔 回答者数 12 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	5				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4	3		1	3.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	2		1	4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	4	1	2	1	3.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3	3	2	1	3.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3			1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	4	2			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	2			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	2	1			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	3	3		1	3.9



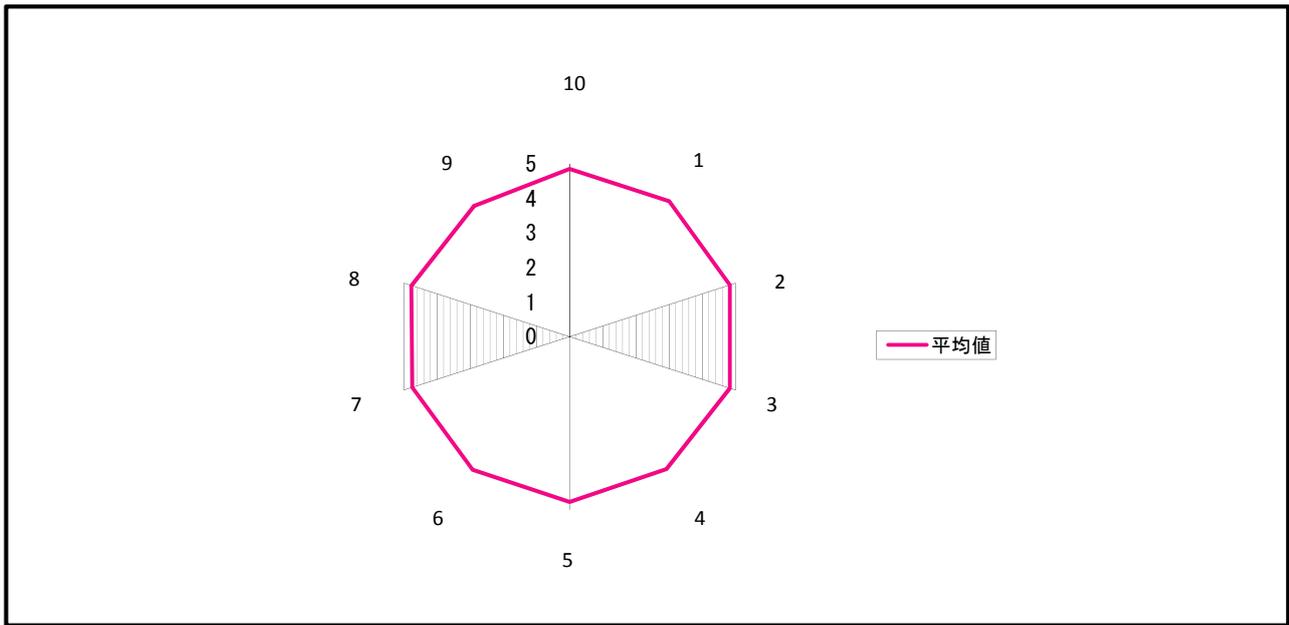
## 教員のコメント

3つの質問項目以外は4点台の評価で、総合評価は3.9あった。アンケート回答者12名という少ない人数であったことから、一人の学生が1を選択した項目のみが3点台という結果であった。実際に、この学生以外に1を選択した学生はいなく、この学生のデータを外して再計算すると、全ての項目が3.7~4.7で、総合評価が4.2の値となる。本授業は、芸術を通して数学や科学を眺めたり、数学や科学を通して芸術を眺めたりすることを通して、数学、芸術、そして科学間の接点を探り、教科領域を超えた幅広い知識を基にした教材開発と思考方法を高め、他者により良く伝えるサイエンス・コミュニケーターとしての力量を高めることを目的とした。授業の大半が学生の主体的活動を取り入れたアクティブ・ラーニングであったため、質問項目(9)が一番高い評価「4.7」を得ることができ、自由記述においても学生達が主体的・積極的に取り組んだ記述が見受けられる。前述の1を選択した学生も質問項目(9)では5を選択している。しかし、この学生の自由記述には「何をさせたいのかわからない。とりわけ、説明してください。準備してくださいばかりで、教材開発のやり方、方法に関する指導が一つないのはいかなものか」と記述しているが、この学生は本授業の主旨である学生の主体的な活動を重視したアクティブ・ラーニングの趣旨が理解出来ず、これまで学校教育で受けてきた教師主導型の授業を学生が期待していたことが大きな原因だと思われる。しかし、他の学生の自由記述には、本授業から得られた成果を高く評価する記述が多く、中には「可能ならば、また来年も受講したいです。」と記述した学生もいる。以上のことから、低い評価項目が幾つかあったが、学生達が犬塚国際美術館で説明した内容は、来場者のアンケートから推測すると非常に高く、学生達の教材開発や指導法の質向上に繋がった授業であり、本授業の目標は達成できたと考える。

# 結果報告書

授業科目名 伝統文化(音楽・美術)における表現の思想と技法  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 栗原慶, 遠藤綾子 回答者数 40 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	35	4	1			4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	34	5	1			4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	34	5	1			4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	32	5	3			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	32	7	1			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	31	8	1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	31	8	1			4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	32	7	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	30	7	3			4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	35	4	1			4.9



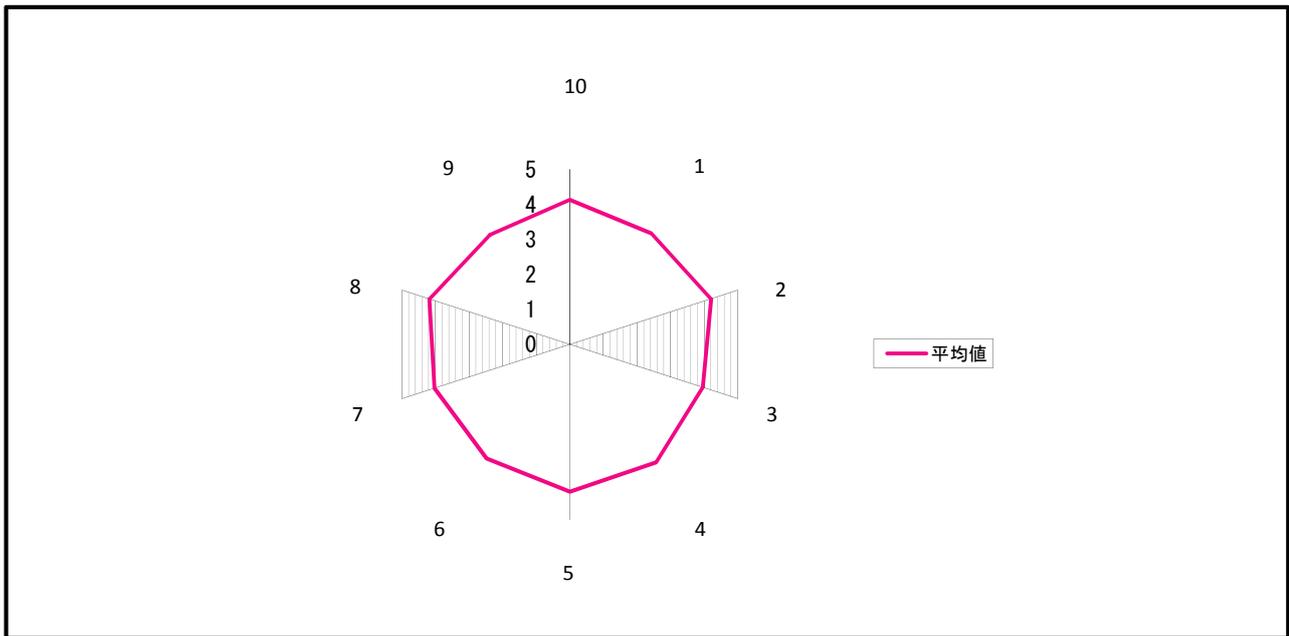
## 教員のコメント

音楽分野、美術分野を前半後半に分け、教員2名で担当する授業である。内容はそれぞれの専門領域の歴史や特質を講義で学び、実技を体験することでレポートにまとめることにしている。評価は総合評価が4.9であり概ね良好である。開設2年目となり、昨年に比べ運営にも慣れ、設備などの問題点も少しずつではあるが改善されている。これは昨年の総合評価が4.7である事からも読み取れる。評価コメントで、積極的に取り組めなかった理由として苦手意識というものがあつたので、そういった学生に対して授業の内容や進め方を検討し改善していかなければならない。一方で経験できなかったことが出来てよかったともあるので、座学だけではなく実技を体験することは、芸術文化へより関心を持つことができるようなきっかけとなっているようであり、今後も継続し、実感を伴うよう運営していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 子どもの規範意識の現状と課題  
 評価実施日 平成28年2月3日  
 担当教員名 曾根 直人, 池田 誠喜      回答者数 65 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	20	25	16	3	1	3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	28	24	11	2		4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	20	26	16	2	1	4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	25	28	10	1	1	4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	28	24	11	2		4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	25	21	14	5		4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	25	23	12	4	1	4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	33	18	8	5	1	4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	20	22	3	1	3.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	24	27	10	3	1	4.1



## 教員のコメント

講義の前半は情報化社会に必要な規範意識、情報モラルについて扱った。情報化社会の進展により、子どもでも常時インターネット接続された社会の中で気をつけるべき内容について取り上げた。ただし、より基礎的な部分を扱ったため直ぐに指導に活かせる内容は少なかった。授業評価のコメントでは「直接指導に活かせる内容」を希望していた学生もいたことがわかった。ICTに関連する知識は個人差も多く、どのようなレベルにあわせるか配慮が必要であるが、基礎知識と応用のバランスを再考したい。また、受講者が多く教室が狭かったため、映像資料が見えづらかったようである。こちらも今後は文字の大きさなど配慮したい。

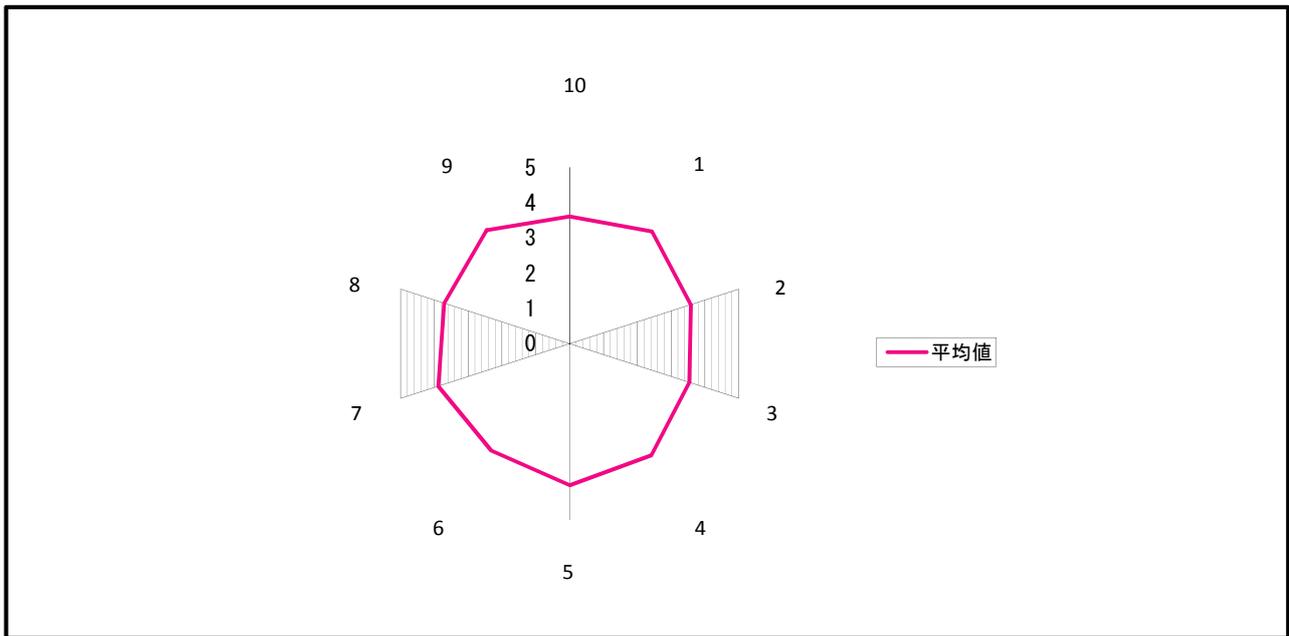
後半の講義は学校教育において規範意識に関わりの深い生徒指導、道徳教育などに活用することを踏まえて、幾つかの視点(心理学、哲学、教育など)から規範意識への理解が深まることを目指した。内容が拡散して受講者の理解が深まらなかったというコメントや授業資料の提示の仕方や教示がわかりづらいなどのコメントが見られことから、内容及び指導の方法について受講生の理解がより深まり学校教育活動に活用できると感じるよう改善したい。また、前半との関連がはっきりしないというコメントが見られたため、初回の説明や授業者担当者間の情報交換により改善したい。

# 結果報告書

授業科目名 コミュニケーションと言語・教育  
 評価実施日 平成28年2月3日  
 担当教員名 原 卓志, 畑江 美佳, 石濱 博之 回答者数 88 人

コ  
ニ

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	35	25	19	5	4		3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	23	23	8	8		3.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	21	30	20	9	8		3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	29	30	21	5	2	1	3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	33	28	22	2	2	1	4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	28	29	17	9	5		3.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	32	27	19	7	3		3.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	27	25	23	10	3		3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	31	32	20	2	3		4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	28	25	16	11	8		3.6



## 教員のコメント

コミュニケーション能力の基礎能力としての言語について考察することを通して、コミュニケーション能力育成のための手がかりを与え、  
 ともに、異文化間コミュニケーションに焦点を当てながら異文化理解と自文化理解について、さらに言語と国家、言語と教育など、多岐に  
 わたる話題を提供し、コミュニケーションと言語、コミュニケーションと教育に関わる問題について考えるヒントを受講生に与えることを目指  
 した。

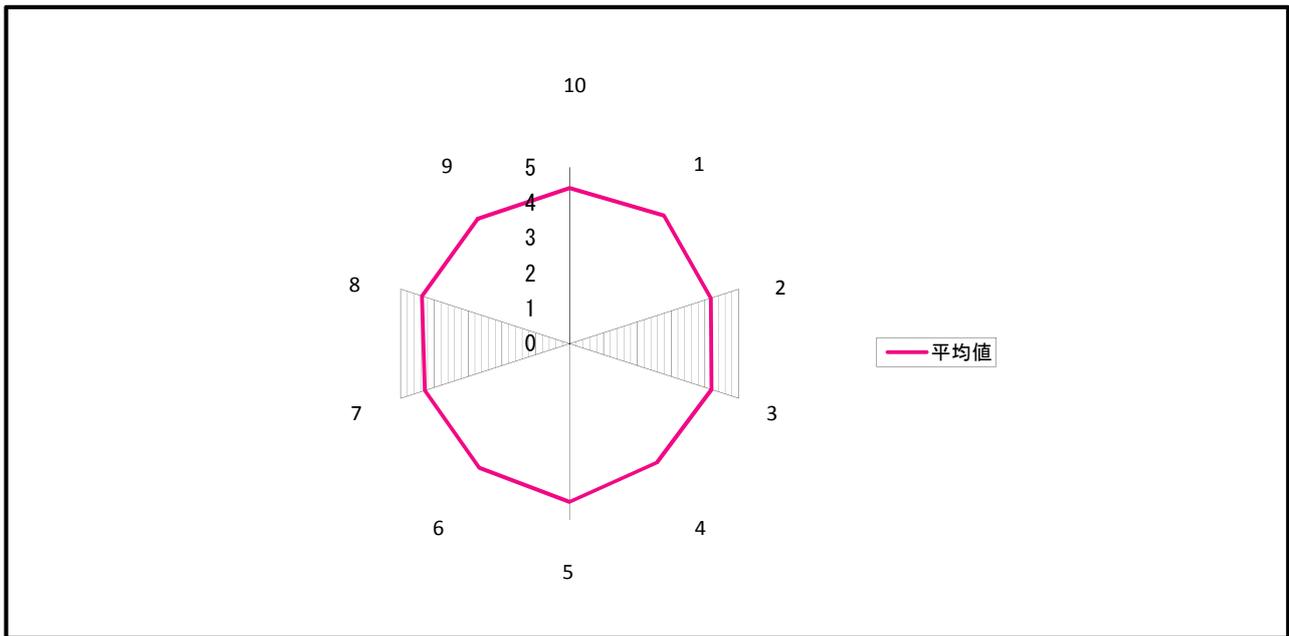
総合評価を見ると、5または4という比較的高く評価した受講生が53名あったのに対して、2または1と低く評価した受講生が19名あ  
 った。この点は、今後の授業展開において反省材料となるであろう。低く評価した受講生からの感想は、「何を目的として授業が進んでい  
 るのか、全く分からなかった」「やる気の出る授業内容ではなかった。大学が掲げている『広領域コア科目』の理想と実際の授業の現実が大  
 きな差がある。授業者からは「何をしたらいいのかわかんけど、とりあえず自分の専門のことをこじつけとけばいいか」という気持ちしか  
 伝わってこない。こんな授業ならいい方がいい」と厳しい。本授業は、授業担当者それぞれの専門分野の立場から、コミュニケーションと  
 いう大きな研究対象に切り込むことを通して、考えるためのヒントを与えることを目的とするのであって、何らかの問題についてその解答  
 を示すものではないことを、徹底して説明しておくことが必要であろう。また、1コマ毎の授業の目標を示すことも必要になろう。今一度襟  
 を正して取り組みたい。

高く評価した受講生からは、「コミュニケーションについて、国語と英語(言語)の観点から授業を受けることができ、新しい発見ができ、

# 結果報告書

授業科目名 教師のための声とからだことば  
 評価実施日 平成28年2月2日  
 担当教員名 頃安 利秀, 余郷 裕次, 綿引 勝美 回答者数 62 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	37	20	4	1			4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	29	24	3	3	3		4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	28	24	5	4	1		4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	26	25	7	3	1		4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	38	17	6	1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	33	20	6	3			4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	29	24	7	2			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	31	25	4	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	33	21	7	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	37	18	4	2	1		4.4



## 教員のコメント

この授業は国語、音楽、体育と異なるコースに所属する3人の教員によって行われるものである。そして授業名にあるように、「声」と「からだ」と「ことば」に視点を置いた教師としての授業力の向上を目指しており、授業の内容は実践的なものとなっている。この授業が知識というよりも教師の声やからだのあり方や使い方について理解し、自ら実践できるようになり、それを教師としての授業力につなげていくことを目標としている。

講義を中心とした一般的な授業形式のものではないので、成績評価に関して各教員によって異なる部分があることは否めない。しかし授業の進め方については、できるだけ受講生個々に対応しようとしており、いい評価(4.5)がなされていると考える。また授業に関する資料、板書、また視聴覚機器の使用等に関しては、各教員により夫々異なっており、評価が分かれるところでもあるが、授業概要では適切にこの授業の内容を表現(4.5)できていた。総合的な評価(4.4)は、それらの理由から適切な評価と考えられる。

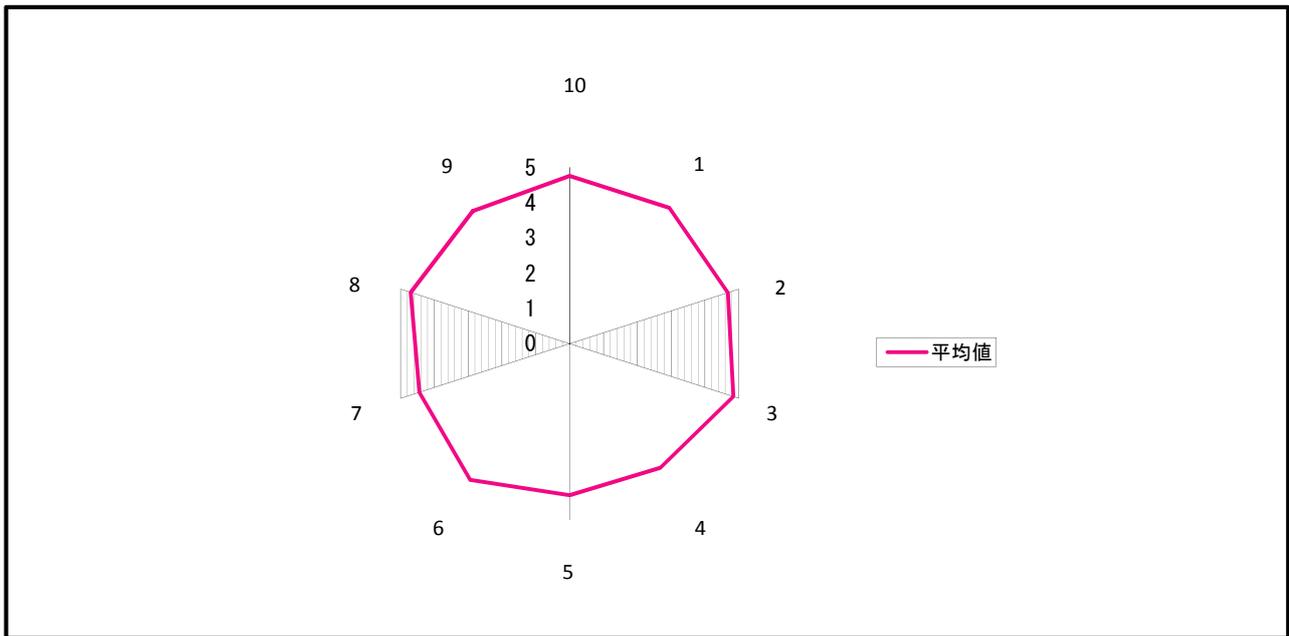
この授業でよかったと思われる点については、「教師の実践力につながることを学ぶことができた。」また「自分の声とからだことばに向き合うことができた。」との記述があり、教師としての実践力をつけるために、身体論に基づく授業内容の必要性が肯定的に評価されている。

今後も教師としての身体のあり方について、声とからだことばから追究する実践的な授業を心がけていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 学校危機管理研究  
 評価実施日 平成27年12月22日  
 担当教員名 阪根 健二, 竹内 和雄      回答者数 83 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	65	16	2			4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	62	17	3		1	4.7
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	71	11	1			4.8
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	38	30	11		4	4.3
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	40	27	14	1	1	4.3
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	65	15	2		1	4.8
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	43	33	6		1	4.5
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	61	18	3		1	4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	58	19	5		1	4.6
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	66	12	4		1	4.8



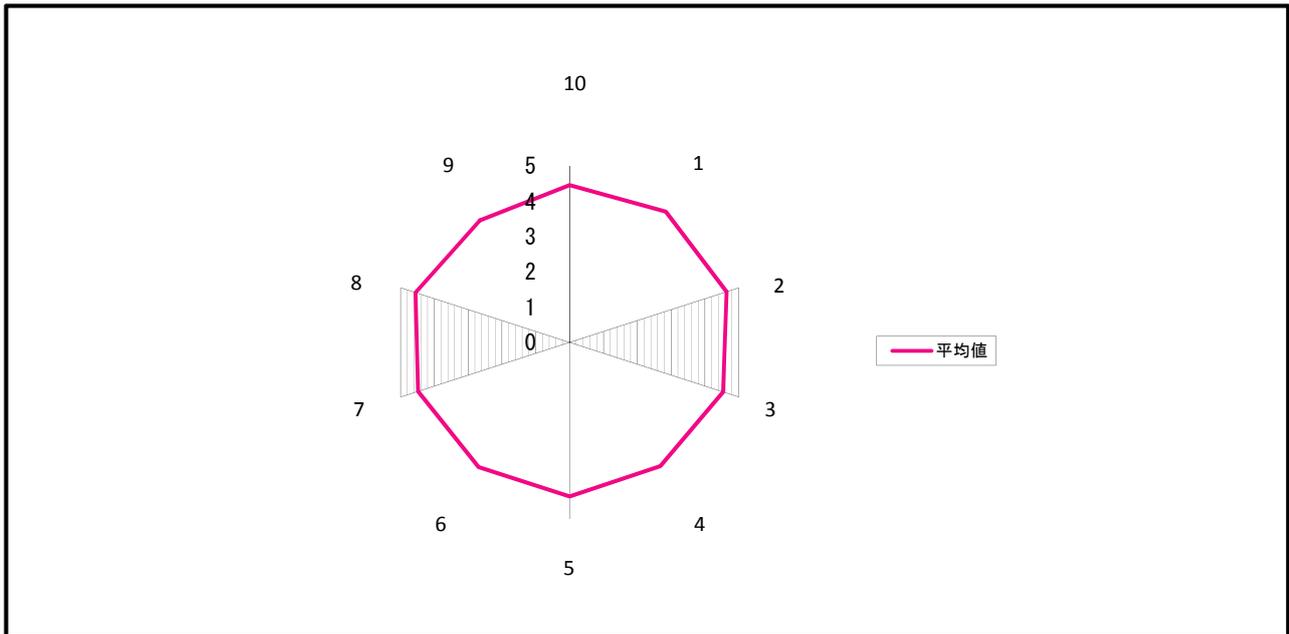
## 教員のコメント

非常に高い評価を得て、当初の目的は達成できたものと思われる。集中講座のため、やや過密な日程ではあったが、非常勤講師の竹内氏(兵庫県立大学)の授業内容やワークショップには、特に高い評価を得ており、今後も担当して欲しいという声が相次いだ。阪根が5コマ、竹内氏が10コマという設定で、多くの内容を扱ったことから、やや速いスピードであったことや、評価方法がやや不明であったといった自由筆記(改善点)もあったが、いずれも内容そのものについてではなく、今後、この授業の在り方については、やや余裕をもたせ、資料等への配慮があれば、こうした課題も解消できよう。ただ、大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件を扱う項目があり、厳しい内容を提示するため、これについてはさらなる配慮を考えていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 予防教育科学  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 内田香奈子      回答者数 39 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	27	8	4			4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	27	10	2			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	27	8	2	2		4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	22	9	7	1		4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	22	9	8			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	22	12	3	1	1	4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	25	9	4	1		4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	25	12	1	1		4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	19	12	8			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	12	3	1		4.5



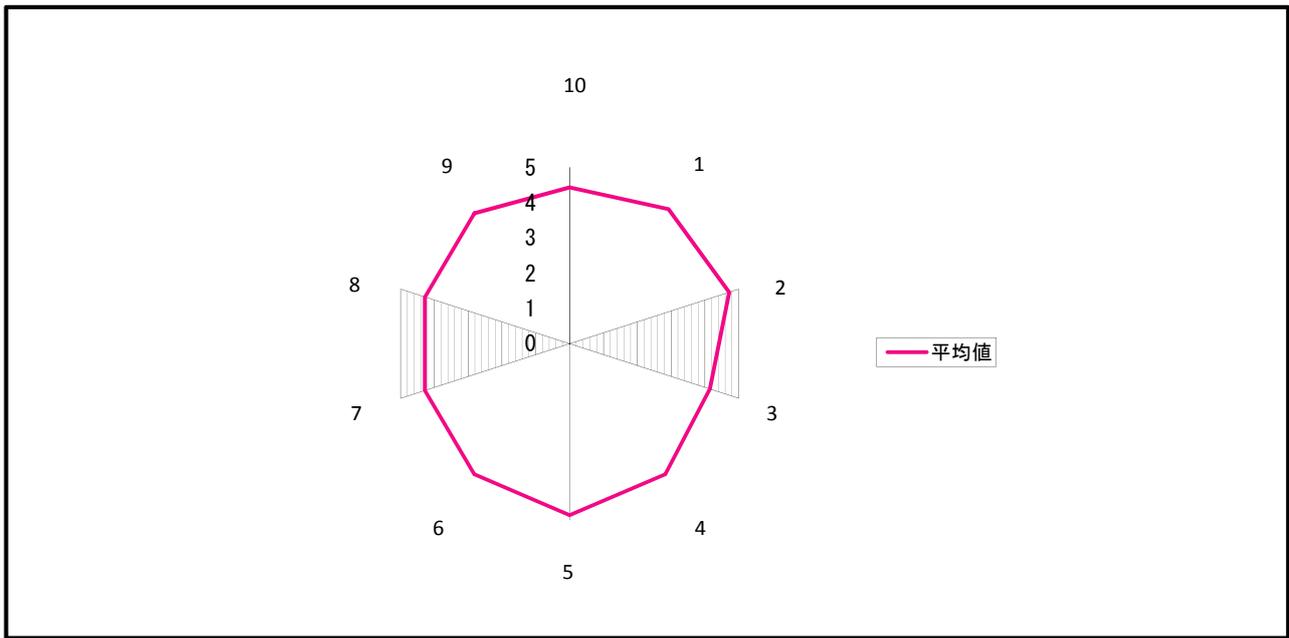
## 教員のコメント

総合評価は今回4.5の評価となり、概ね高い評価を得たものと思われる。昨年度は(9)の授業への主体性・積極性を問う項目が他の項目に比べ、数値が低かった。そこで、(1)ディベートなどへの参加度を高めることが出来るよう、発表しやすい雰囲気をつくる、(2)授業終了時に記載するコメントシートへの質問を、できるだけ次の時間の冒頭に取り上げて返答する、(3)関連する書籍や論文の紹介を行う、以上の3点を心がけた。その結果、ポイントが上昇し、コメント欄にも質問への回答があった旨や、自ら論文を読んだなどの積極的なコメントが見られた。ただし、質問を取り上げる時間を確保したため、全体の授業内容をスピードアップする必要があり、(5)の授業の進む速さに関するポイントへ影響が見られた。次回は、バランスを考えた授業展開を考えたい。また、(4)の成績評価の方法に関するポイントが昨年度よりも減少した。これは、初回ガイダンス時に実践フィールド研究等で多くの学生が欠席し、説明が行き届いていない可能性が考えられた。今後はすべての学生へ対応できるよう、配慮したい。

# 結果報告書

授業科目名 教育哲学演習  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 木内 陽一      回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1	1	1			4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	3					4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	3					4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	3	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	3					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	4					4.4



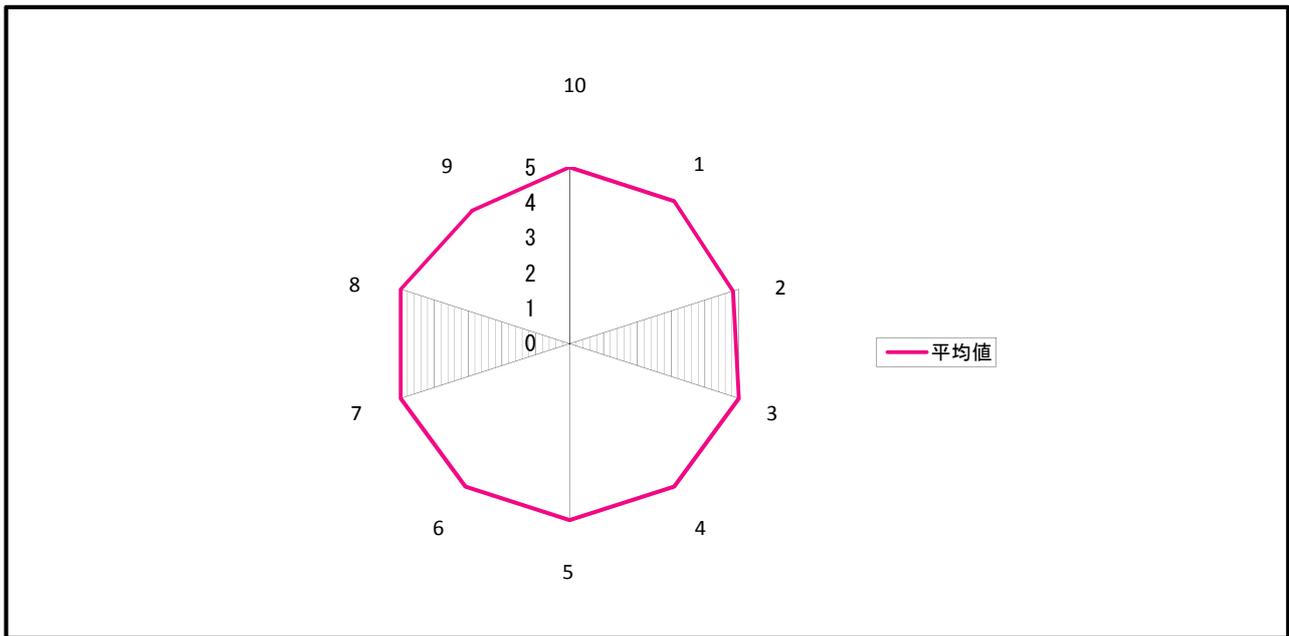
## 教員のコメント

今回のアンケート結果をうれしく受け取った。実践力との関係に関する点で、評価が低いのが、長い目で見てほしい。「実践」自体の概念がたいへん広いのであるので、この演習で学んだことが、いつ、どのレベルの実践で効力を持つのかは、今の時点ではわからない。おおむね高い評価を受けているのは、演習の方法を変えたことによるかもしれない。前年までは、毎回、ひとり、あるいは二人が担当してレジュメを作成して発表することになっていた。今年度からは、院生のHさんがまとめ役となり、毎回、何らかのコメントをメールでHさんに送り、プリントにまとめて、受講者全員で検討することにした。受講生の積極さが増し、議論にも深まりが見られた。今後とも、この形式で進めていきたい。本年からテキストを変更した。ザフランスキー『ドイツロマン主義』(法政大学出版会)である。理解には幅広い知識を要するが、受講者はよくついてきてくれたと思う。次年度以降も本書を読んでいきたいと思う。なお、本授業では、視聴覚機器は利用していない。

# 結果報告書

授業科目名 発達健康心理学演習  
 評価実施日 平成28年2月2日  
 担当教員名 山崎 勝之      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



## 教員のコメント

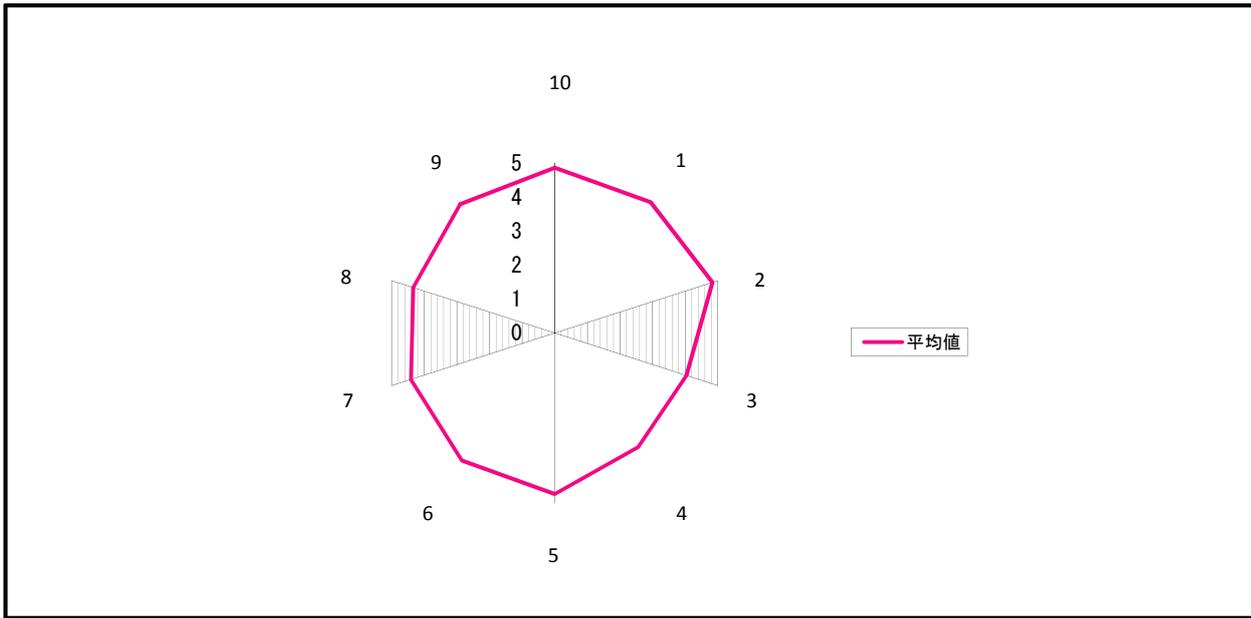
6名の演習なので、授業評価をとるべきか疑問に思うところがある。受講生とは密接に接したことから、この評価以上の情報を把握している。いずれにしても、受講生が素晴らしい態度で授業にのぞんでくれたことが特筆される。彼らの、ひたむきで、純粹で、学びへの前向きな姿勢が際立っていた。前期の授業「発達健康心理学研究」で目指していたことが、この授業で完結された印象をもつ。つまり、独創的に考え、その考えを主張する力の獲得である。大学院の授業はそのためにあるべきで、それが実現できたように思う。この受講生たちの今後の活躍に大いに期待したい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理学演習  
 評価実施日 平成28年2月18日  
 担当教員名 今田 雄三、葛西 真紀子、吉井 健治、中津 郁子、小倉 正義、久米 祐子、栗原 良達

回答者数 29 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	22	7				4.8
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	25	3	1			4.8
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	12	9	4	2	1	4.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	11	7			4.1
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	24	2	3			4.7
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	21	6	1	1		4.6
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	18	5	6			4.4
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	17	5	7			4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	20	9				4.7
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	25	4				4.9



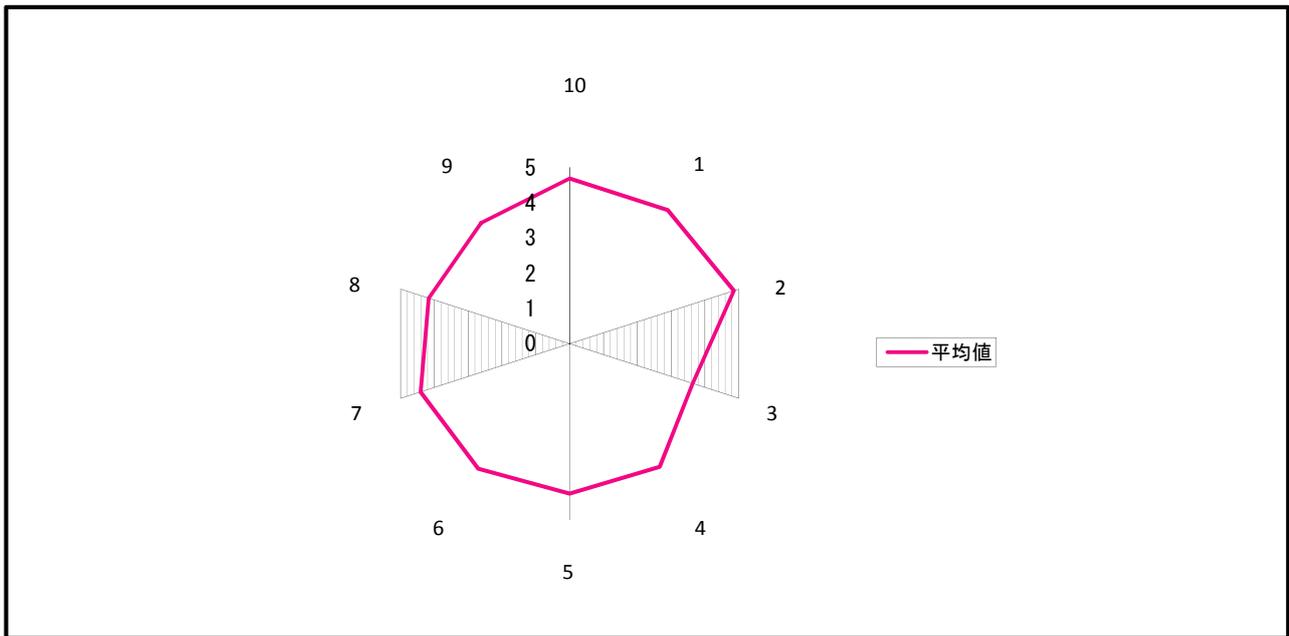
## 教員のコメント

質問10項中6項目での評価が4.5点以上、特に(10)の「この授業を総合的に評価するとよかったと思う。」の評価では4.9点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考えます。なお、質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しては、昨年度は唯一評価の平均点が4点を下回り3.9点であったものが、今回は4.0点に達していた。これは本授業で体験的に学んだ内容が、学校現場での相談活動、教員との連携における実践力と関連することを明確に伝えるように心がけたことの成果であると考えられる。なお自由記述では[4]の質問(9)「授業に主体的・積極的に取り組んだ。」について、あなたが回答を選択した理由について書いて下さい。の項目に多く回答が寄せられていた。その内容は「事前準備をした」「みんなで意見を出し合って討議した」「体験したことが他にも当てはまるのかを本で調べた」など、どれも主体的に授業に参加し、意欲的に学習内容を生かそうとする態度を示していた。今後も引き続き受講生への学習効果と満足が得られる授業となるよう、アンケート結果も活用し十分な配慮を心がけたい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理査定演習Ⅱ  
 評価実施日 平成28年2月17日  
 担当教員名 葛西 真記子, 今田 雄三 回答者数 29 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	20	9					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	26	2	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	6	10		3	1	3.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	14	10	5				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	15	8	4	2			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	16	8	5				4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	17	8	3	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	14	9	3	3			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	14	4				4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	23	3	3				4.7



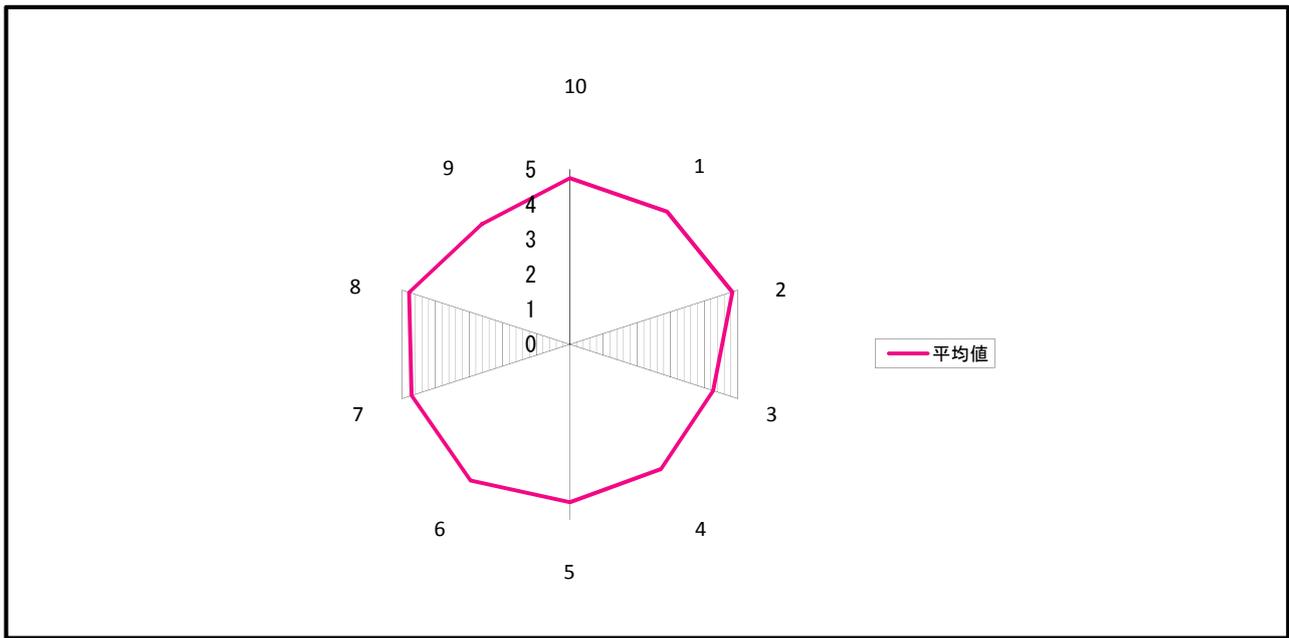
## 教員のコメント

総合的な本授業の評価は、4.7であり、毎年高得点である。特に、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。」において評価は4.9であり、ほとんどの受講生が、専門的知識を深めるのに役立っていると評価していた。評価が他の項目より低かったのは、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。」の項目で、3.6であった。本授業は、ロールシャッハという投影法の中でも専門的知識を有する検査法を指導しているため、担当教員も授業の中で、臨床心理士以外の学校現場の先生がこの検査法を実施することの危険性についても述べ、実施することがほとんどないと述べているのが、その理由であると思われる。この項目は、毎年、他の項目より低い評価であるが、本講義の内容を考慮すると適切な評価であると思われる。自由記述項目からは、「この授業でよかったと思う点」は、事例に基づいてロールシャッハ法について学べること、専門的知識を学べたこと、実践に使えるように学べたこと、実際に検査を実施し、解釈をするという一連の流れで学習できたことなどが挙げられていた。この授業で改善すべき点については、時間数が足りない、一時間ごとの時間配分と内容の設定を改善してほしいということであったが、後者については、これは、時間配分を増やす、内容を増やすということなのか、スピードが速い、内容が多すぎるということなのか、判断がつかないが、「(5)進む速さは適切であったか」の評価が4.2であることから考えると、少しスピードが速くついていけない受講生もいたのではないかと思われる。これは、受講生の予習・復習の徹底を行うことで改善をしたい。「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだか」については、難解なロールシャッハを予習・復習をしながら取り組んだ、熱心に取り組みました、難しいなりに取り組んだ、と積極的に取り組んでいる姿勢がみられた。また内容的に事例の解釈が実践に結びつくと思

# 結果報告書

授業科目名 心理療法研究  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 古川 洋和      回答者数 25 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	19	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	20	4				1	4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	3	5		1	2	4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	8	3			2	4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	10	1			1	4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	19	5				1	4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	17	7				1	4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	19	5				1	4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	11	8	5			1	4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	18	6				1	4.8



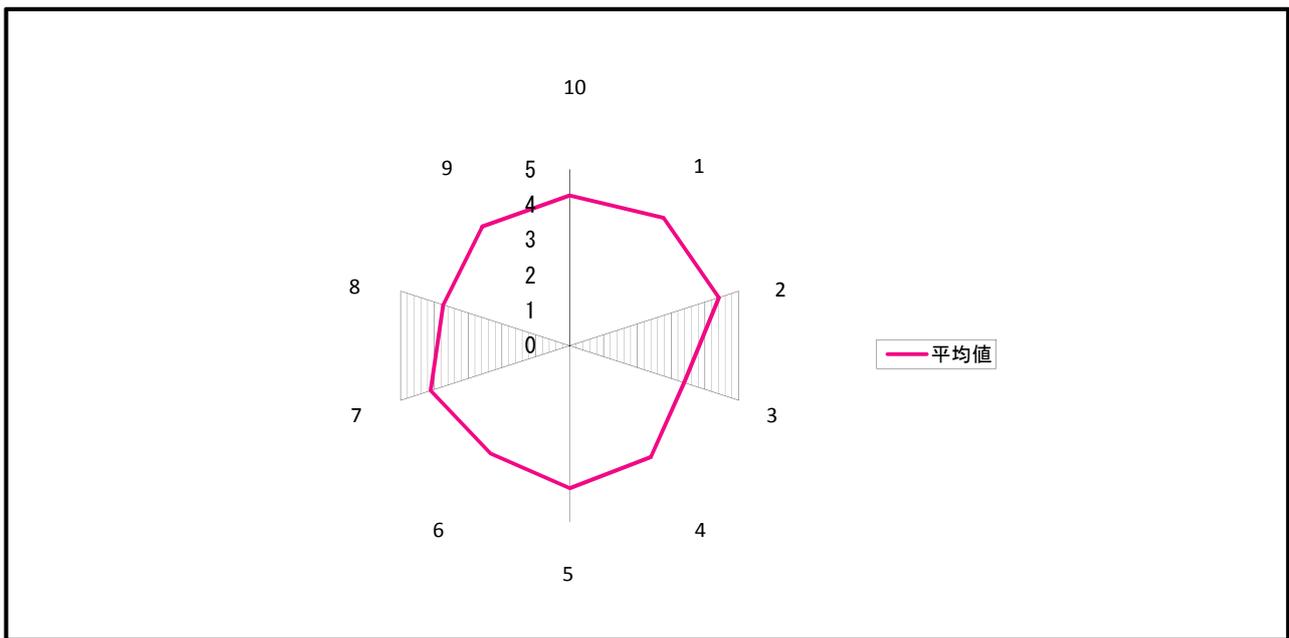
## 教員のコメント

総合評価の平均値は「4.8」であり、大学院生からの高い評価が得られたと考えられる。項目(3)においては他項目の平均値よりも低い値となっているものの、本講義は心理師としての実践力向上を目的としているため、当該項目自体が本講義の評価項目として妥当性に欠けていると考えられる。また、改善が必要な点に係る自由記述欄において本講義に対するコメントが一切記述されていなかったことから、受講者にとって有益な内容を提供できていると考えられる。したがって、次年度以降においても本年度と同様の講義形態ならびに講義内容にて本講義を実施する。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理面接研究 I  
 評価実施日 平成28年1月19日  
 担当教員名 中津 郁子, 久米 禎子 回答者数 27 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)	
	5	4	3	2	1	N.A		
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	15	10	2			4.5	
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13	12	2			4.4	
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	5	12	3	1	1	3.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	8	5	4			3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	13	5	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	13	5	2	1		3.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	15	3	1			4.1
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	14	7	2			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	14	4				4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	15	1	1			4.3



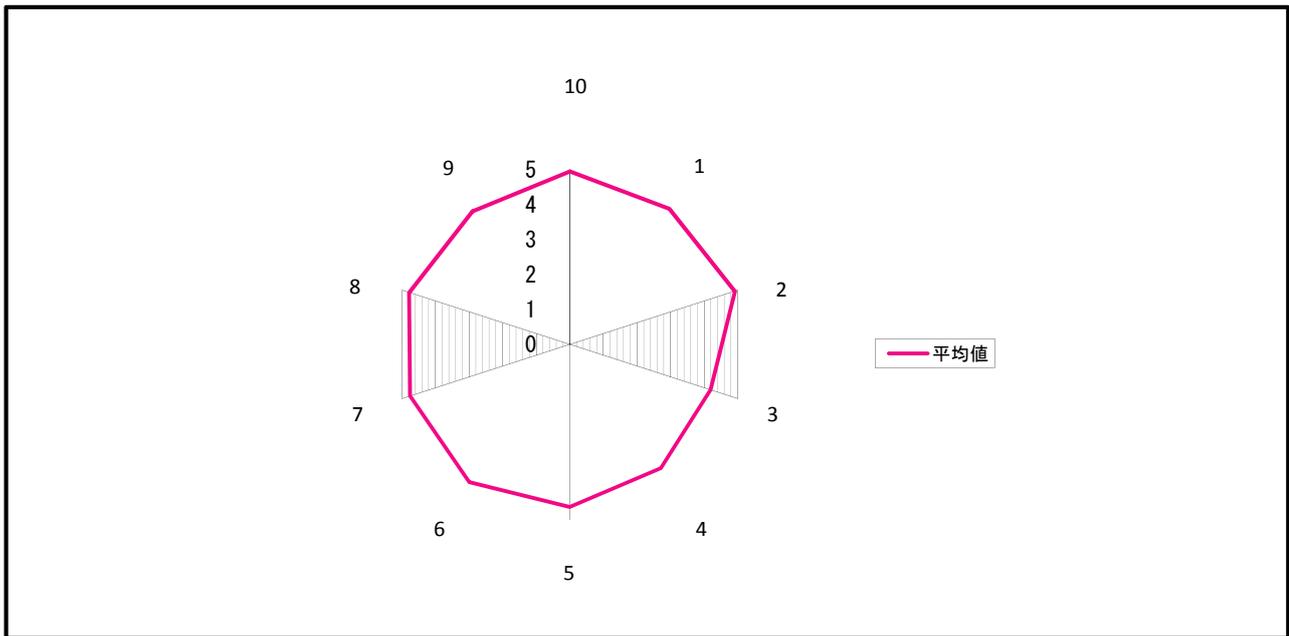
## 教員のコメント

この年度の授業は前年度までのやり方と変更をした。前年度までは、前半の担当者は講義形式で、後半の担当者は学生たちによる調べ学習形式による授業として行っていた。しかし、今年度はいずれも講義形式として演習も取り入れ、振り返りシートにより学生の反応を確かめつつ行った。昨年度は総合評価が4.7であったが、今年度は4.3に下がった。3点台の項目を見てみると「(3)教師の実践力の育成につながる内容」の項目であるが、これは、毎年3点台である。次いで、「(4)成績評価の方法の説明」、「(6)受講生に分かりやすく説明」、「(8)板書や視聴覚機器の使用」に関する項目が3点台であった。この年度は成績評価に初めて試験を行ったため、その評価に関する説明が不十分であったかも知れない。次年度の課題である。また、受講生にわかりやすい説明や視聴覚機器の使用については今後検討していきたい。[2]よかった点としては、「改めて基礎を学ぶことが出来た」、自分の足りない点や聴くということについて「考えることが出来た」ことや、「参考文献の紹介や絵本の紹介」がよかったこととして挙げられていた。[3]改善すべき点では、「問いに対しての模範解答がほしかった」という意見が見られていた。[4]授業への取り組みについて、回答を選択した理由に関して、「積極的に取り組んだ理由として」は、よくわからないことに対して、「積極的に本を読んだり」「考えたり」が出来たことや、授業が「興味・やる気のわいてくる内容だった」、自分の「実践力をつけるためにしっかり取り組むことができた」などが記載されていた。[5]その他、感想等のところで、「学生同士の話し合いがもっと欲しい」との意見が見られた。総合的に、前年度までの授業の在り方を変更したことが影響したのか、これまでと比べて総合評価はやや低くなったが、授業に関する満足度にはそれほど違いはないように考えられる。今後は更に授業内容・方法を工夫していきたい

# 結果報告書

授業科目名 学校精神保健学演習  
 評価実施日 平成28年2月5日  
 担当教員名 今田 雄三      回答者数 33 人

質問項目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	26	7					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	30	3					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	16	8	7		1	1	4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	15	15	3				4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	24	6	3				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	28	5					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	27	4	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	27	5	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	24	8	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	31	2					4.9



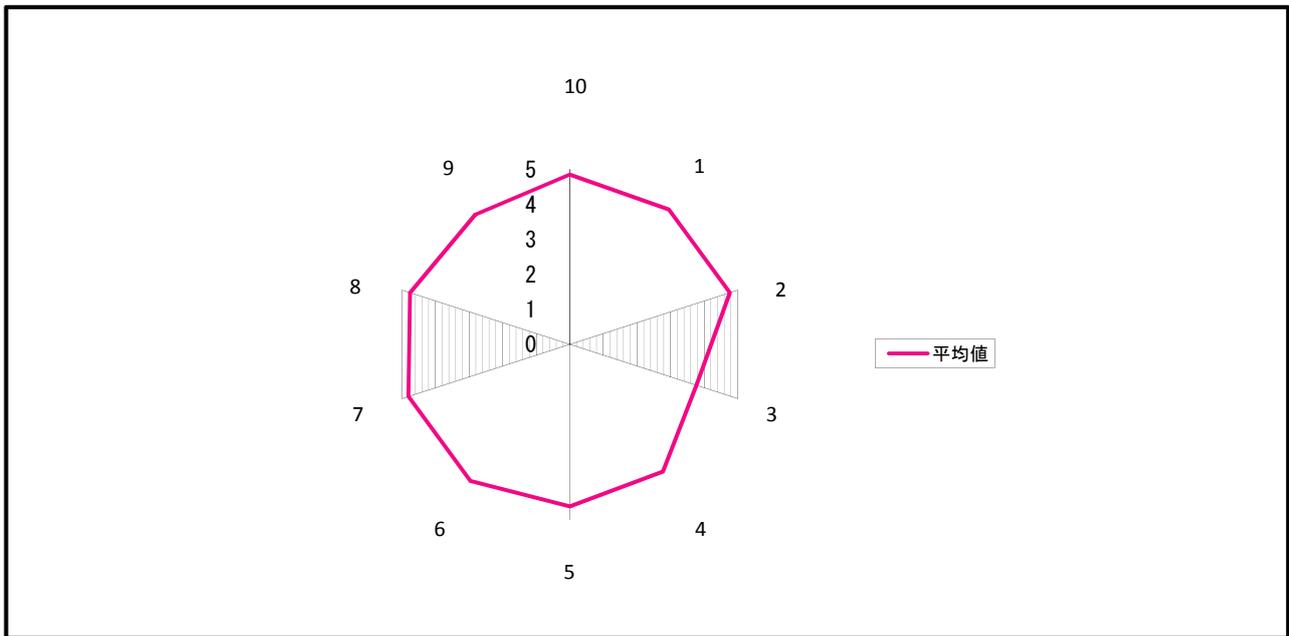
## 教員のコメント

質問10項目の8項目において評価の平均値が4.5点以上であった。特に(10)の「この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。」の評価では4.9点と評価されており、受講生からきわめて高い評価を得られたものと考えられる。なお質問項目(3)の「教師の実践力の育成につながる内容であった。」に関しては、今年度授業の課題の中に「医療機関と学校との連携の実際」に関する演習を含めていたにもかかわらず、評価の平均点が4.2点と、昨年度の評価である4.3点からやや低下していたのが意外であった。次年度は臨床心理士の実践の場として重要な位置を占めている学校現場でのアセスメント、相談活動、教員との連携についての知識・実践力の養成という観点を強調し、本授業が教師の実践力育成につながる内容であることを周知するよう心がけたい。なお、授業の改善点として自由記述に、少数ながら授業配分に関する意見が寄せられていたが、内容は「人見知りなのでディスカッションの時間がしんどい」「時間配分に困る時があった」という意見があった。いずれもグループ学習の際に工夫すべき課題であり、グループの雰囲気作りや進行上の工夫などを適宜試していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 臨床心理学統計法  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 古川 洋和      回答者数 21 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	16	5					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	16	5					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	7	6	1	1		3.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	12	7	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	13	8					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	17	4					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	17	4					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	16	5					4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	13	7	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	17	3				1	4.9



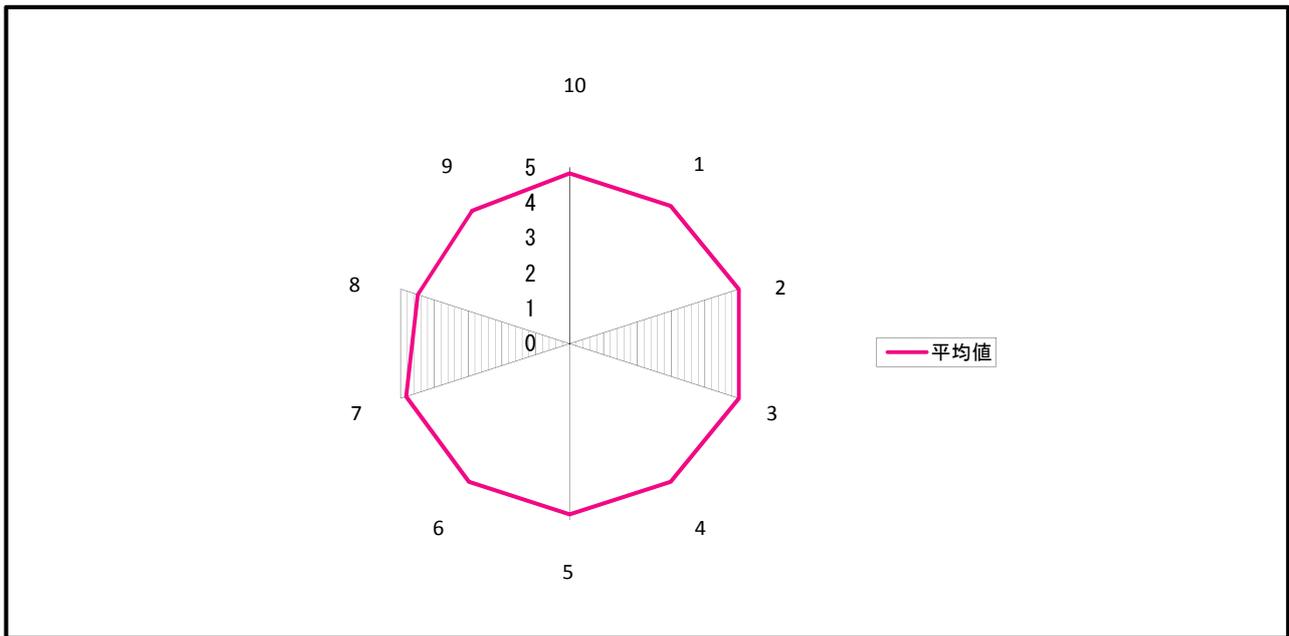
## 教員のコメント

総合評価の平均値は「4.9」であり、大学院生からの高い評価が得られたと考えられる。項目(3)においては他項目の平均値よりも低い値となっているものの、本講義は心理師としての実践力向上を目的としているため、当該項目自体が本講義の評価項目として妥当性に欠けていると考えられる。また、改善が必要な点に係る自由記述欄において本講義に対するコメントが一切記述されていなかったことから、受講者にとって有益な内容を提供できていると考えられる。したがって、次年度以降においても本年度と同様の講義形態ならびに講義内容にて本講義を実施する。

# 結果報告書

授業科目名 幼年期福祉演習  
 評価実施日 平成28年1月28日  
 担当教員名 木村 直子      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	1			4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1				4.8



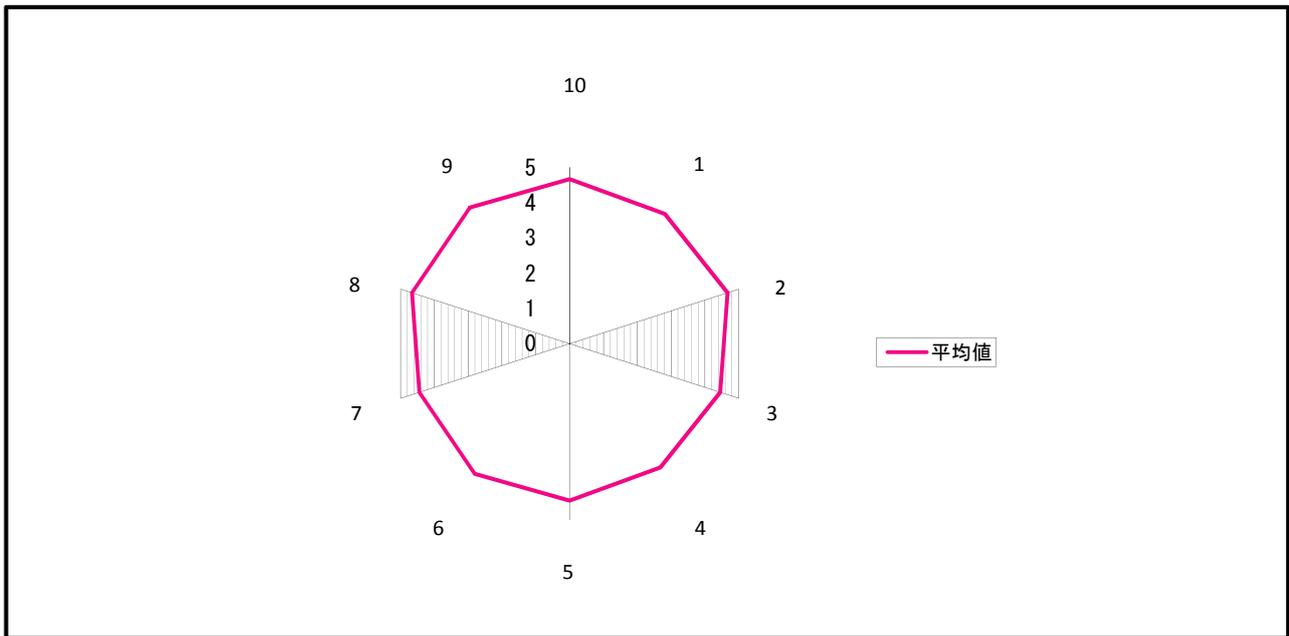
## 教員のコメント

今年度もさまざまなコースの院生に受講していただいた。昨年同様、演習は大きく2つの側面から構成した。1つは、具体的なケースについての処方箋や援助の方針を考える事例研究、もう1つは、援助や援助者の価値に関わる古典を読み深めるレビュー研究である。とりわけ具体的な事例を扱い、その援助内容、援助方針についてのアクティブラーニングでは、受講した院生同士が積極的にディスカッションを行う場面も多く見られた。そのことが、アンケートの自由記述式部分において、授業に対する肯定的な意見が多くみられ、積極的に授業に挑めたという回答につながったと考えられる。また自由記述部分には、予習・復習・授業外学習につながったという回答も多く、院生の主体的かつ積極的な取り組みにつながる可能性を広げることができたのではないかなと思う。しかし、板書や視聴覚資料の使用については、改善の余地があると思うので、次年度の課題としたい。

# 結果報告書

授業科目名 幼年発達心理演習  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 田村 隆宏      回答者数 9 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	4					4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6	3					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	3	1				4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	2	2				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	5					4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	4					4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	3	1				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	3					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3					4.7



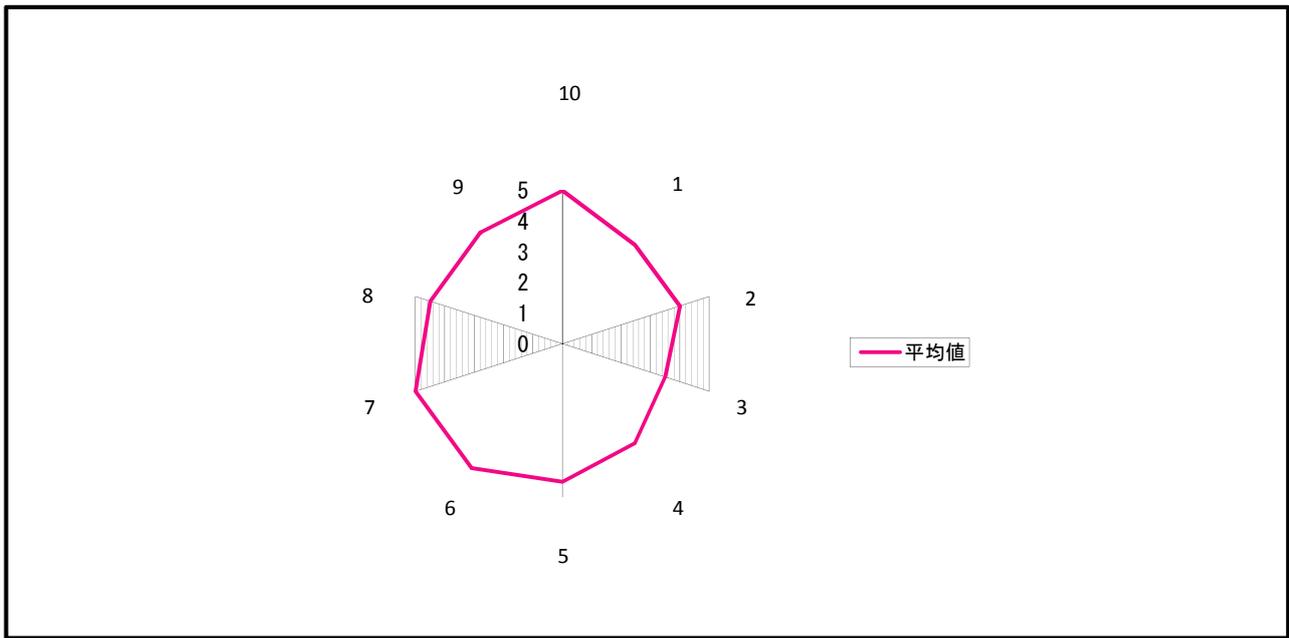
## 教員のコメント

各項目の評定値をみると、ほとんどの項目が4.0以上であり、概ね良好な評価を受けている結果となった。ただし、いくつかの項目において少数ではあるが、評定値として3にチェックした受講生もみられたことから、各項目の内容についてさらに改善を図ることも必要である。今後の授業では特に内容に関してはより教師の実践力に関わるものに焦点化させること、成績評価の説明をより具体的にわかりやすくすること、配付資料をわかりやすいものにするのが改善すべき点である。自由記述をみると、「ディスカッションで自分の意見が言え、他の人の様々な意見を聞きながら、さらに考えを深めることができたのがよかった。」といった討論形式を高く評価する意見が多かったことから、さらにこの形式を精練させる必要があると考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 幼年発達と幼児教育内容論演習  
 評価実施日 平成28年1月27日  
 担当教員名 塩路 晶子      回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。		2					4.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1		1				4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		1	1				3.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1		1				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



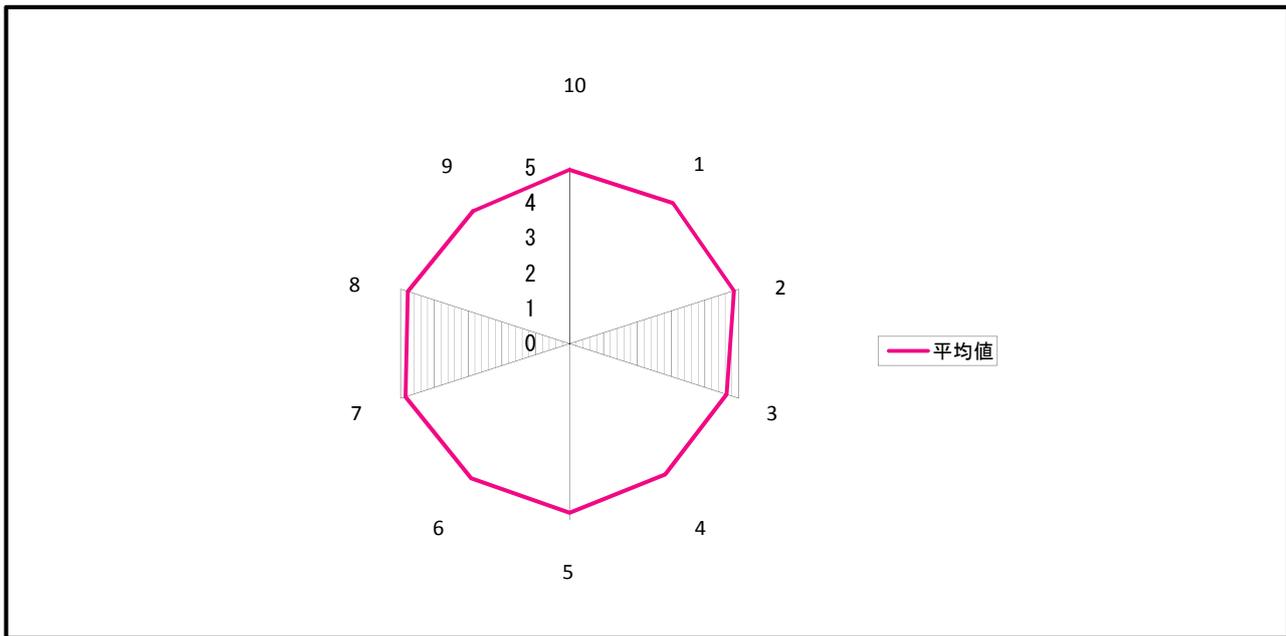
## 教員のコメント

本授業は、幼児教育内容についての文献研究の手法を学び、自らの問題意識を深めることを到達目標としている。授業評価アンケートにおける自由記述の中でも、受講生が主体的に文献を読みまとめ、他者に伝えるというプロセスを通して自らの理解がより深まったとの記載があり、到達目標はおおむね達成することができたと考えている。今後も幼児教育実践につながる思想的・歴史的背景に関する文献等も取り上げていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 現代総合学習論  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 小西 正雄, 谷村 千絵 回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13		1			4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	1	2			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10	2	2			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12	1	1			4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	12	2				4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12	1	1			4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	5				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	13	1				4.9



## 教員のコメント

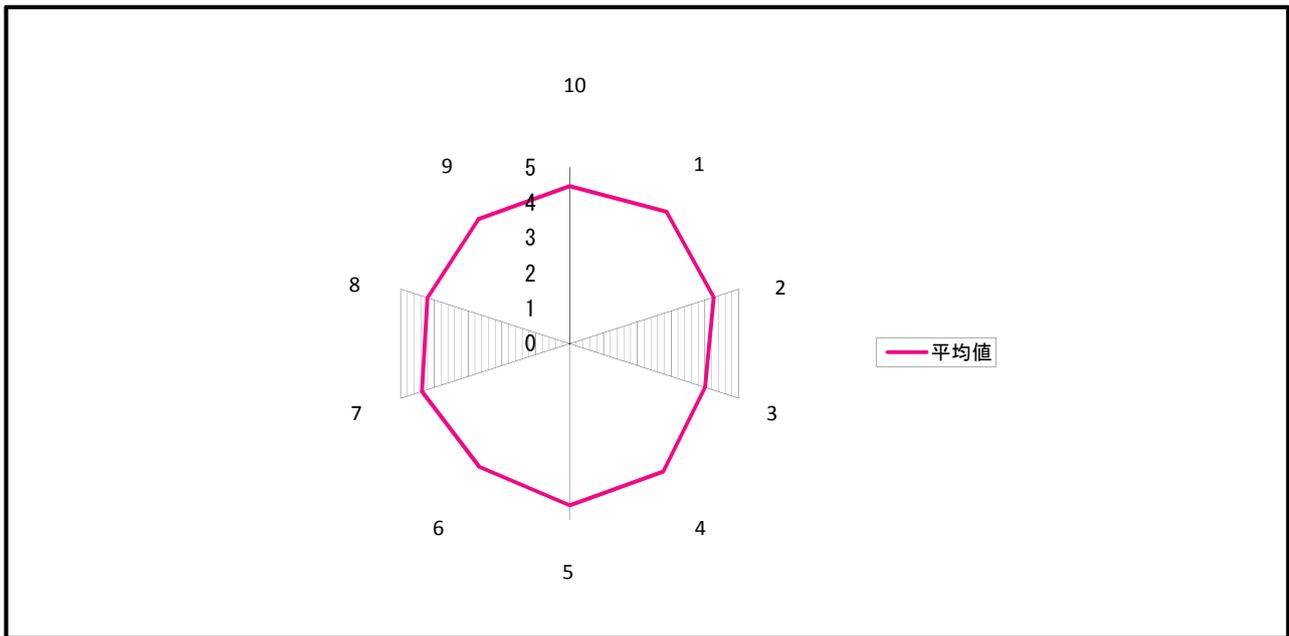
おおむねよい評価であった。自由記述欄のコメントは以下の通り。

良かった点: 思考が深化した。子ども時代とは？教員とは？について、考えることができた。  
 主体的、積極的に取り組んだ理由: 先生の力。すごく考えた。  
 その他: お二人の先生に感謝申し上げます。

# 結果報告書

授業科目名 現代教育人間論  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 谷村 千絵, 近森 憲助, 太田 直也, 田村 和之 回答者数 19 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	13	5	1				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	8	8	3				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3	8				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	6	2				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	8					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	11	1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	8	2				4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	9	5	5				4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	10	1				4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10	8	1				4.5



## 教員のコメント

おおむね、よい評価であった。授業の趣旨や面白さはよく理解していただけたと思われる。教育実践に直接結びつかない内容なので、(3)の点は妥当である。板書や視聴覚機器の利用について、3をマークした人が多かったので、次年度は気を付けたい。

自由記述のコメントは、以下の通り。

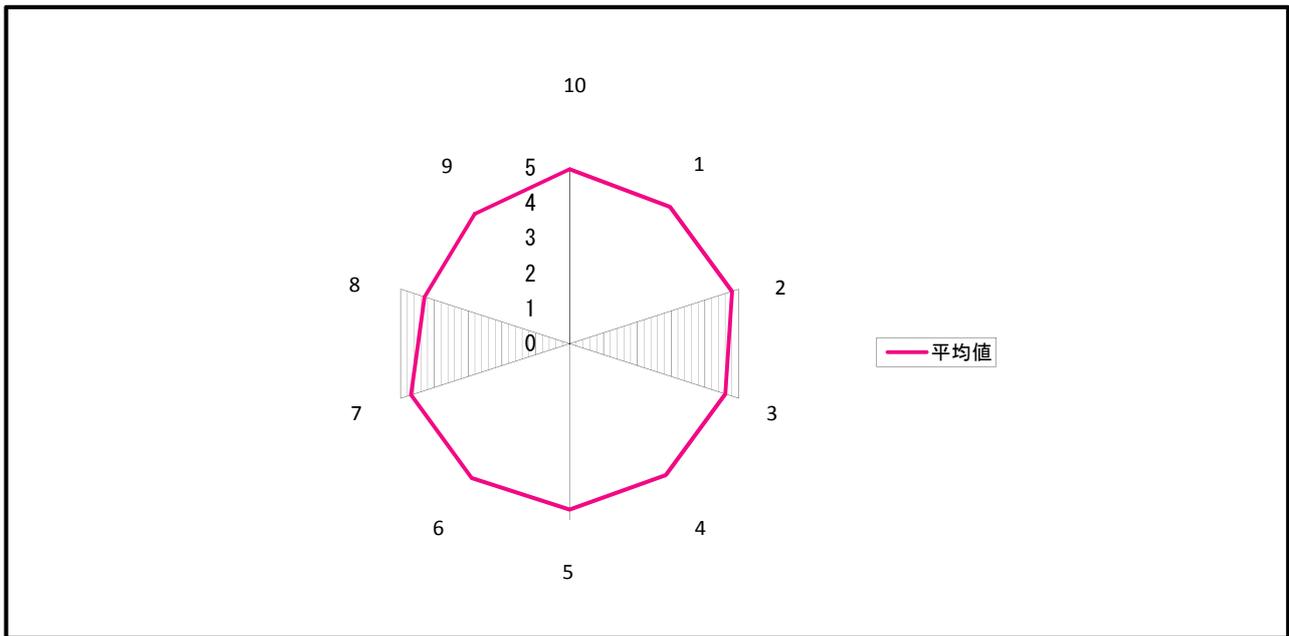
全体的に難しかったが、のちにいろいろと調べてみようと思った。参加できる日は毎日出席した。人とかかわり方について考える機会となった。哲学は苦手だが、図にして考えを描いたり少しでも頭に入りやすいように説明して下さったので、自分なりに考えることができた。いつもとは違う視点での示唆があった。難しかったので、よく聴いた。刺激とマインド。改善点として、タイムリーな思いや疑問を投げかけるような仕組みがあると、さらに生きた学びがあると思われる。思考した。普段考えないことを、一生懸命考えた。高度な学問や思考に触れることができてよかった。興味をもって取り組めた。

下線部に示されるように、授業中にタイムリーに対話をしたいという要望もあるので、来年度は授業時間内の質問を受けつけるなど、工夫を試みたい。

# 結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーション I (基礎研究)  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 谷村 千絵, 金野 誠志      回答者数 20 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	16	4					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	17	2	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	14	4	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	13	6	1				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	14	6					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	15	4	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	16	2	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	11	4	5				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	7	1				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	18	1				1	4.9



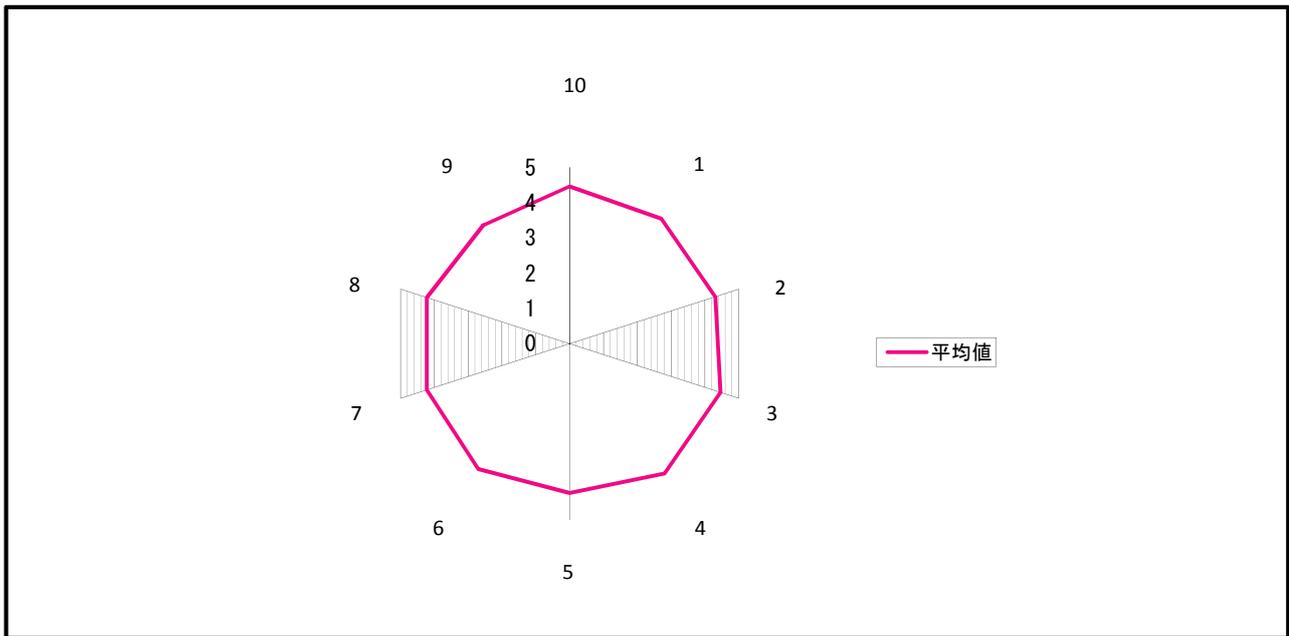
## 教員のコメント

おおむね、よい評価であった。  
 自由記述のコメントは、数多くあったが、一冊の本を、全員で読んで、グループで内容を話し合う活動について、興味をひかれた、頑張った、いろんな意見があって考えたなど、積極的な意見がほとんどであった。ポストマンの本自体の面白さに引き込まれたという感想も複数あった。本授業のスタイルは、本を読んで話し合うという、高等教育としては基礎的なものにあたると思われるが、こんな面白さがあることに初めて気が付いたという意見も散見された。欠席者へのフォローについて、改善を求める声があったので、次年度は、欠席したもののフォローを行いたい。

# 結果報告書

授業科目名 人間とコミュニケーションⅡ(実践研究A)  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 金野 誠志, 小西 正雄      回答者数 13 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	4	2			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	4	1	1		4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	5	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	6				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2	4			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	4	2			4.4
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	4	3			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	3	2	1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	9	1			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	5	1			4.5



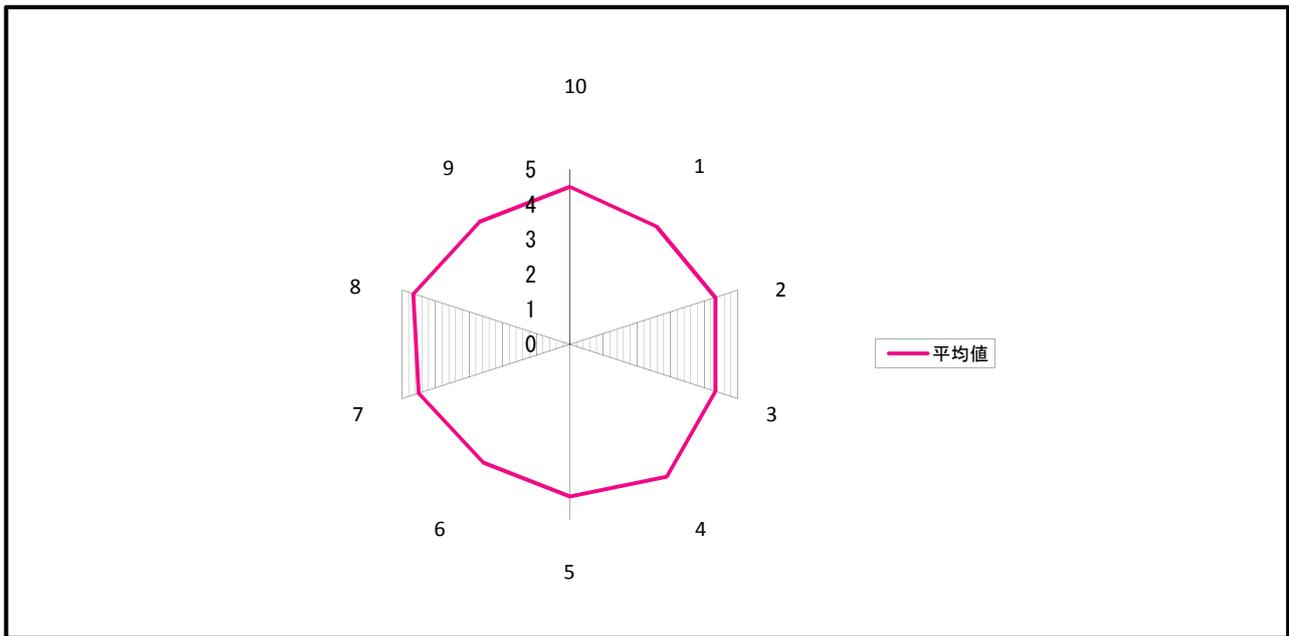
## 教員のコメント

本授業は、今年度、現職教員が受講者の約1/3を占め、それ以外の院生が現職教員から学ぶよい機会であった。グループワークも、各グループに現職教育を配置し、知識や技能の共有を図る場を随所に設けた点などは、好意的に受け止められていると考える。しかし、現職教員とそれ以外の院生のレディネスや学習意欲、興味関心の差は大きく、現職教員以外の院生はどうしても授業内容をフォローするためには、主体的な学習が必要であったことも確かである。また、ワークショップ型の授業をほぼ全ての時間で行ったため、そういう授業になれていない院生(特に、現職教員以外)にとっては、より一層の主体性を要求されていると感じたというように考えている。大学院であるので、単に、受動的に知識を得る場ではなく、自らの主体性が必要なことは、事前に今まで以上に説明が必要だと考えているが、概ね、総合的評価では、肯定的に捉えられていると受け止められるため、基本的には、このような内容や方法を継続しつつ、その年度の院生の状態にも応じるような形で次年度も進めていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 人間と環境 I (基礎研究)  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 田村 和之      回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	2				4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	2	1				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4		2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	2				4.2
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5		1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1	1				4.5



## 教員のコメント

本年度の授業では受講生が6名であり、半数近くが本授業で初めて「環境教育・ESD」に触れるという状況であった。その結果、内容についても基礎的なことを再確認してから環境教育関係の教材関係について学生中心(アクティブ・ラーニング)的な授業展開を心がけた。

授業では学生にそれぞれの出身地域の特産品や文化などを環境教育の教材としてどのように使用するかを発表してもらい、その後ディスカッションを通して同改善するべきかであったり、他にどのように使用できるかということ話し合いながら学べるように授業展開を行った。

また、発表自体についても指導を行い、見やすいスライドの作り方や、発表方法などの指導も加えるよう心がけた。

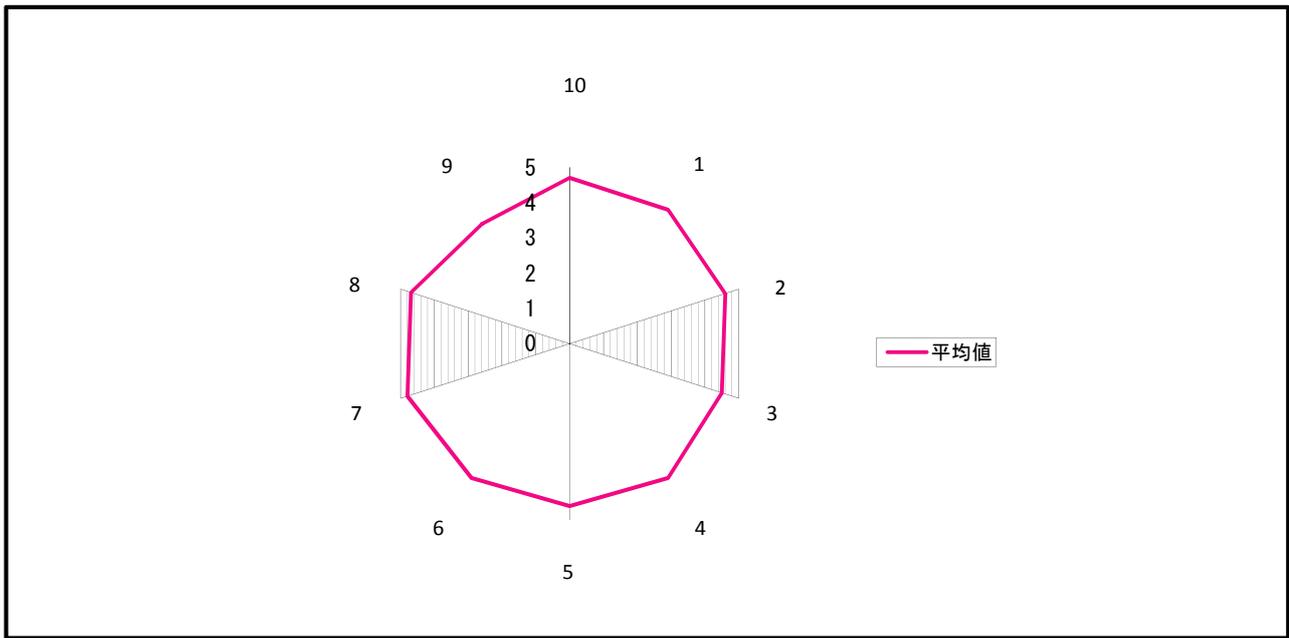
細かい評価では3が付いたりした箇所もあるが、総合評価では6人中4人が5点をつけたことを考えると、多少の改善を心がける必要はあるかもしれないが、全体的な授業の構成や方向性は受講生にとって有益なものであったと考える。

来年度も受講生に好評課を得られるような授業を展開して行きたいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 現代の諸課題と学校教育Ⅱ  
 評価実施日 平成28年2月22日  
 担当教員名 小西 正雄                      回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	3	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1	1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	1		1		4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1	1			4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	4	2			4.2
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7	3				4.7



## 教員のコメント

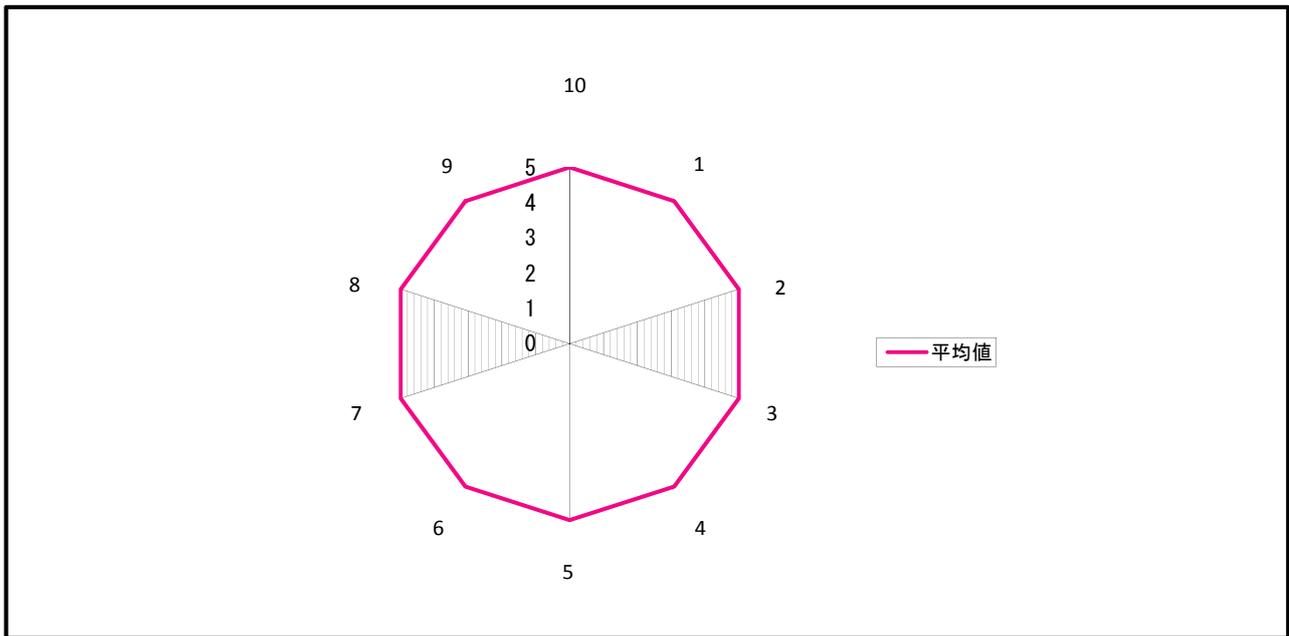
今年度は、例年になく受講生が少ないなかでの展開となり、困難な部分もあったが、平均4.7という好評価を得たことは幸いである。記述評価には「理解が難しかった」という指摘が1例あった。受講生のレディネス格差が大きい以上、このような指摘が出ることもやむを得ないといえるが、なお一層、改善に努めたい。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育コーディネーター実践論  
 評価実施日 平成28年2月2日  
 担当教員名 井上 とも子

回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



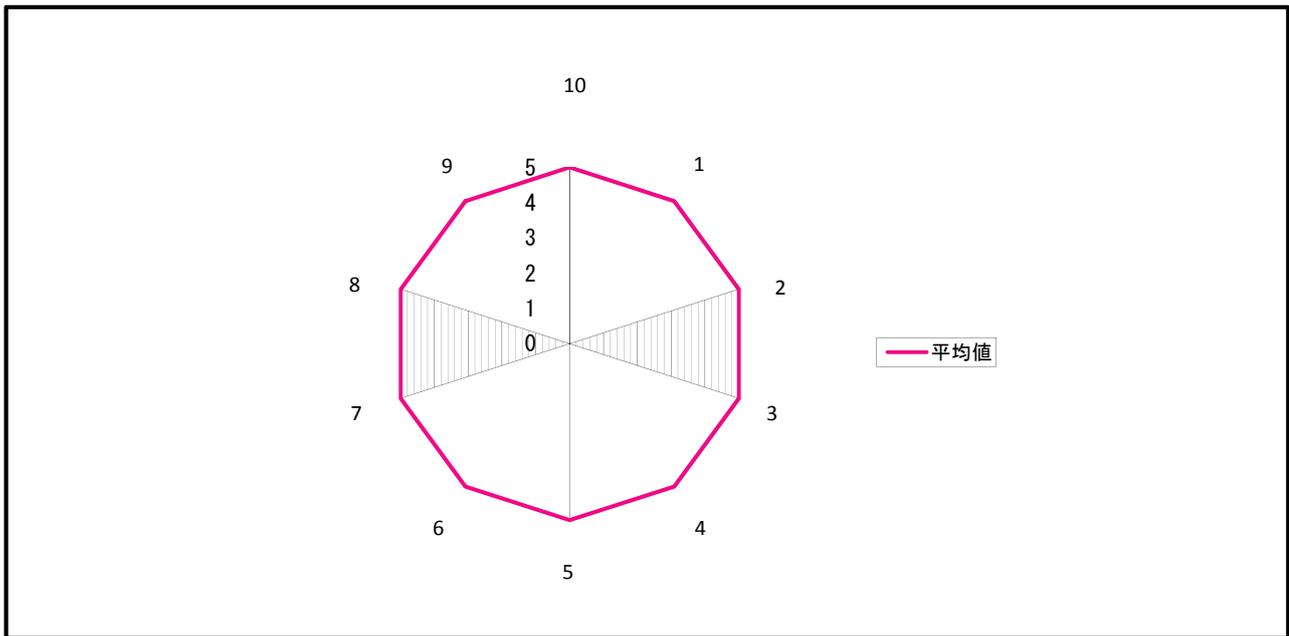
## 教員のコメント

この授業は、実践論ということではあるが、実際に高機能発達障害幼児とその保護者の協力を得て、教育臨床的授業(実践)を展開している。例年、大学院生は指導者として、支援計画の作成や、授業の構成等々、実践に関わる計画作りから振り返りまでに直接携わり、実践力を培っている。大学教員は、この指導に関してスーパーバイズを毎週、行っている。学生のこの授業にかける時間はどの授業よりも長くなっているはずであり、その点では負担感の高い授業である。にも関わらず、協力者である幼児のニーズを懸命にとらえ、そのニーズに応じた対応を毎回考える中、まじめに支援に取り組んできた。指導者は大学院生であっても現職教員である。十分に指導経験のある者がこの授業に取り組んでいるが、それぞれに、新たな発見や気づきを積み重ねることができたことを、自由記述から読み取ることができる。

# 結果報告書

授業科目名 社会資源開発運用・連携論  
 評価実施日 平成28年2月2日  
 担当教員名 井上 とも子      回答者数 2 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



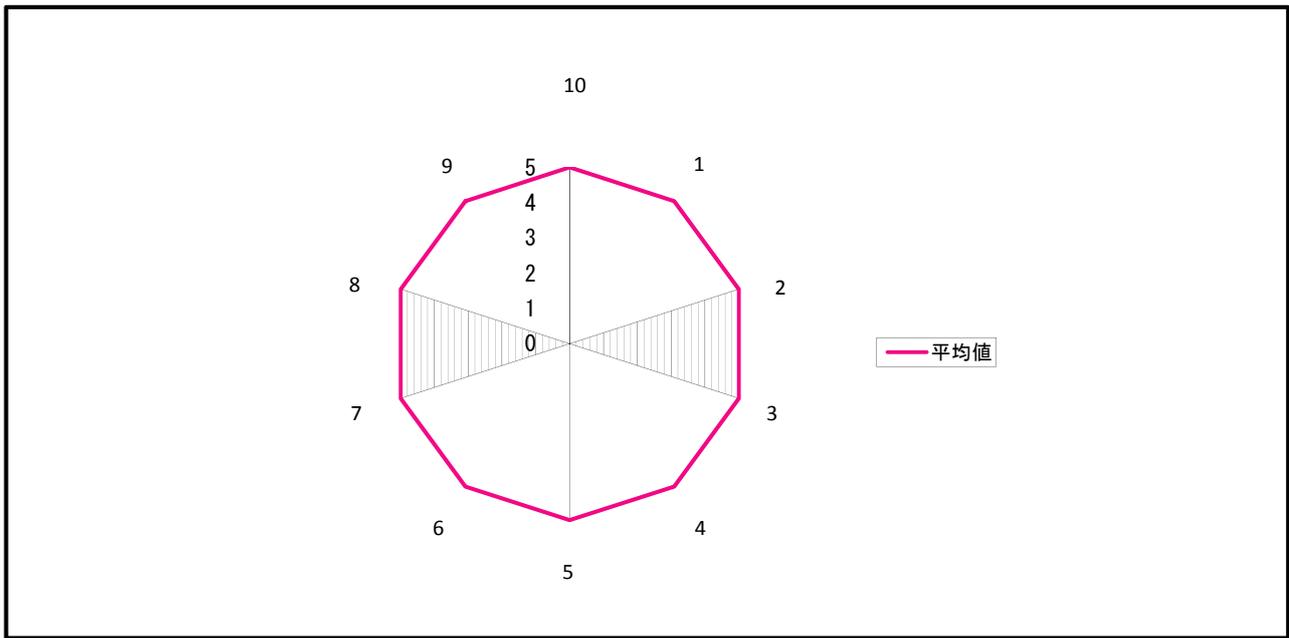
## 教員のコメント

この授業は、特別支援教育コーディネーター養成分野にのみ開かれた授業であるため、受講者は例年ごくわずかである。しかし、他の専攻コースから、聴講生が必ず参加し、しかも、本年度は全員、現職教員である大学院生であったため、協議においては、それぞれの立場や経験からの意見交換ができ、課題を深めることができた。受講生2名は、各課題に真摯に取り組み、十分に調べてくるなど、積極的に参加していた。毎時間、課題が出るなど負担の高い授業であるにもかかわらず、現職教員としての熱心な参加態度であった。後半、特別支援教育コーディネーターとしての校内委員会運営体験や、個別の教育支援計画作成等に費やせる時間が少なく、やや不十分ではあったが、様々な角度から社会資源の開発や、運用に関して意見が交換できたことは、この授業の成果と考える。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育課程特論演習  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 高橋 眞琴      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



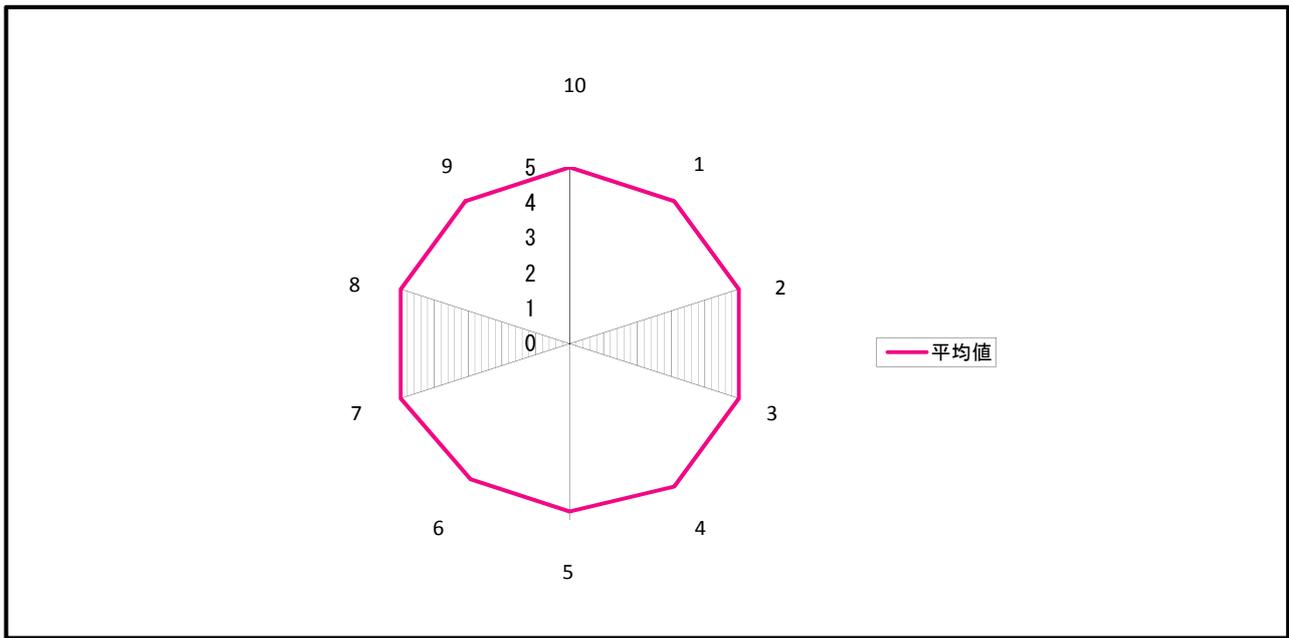
## 教員のコメント

今年度の受講生は、研究課題に対する文献収集や調査にも授業中以外にも熱心に取り組み、学校現場の実情に至るまで、様々なフィールドにも足を運び、調査した内容を演習において発表していた。また、実技を伴う内容についても熱心に取り組んでいた。受講生と授業者で行った特別支援教育の教育課程に係る研究内容は、共同研究の成果として、発表する予定にしている。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育指導特論演習  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 大谷 博俊      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



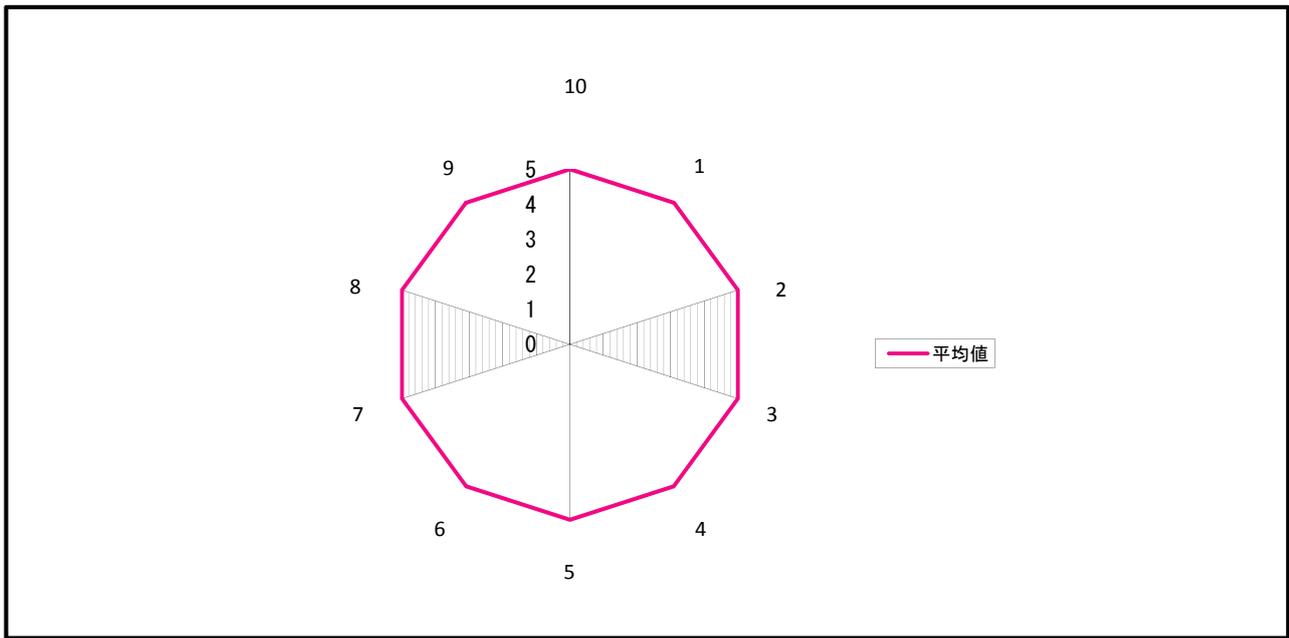
## 教員のコメント

授業に対する受講者の満足度は高く、「授業内容」については、全ての項目の評価得点が5点(そう思う)であった。授業で取りあげた特別支援教育における進路指導・キャリア教育は、受講者のニーズに合っていたと考えられる。また、少人数であったが、そのことが功を奏したのか、全員が主体的・積極的に取り組んでおり、受講者の態度は極めて良いことが分かる。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育臨床支援技法演習  
 評価実施日 平成28年2月5日  
 担当教員名 高原 光恵      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



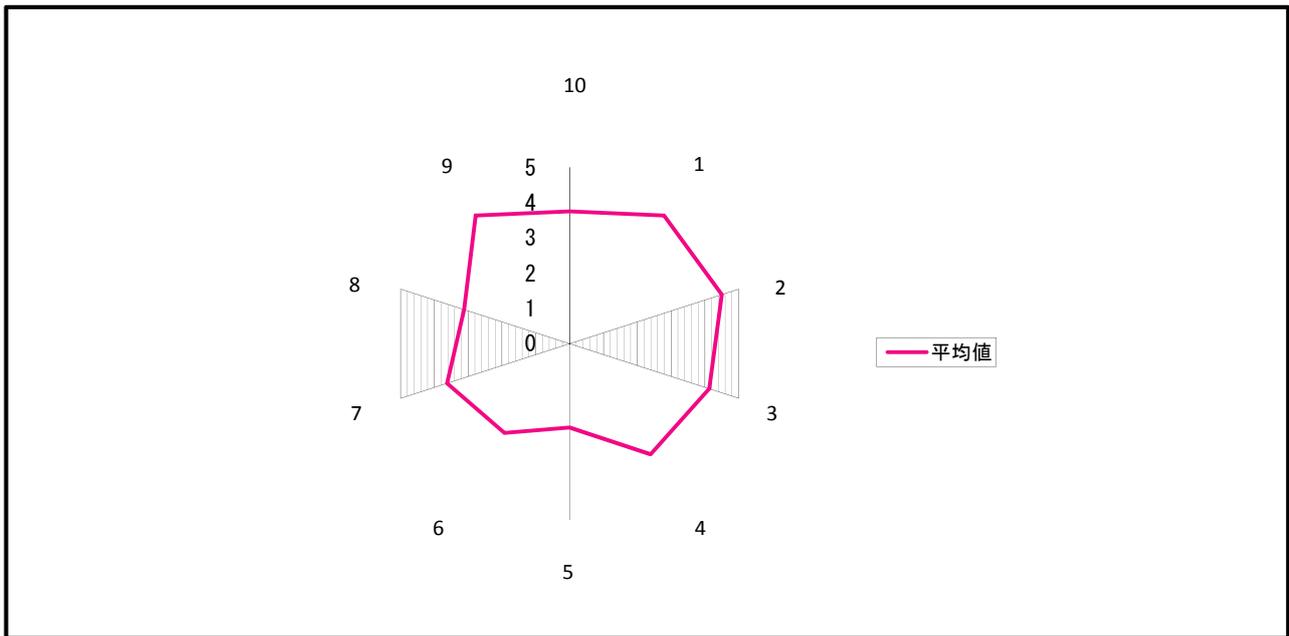
## 教員のコメント

本演習は受講生が少数であったため、評価する側に遠慮が生じたと思われる。そのため数値による評価結果からの解釈は難しい。授業中の様子から考えると、初回到周知した点を全うし、全員が予習を念入りした上での受講であり、授業中のディスカッションも内容の濃いものが行われていた。毎回、受講生の関心の高いテーマであり、教育実習やボランティア活動などの体験を踏まえた解釈、意見交換もなされ、全般的に充実していたと言える。

# 結果報告書

授業科目名 特別支援教育学習支援演習  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 島田 恭仁      回答者数 8 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	2	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	4					4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	5	1				4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	3	3				3.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1		2	3	2		2.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1	1	4			3.1
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	3	1	2			3.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	4	2			3.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	2	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	4	3				3.8



## 教員のコメント

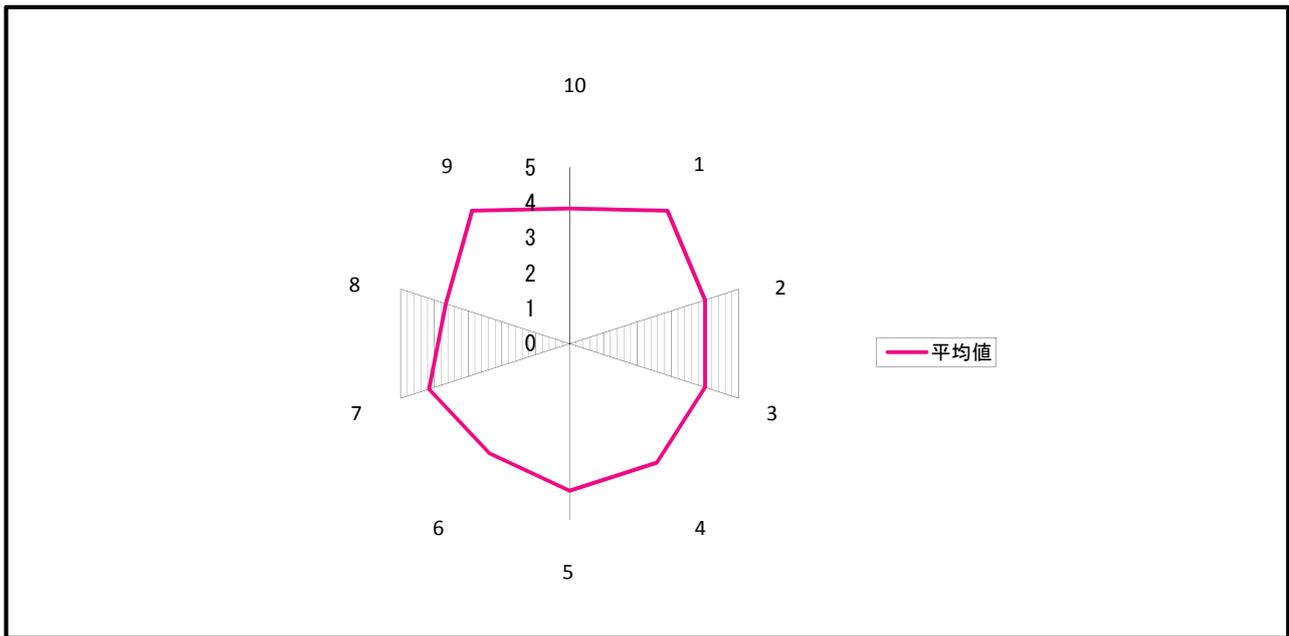
項目(2)で8名の受講生全員が5または4の高い評価を行ったことから、本講が「専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」ことが分かった。また、項目(1)(3)(9)でも、8名中7名が5または4の高い評価を行ったことから、「授業概要は、この授業を適切に表現していた」「教師の実践力の育成につながる内容であった」こと、受講生は「授業に主体的・積極的に取り組んだ」ことが確かめられた。近年、WISC-IVやKABC-IIなどの心理検査が、障害のある児童の指導計画を作成する上で特に重視されるようになってきた。本講においては、これらの検査の実施法・解釈法を体験的に学習できるように工夫したことが、受講生の専門的知識と実践力の醸成に役立つと思われる。とりわけ項目(1)と(9)で5の評価が多かったことから、授業概要が適切であったことが、授業への参加の意欲を向上させることに役立つと考えられた。

一方、項目(5)(6)では、8名中の半数ほどの受講生が2または1の低い評価を行ったことから、「授業の進む速さは適切であった」「受講生に分かりやすく説明した」と感じなかった受講生も、少なからず居たことが分かった。記述回答を見ると「授業の進み具合が遅い」「授業時間外のグループワークが負担だった」等の回答が認められた。今年度は心理学になじみの薄い受講生がいたため、説明をできるだけゆっくり行った。その結果、授業中に消化できる実習量が減って、ホームワークが増えることになり、予備知識を持つ受講生にとっては、「負担が増え、かえって分かりにくい」と感じるようになったのだと思われる。従って、今後は授業のペースを最適なレベルに設定するための工夫を行いたい。

# 結果報告書

授業科目名 発達障害児支援医学演習  
 評価実施日 平成28年2月1日  
 担当教員名 津田 芳見      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	4	1			4.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	4	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	3	1			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3	1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	3	2			3.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1	2			4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	3			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	3	2			3.8



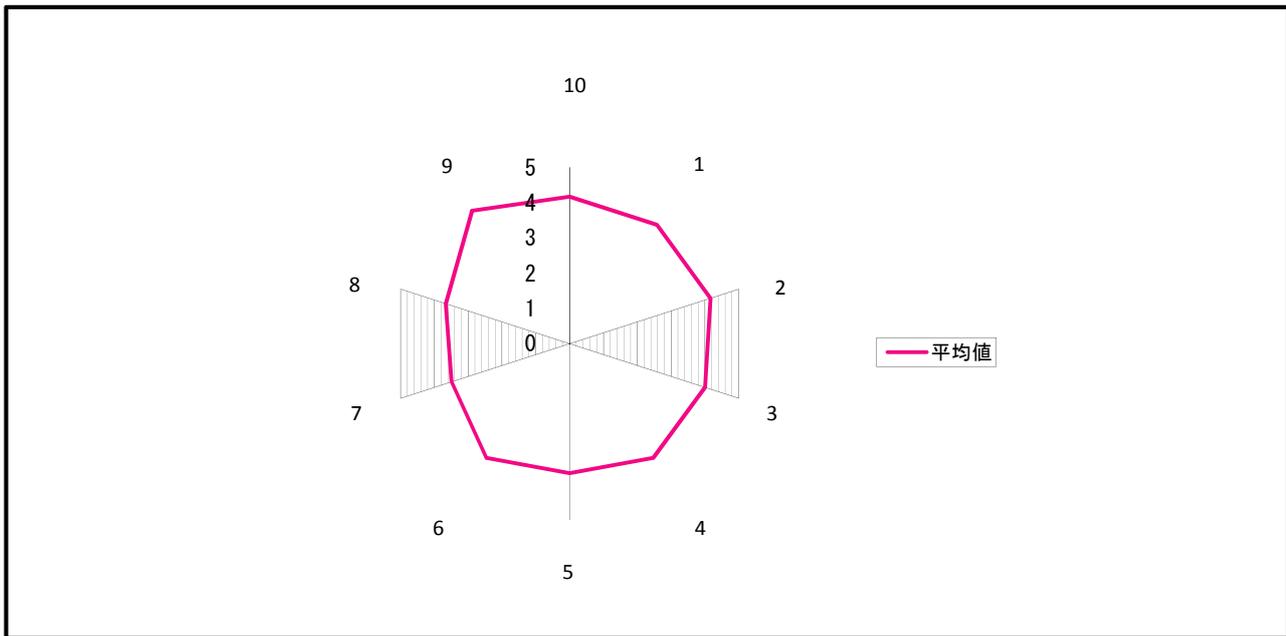
## 教員のコメント

授業の内容に関しては、授業概要、専門的知識の獲得、授業への積極的な取り組みなどは、高い評価が得られた。しかし、教員の授業の進め方については、説明や、視聴覚機器の使用などは中間くらいの評価であった。配布した資料、視聴覚機器の使用などについては、低い評価をした人もあった。全体的な氷河がやや低くなっており、もう少し、参考図書文献を紹介し、授業の目標を明確にする工夫が必要と感じた。

# 結果報告書

授業科目名 発達障害児神経学演習  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 田中 淳一      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1	2			4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3	1			4.2
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	4	1			4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	2			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2	3			3.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2	2			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1	4			3.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2	3			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	3	1			4.2

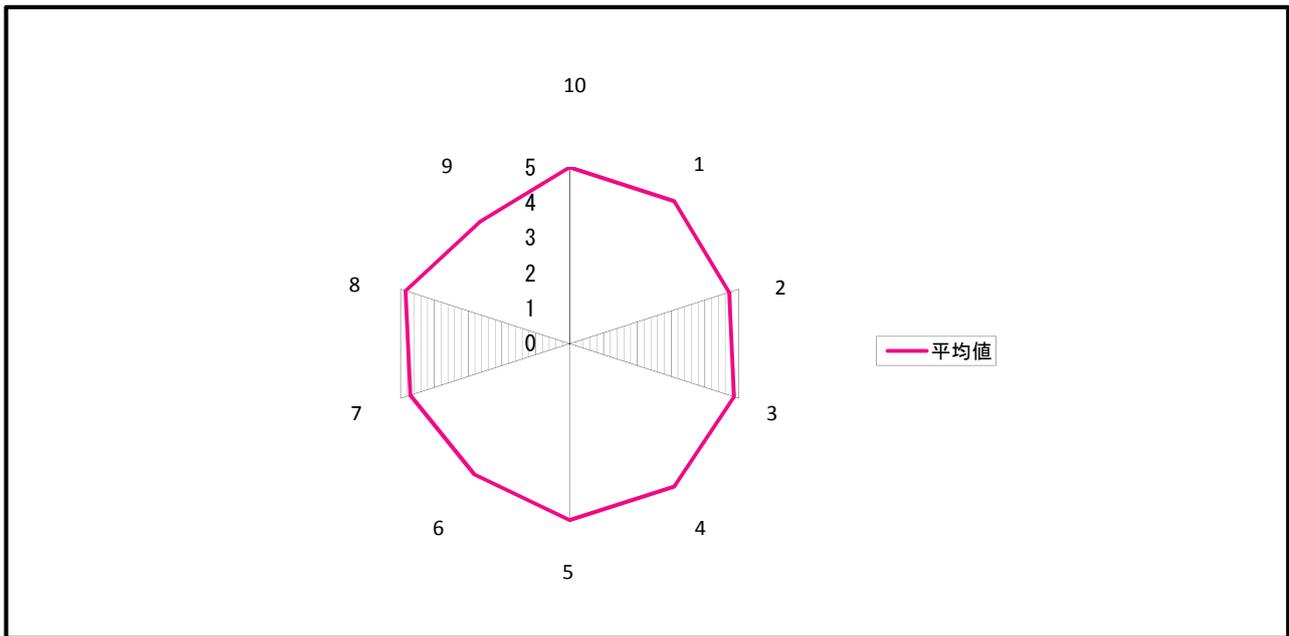


教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 日本事情・日本文化  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 小野 由美子      回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1				4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	2				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2		1		4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					5.0



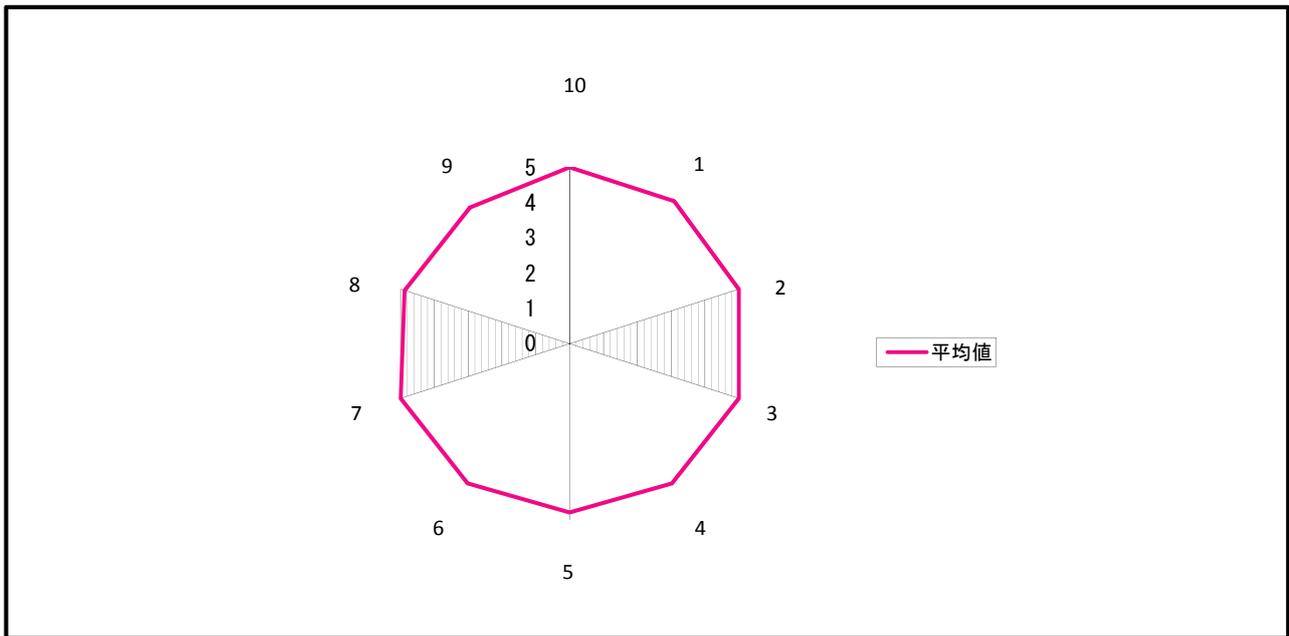
## 教員のコメント

受講生数7名ではあるが、満点(5.0)が4項目あったことは喜ばしい。より分かりやすい説明(6)及び主体的参加(9)についてはなお改善の余地があるようである。

# 結果報告書

授業科目名 日本語Ⅲ  
 評価実施日 平成28年2月15日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1				4.9
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	1				4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	2				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9					5.0



## 教員のコメント

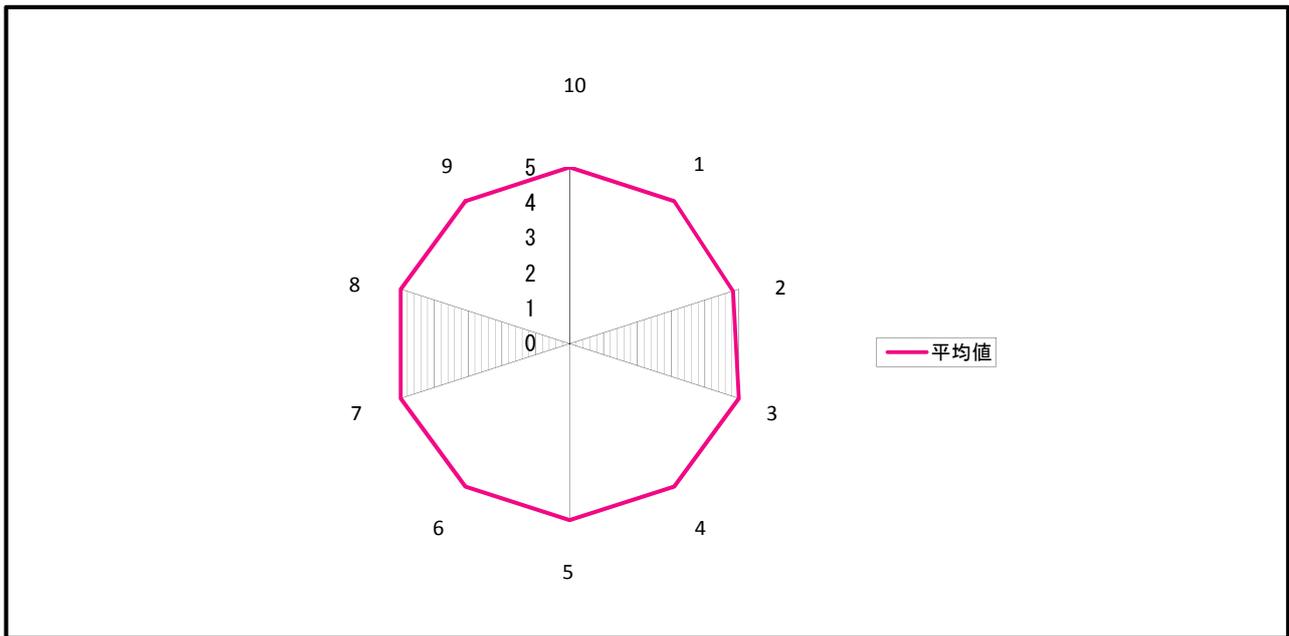
本授業では、大学で学ぶ留学生にとっての基礎的な能力である、「適切にメールを書くことができる力、適切に情報を収集することができる力」などを養うことを目的とした。参加者は10名(大学院留学生の聴講1名、学部留学生(特別聴講学生および研究生)の聴講6名、日本人学生の聴講3名)であり、授業評価アンケートの自由記述の項目では、「(日本での)生活に役に立つ」、「他の授業にも役に立つ」、「授業が分かりやすかった」など、授業の実用性や分かりやすさを高く評価する声が多く見られた。一方で、参加者は10名全員が聴講であり、履修登録をして単位を取ろうとする大学院留学生が一人もいなかったのはたいへん残念であった。本授業を受講しなかった留学生に聞いてみたところ、他の授業と重なったと答えた者が多かったため、来年度は開講時限にも気をつけたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本古典語演習  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 原 卓志      回答者数 6 人

小

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



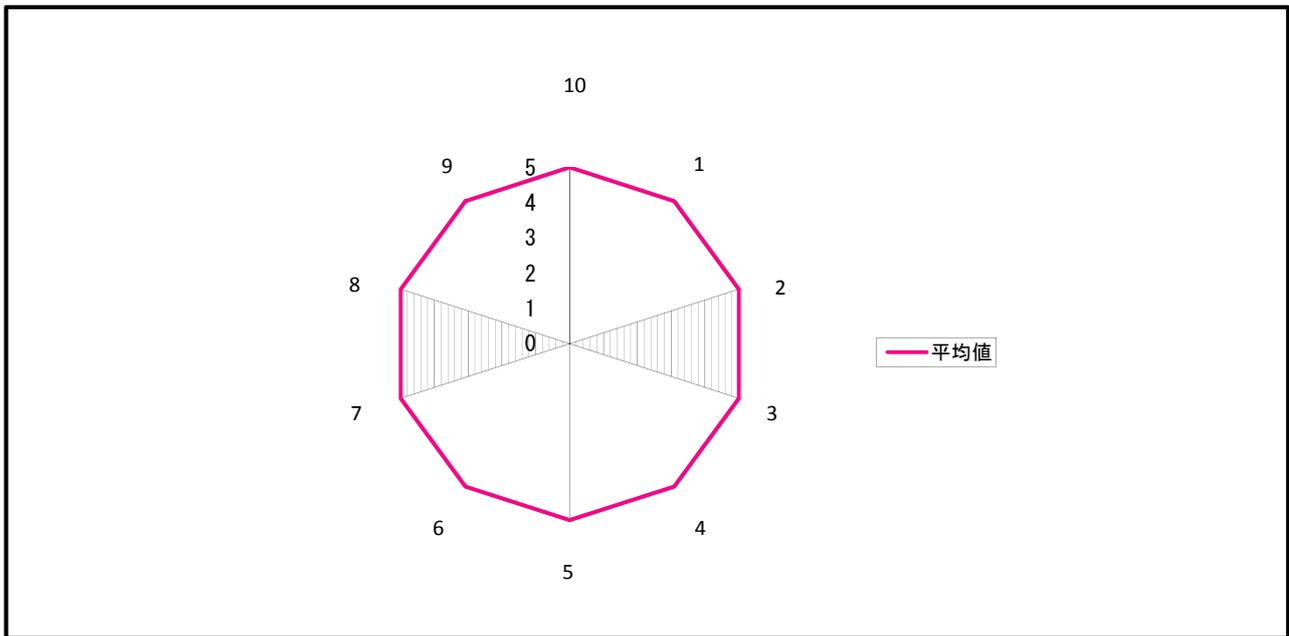
## 教員のコメント

本年は、小松島市の国伝山地蔵寺に伝存される『異船一條并大小名等諸事傳聞障而已之記』を取り上げて解説を進めた。  
 本書は、幕末の京都や長州、そして阿波徳島などで起きた様々な事件に対する庶民の噂話を記録したものであり、その当時地蔵寺住職であった宥義の手になるものである。個性的なずし字の解説には、かなりの苦戦を強いられたが、興味深い内容に刺激を受けつつ、受講生同士が互いに教え合いながら解説に取り組むことができた。また、12月には受講生とともに、記載された事件の舞台の一つである高野山金剛峯寺を訪れ、寺域をくまなく踏査したことは、貴重な経験になった。  
 受講生は、授業に臨む前に「予習をして、(読解に苦戦している受講生に)積極的にヒントを出した」「自力で読めるように頑張った」など、積極的に取り組む姿勢が見られた。受講生の感想として「くずし字が少し読めるようになった」「古文書解読の知識が身についた」「高野山を訪れ、古文書の時代背景に触れたこと」が良かったこととして寄せられた。また、「前期に引き続き、とても楽しかった。昔の文字を読む技術の向上はもちろんのこと、江戸末期の文章に触れることによって、その時代に触れ、今との考え方の違いや共通点を見ることが出来、おもしろかった」という感想もあった。これらの感想を励みとしたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本文学演習 I  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 黒田 俊太郎      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



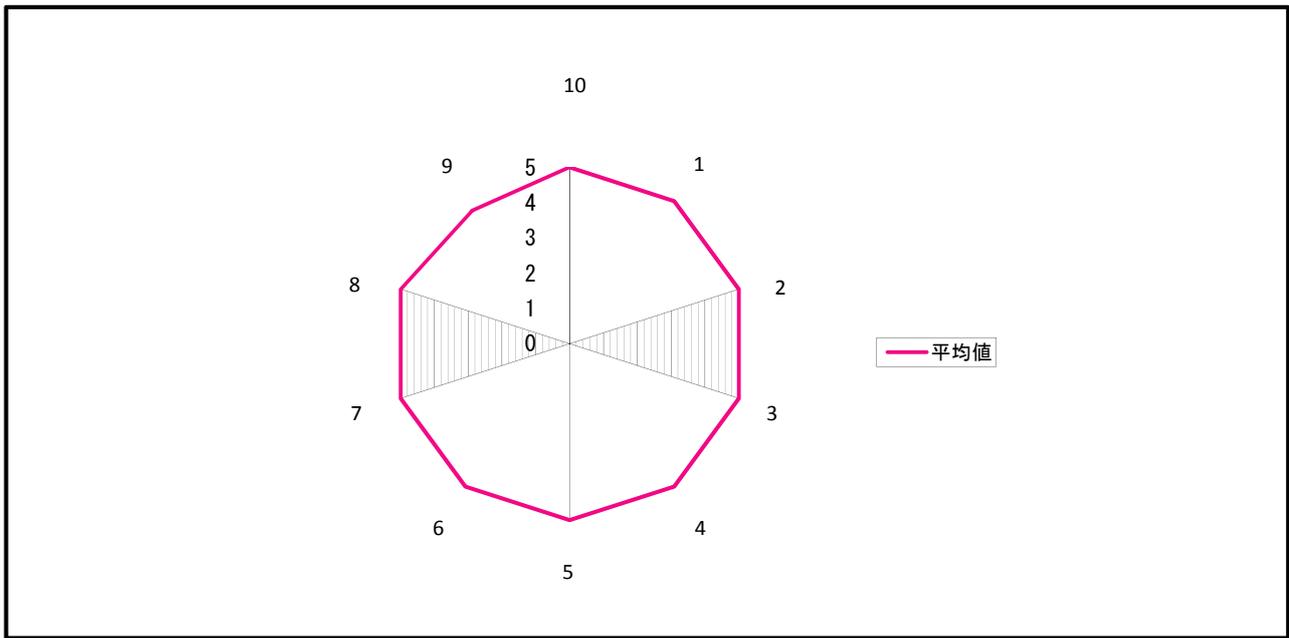
## 教員のコメント

全ての項目において高い評価であった。今後もさらなる授業改善を心がけながら授業を行っていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本文学演習Ⅱ  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 小島 明子      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



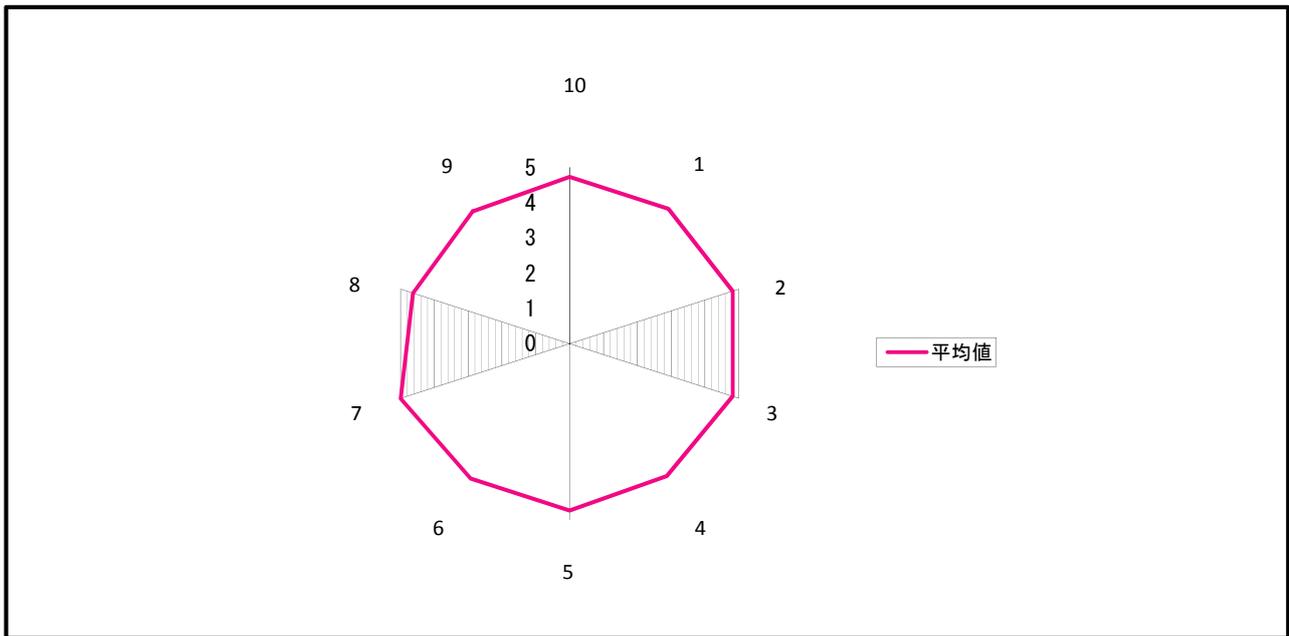
## 教員のコメント

演習形式の授業で、非常に意識・関心の高い院生3名が受講していたので、高い授業評価を受けた結果となっている。もう少し受講生が多い場合はなかなかこのようになることは難しいと考えられ、その際の方途が今後の課題となる。また、自分の発表の時以外に、テキストを読み込めていない院生がいるときもあったので、その動機付けも必要になるとと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 日本語教育学演習  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 小野 由美子      回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	3				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	9	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2	1			4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	1	1			4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	3				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	4				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3				4.7



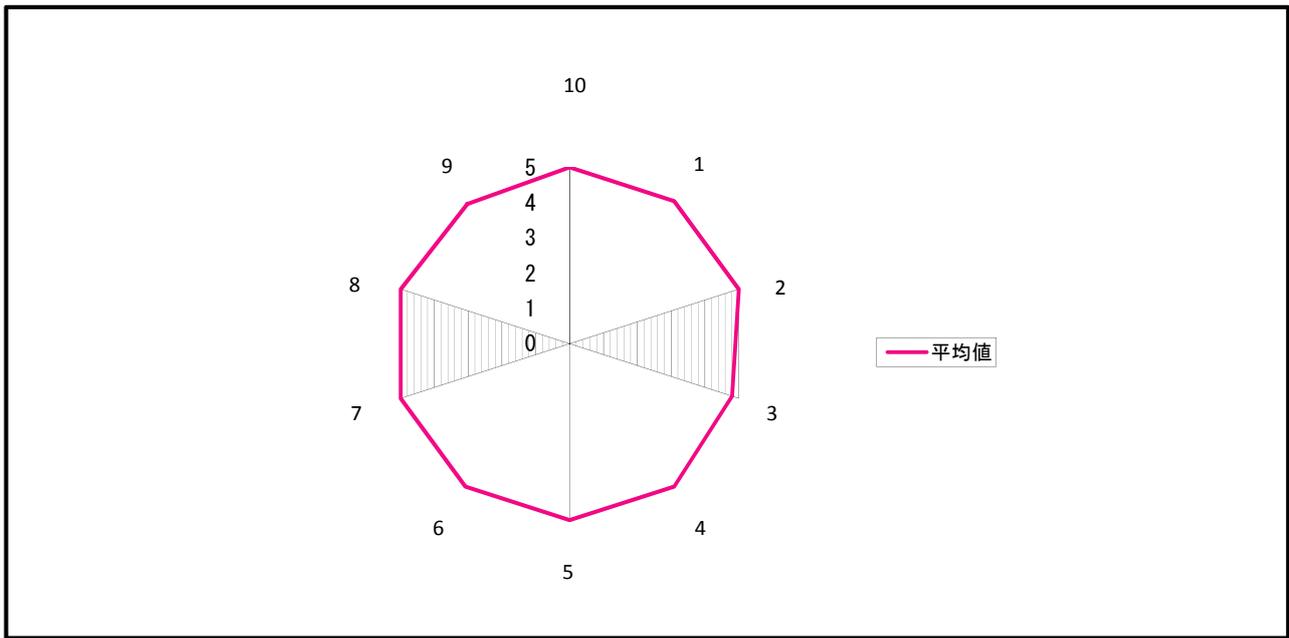
## 教員のコメント

10名を超える受講生で総合評価が4.7というのはまずまずの授業評価といえる。教科書・配布資料(7)が満点であったことは喜ばしい。主体的取組(9)についてはもう少し工夫の余地がありそうである。

# 結果報告書

授業科目名 日本語文法演習  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 田中 大輝      回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	10					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	10					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9				1	5.0



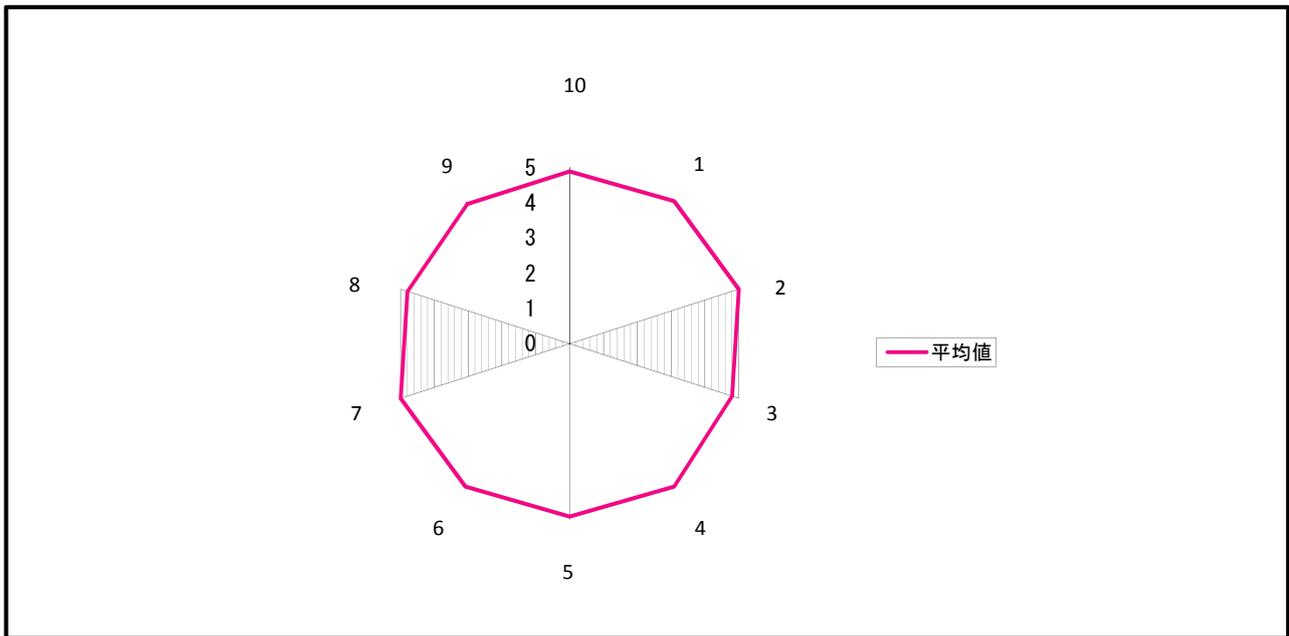
## 教員のコメント

本授業では、「指示詞(コ・ソ・ア)」について、古典的な論文から最近の論文までを幅広く検討することで、従来何が問題とされてきて、現在何が問題として残されているのかを理解することを目指した。また、そのような研究の積み重ねによって得られた知見を日本語教育の現場でどのように活かすべきかを議論した。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「毎回の授業の際、田中先生が丁寧に解説をしてくださったので、クラスに置いて行かれることなく理解を深めることができ、非常に良い学びとなった。」「発表をただ聞くだけではなく、適宜発表を止め、聞き手がしっかりと内容を理解できているか、質問・疑問点がないかなどを確認しながら進めてくれたので、とても分かりやすい。より理解が深まる授業だと思う。」「発表会に際して、きめ細かな助言をいただけた」など、教員の授業の進め方や事前指導を高く評価する声が多く見られた。一方で、「理解が追いつかない部分も少しあった。」「指定図書が難しいので、補助資料・補助図書がさらに充実していればさらに理解が深まると思いました。」「発表の難易度をもう少し同じレベルにしてほしかった。」のように、(一部の)内容の難しさに対して改善(再考)を求める声も出ていたため、今後の参考としたい。

# 結果報告書

授業科目名 日本語語彙論  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 田中 大輝 回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	10					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	10					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	9	1				4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	10					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	1				4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	1			1	4.9



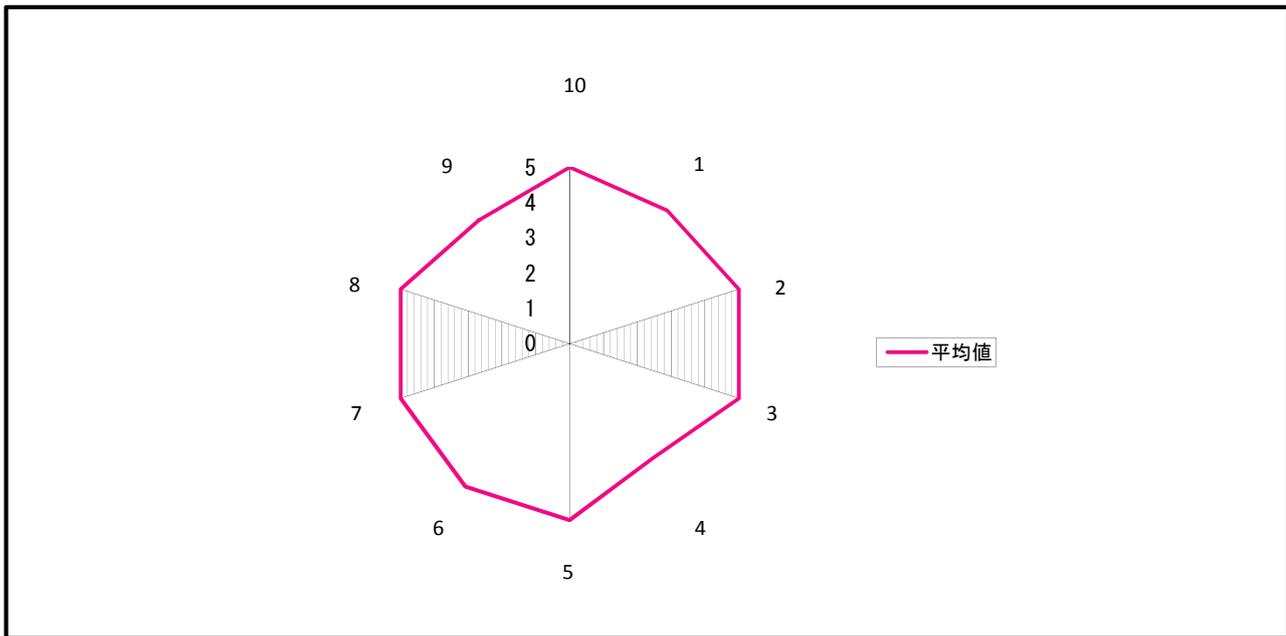
## 教員のコメント

本授業では、語彙の計量や語の出自など、語彙に関する様々なトピックについて理解を深めることで、日本語学習者に対して適切な語彙指導ができるようになることを目標とした。授業評価アンケートの自由記述の項目では、「日常意識せずに使用している日本語について、様々な側面から改めて考える機会を持てたことが良かった。」、「講義で学ぶ形式と演習発表で披露する場と両方があった点(が良かった。）」、「参加型の授業なので、受講者同士の考えや意見を聞くことができとても勉強になった。」など、授業内容や授業方法を高く評価する声が多く見られた。一方で、「参考文献が少し古い(現代の語彙について)ものがあり、2016年現在はどうなのかということも知りたいと思った点がありました。」といった声も出ていた。授業ではできるだけ(手に入る中では)最新の情報を提供しているつもりであったが、今後の参考としたい。

# 結果報告書

授業科目名 国語科教育学演習  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 村井 万里子      回答者数 3 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1	1			4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2				1	5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



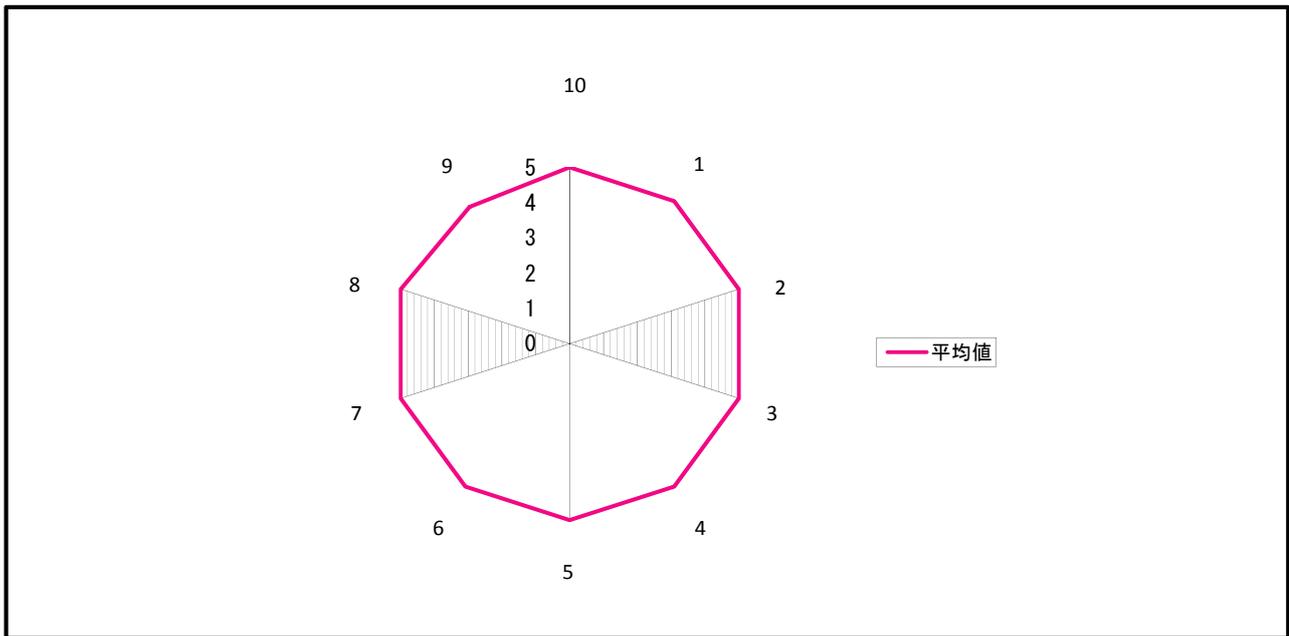
## 教員のコメント

国語教育学の基本文献を用いて演習を行った。受講者各自の希望・主体性を活かすことと、未知の分野に踏みこむことを両立させる困難がある。文献の扱い方、読み深め方について、どのように一般性を保障し個性を活かしていくか、これからも絶えず吟味が必要である。

# 結果報告書

授業科目名 国語科授業演習  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 幾田 伸司      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



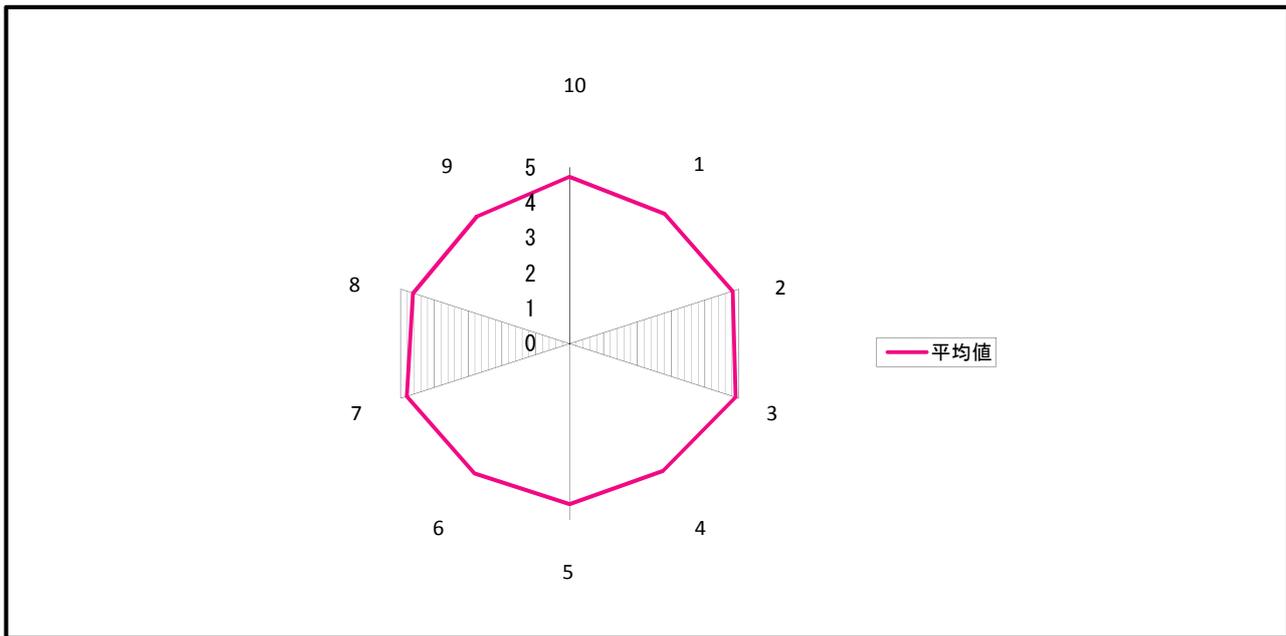
## 教員のコメント

非常に高い評価をしていただきました。今年度も受講者が5人と少なく、また全員が前期から継続しての受講して下さったので、お互いの気心も知れていて議論しやすかった面があると思います。また、現職教員の3人が主導してストレートの院生を引っ張って行ってくださったように感じました。演習発表、討議ともに受講者それぞれが主体的・積極的に取り組んだことで、満足度が高くなったのだと思います。講義の前半で国語教育史の概要を扱い、そこからテーマを考えていく流れにしたことも、取り組みやすかったようです。受講者の数や演習発表の質にも左右されますが、今年度のように全員が主体的に取り組む、議論に参加できたと思える授業を今後も継続できるように努力します。そのためにも、議論に対する教員のかかわり方について、さらに研鑽していこうと考えています。

# 結果報告書

授業科目名 日本語教育法演習  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 小野 由美子      回答者数 11 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	3	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	2					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	10	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1	1	1			4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	8	2		1			4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	3	1				4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	9	2					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	1				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	6					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	8	3					4.7



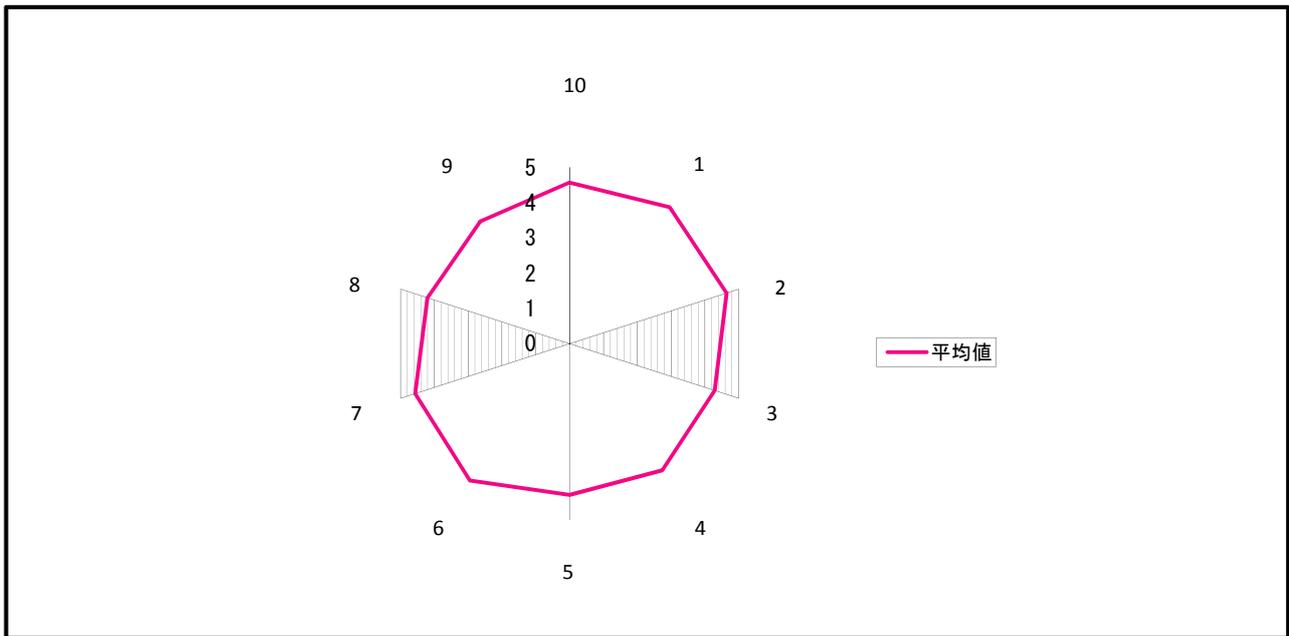
## 教員のコメント

受講生10名を超える授業で総合評価4.7はまずまずの成果であったといえる。専門知識(2)実践性(3)教材(7)については評価が相対的に高く喜ばしい。成績評価(4)授業の進め具合(5)について低評価を下している者もいる。もう少し丁寧な説明や展開が必要であったかも知れない。

# 結果報告書

授業科目名 英米文学応用演習 I  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 前田 一平                      回答者数 14 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	11	3				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	3	1			4.6
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	3	2	1		4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	9	2	3			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	4	3			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	3				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	10	2	2			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	3	1		4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	2	4			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	4	1			4.6



## 教員のコメント

全体的には高い評価を受けたと理解するが、若干名(3名ほど)がほとんどの項目で3ないし2の評価としている。しかし、低い評価をしている受講生はなんらコメントを付していないので、その理由が得られない。1点、AV機器の使用について手際の悪さを指摘するコメントがあったが、本学講義棟のAV機器は複数の教員がそれぞれのデバイスで、それぞれの利用の仕方をして、設定を変えたまま元に戻さず、その後の授業では設定しなおすまでに時間がかかることがある。この点は授業中に説明していたが、理解してもらっていないようだ。ただ、改善に向けて対応は講じなければならない。また、学校英語教育に直接は関係のない文学の授業なので、それを「教師の実践力」につながらないという評価を受けると、「教師の実践力」とは専門学校的な知識や技術と思っているのではないかと疑いたくなる。

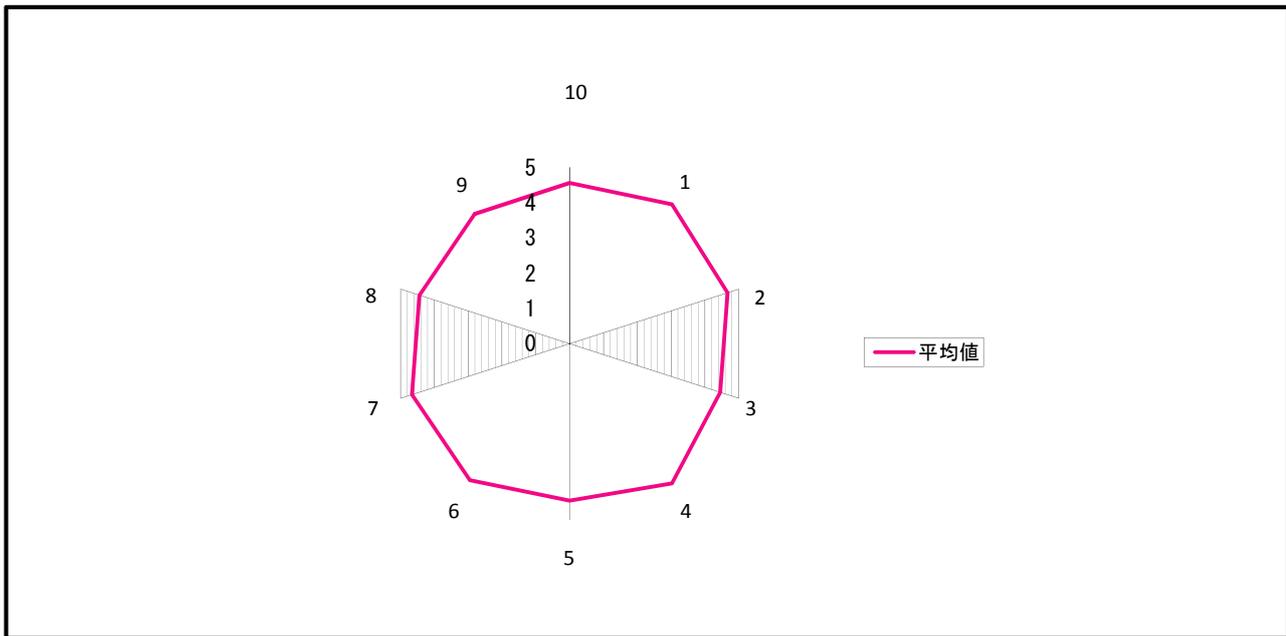
例年、批判的な評価は授業の改善につなげるつもりで受け入れてきたが、今回の批判的評価は本意である。本講義は「教育学部の文学史」として昨年の中・四国アメリカ文学会のシンポジウムで発表し非常に高い評価を受けたので、本年の日本アメリカ文学会のシンポジウムでも発表を要請されているものである。文学が中・高等学校の英語教科書からほとんど消えつつある現状で、英語教員養成に英米文学がもつ意味・意義を大学院生に説諭する必要があるのかもしれない。

ただ、ほとんどの受講生が5ないし4の評価をしていることは、逆に評価したい。つまり、高い評価をしてくれた受講生のほとんどはコメントを付していて、評価の理由もよくわかり、学生による授業評価とはいえ、フェアな評価ができる資質を認めることができる。

# 結果報告書

授業科目名 学習英文法演習  
 評価実施日 平成28年2月3日  
 担当教員名 眞野 美穂      回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	8	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1	1			4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1	2			4.4
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	1				4.9
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	3	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8		1			4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	3				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	1	2			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	4				4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	2	1			4.6



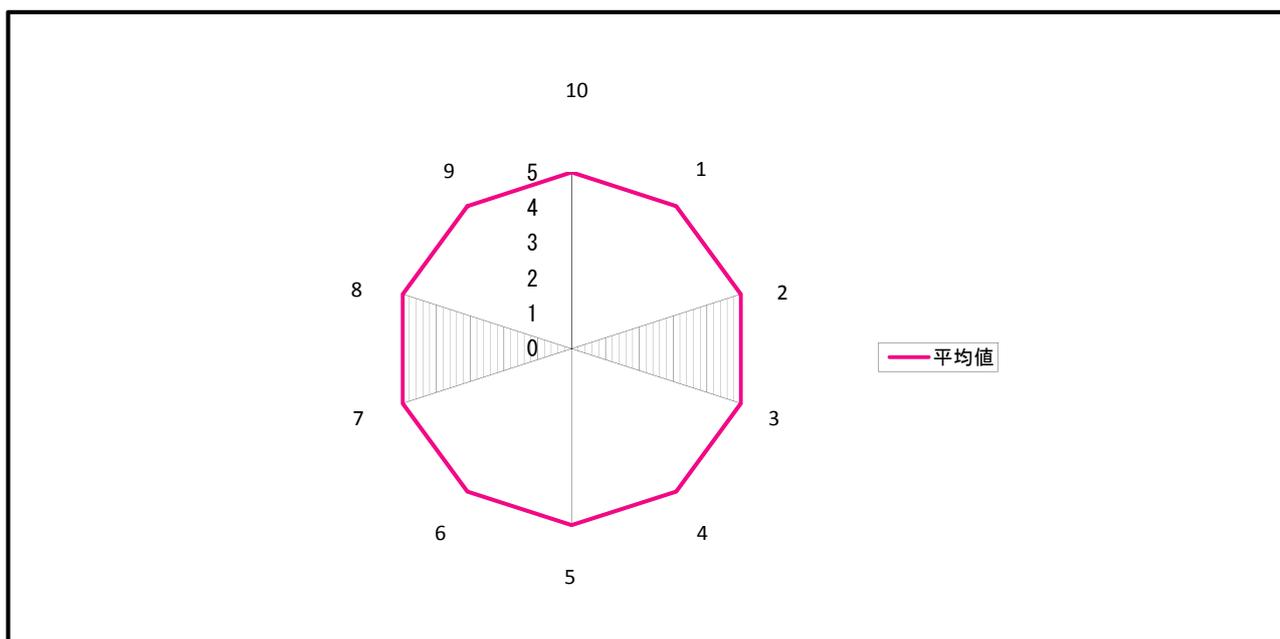
## 教員のコメント

授業内容とその理解については受講生には概ね満足してもらえたように思う。ただ、実践に直接結び付ける授業ではなく、英語教育で扱う文法事項の背後にある言語現象についての理解と気づきを促す内容であったため、そこに難しさや、実践力のなさを感じた受講生もいたのかもしれない。今後その点について改善を目指したい。

# 結果報告書

授業科目名 小学校英語教育演習  
 評価実施日 平成28年3月7日  
 担当教員名 ジェラード マーシェン      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0

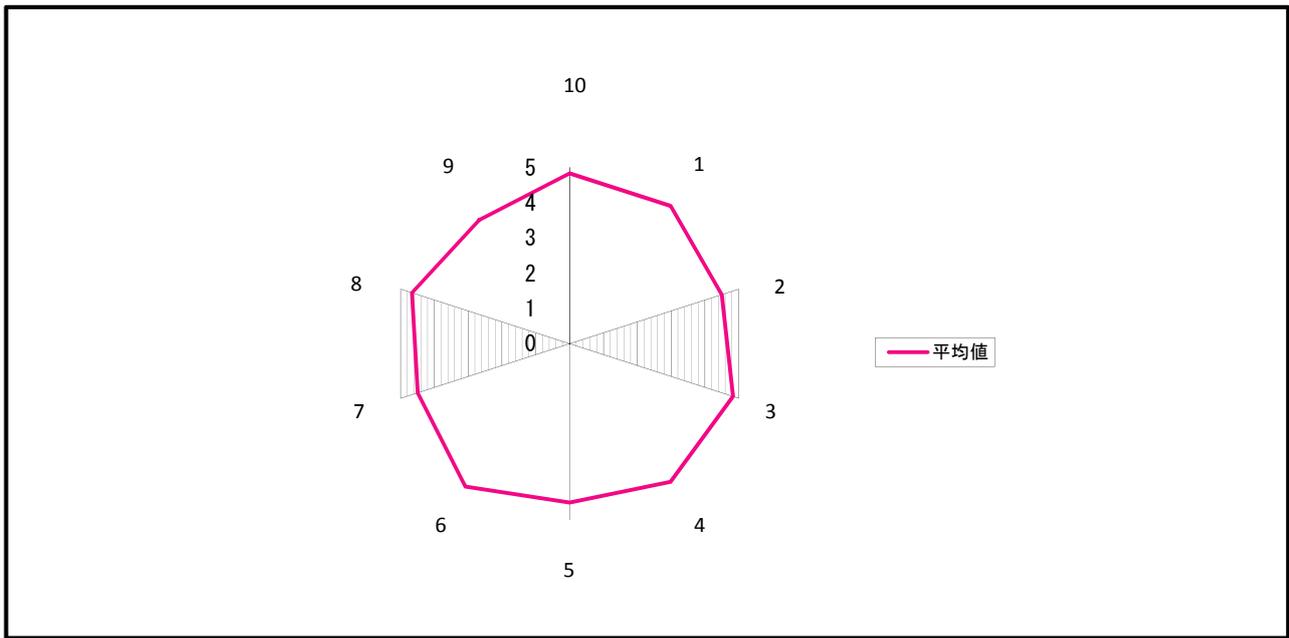


教員のコメント

# 結果報告書

授業科目名 アカデミック・ライティング I  
 評価実施日 平成28年2月10日  
 担当教員名 吉川 エリザベス      回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1	1				4.5
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1	1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2					4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	2	1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1					4.8



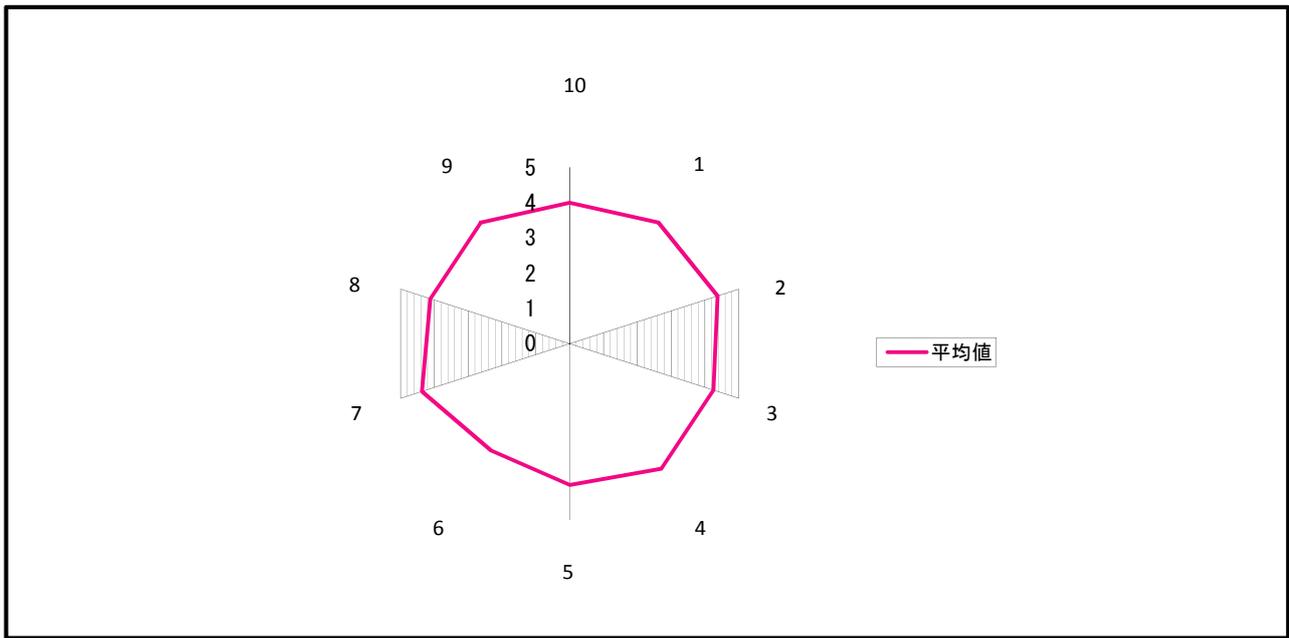
## 教員のコメント

Students seem mostly satisfied with the class. However they need to have more activities which help to promote students working proactively in class. I will endeavour to ensure that students are able to do more in-class activities to promote their productivity within the class. Students also seem to want to have the class speed slightly increase. I will endeavour to ensure that the speed of the class is altered, however I will have to be careful that I do not speed the class up too much to make it more difficult for other students.

# 結果報告書

授業科目名 英語科教育演習 I  
 評価実施日 平成28年2月5日  
 担当教員名 石 博之      回答者数 8 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	4	1			4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	5				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	4	1			4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5	1	2			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	3	1	1		4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1	3	1		3.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	3	1			4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	1	3			4.1
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	2	2			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2	3			4.0



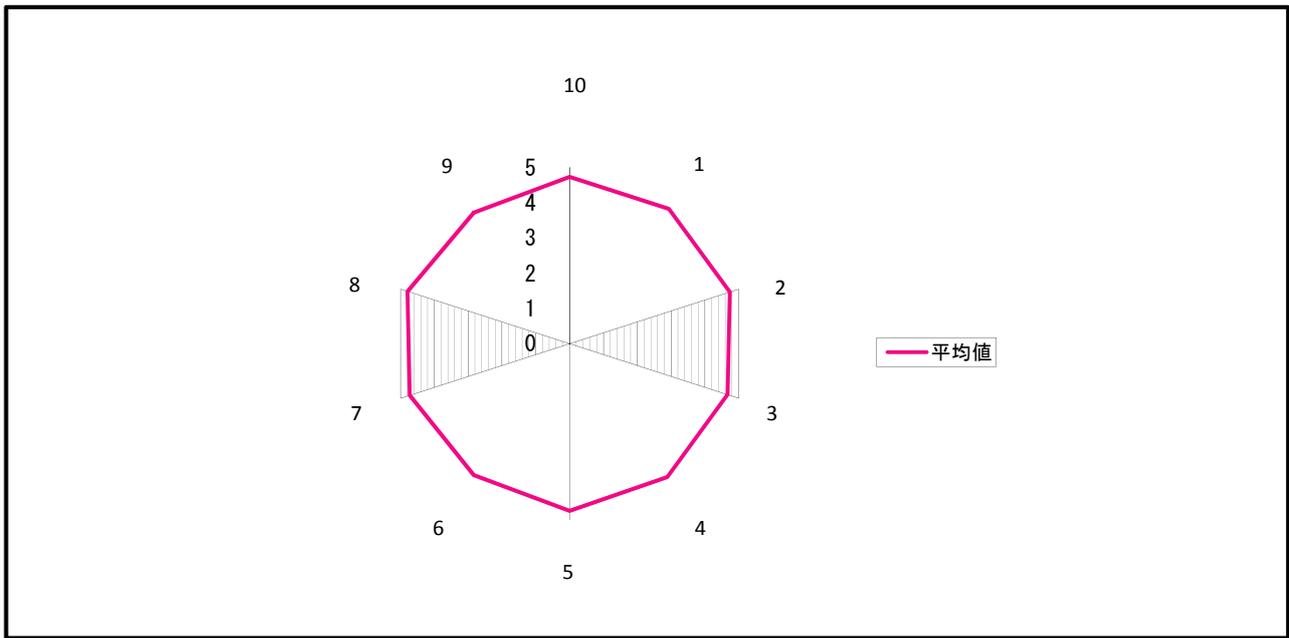
## 教員のコメント

英語教育の各領域を分析・検証するための評価とその方法について、将来修士論文を書く上で役立つ、理論と実際の運用面を考えた授業にした。実際に、前半は基本的な評価方法の理論を提供した。後半は、統計処理で使うであろうSPSSの基本的な操作を、各種検定を示しながら提供した。受講生にわかりやすく説明をしようとしたが、伝わらなかった面があるかもしれない。実際に使ってみて、それが意味するところが分かっていない場合もあった。その部分のところで、詳細に示そうとしたが、意味がつかめなかった場合があった。今後、どのようにわかりやすく提供していったらよいか、模索していきたい。受講生にしても、わからなければどんどん質問をしてくれるようにしてほしい。知ったふりをする受講生もいたかもしれない。

# 結果報告書

授業科目名 英語科教育演習Ⅱ  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 山森 直人      回答者数 15 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	12	2	1				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	11	3	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	3	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	12	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	4					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	13	1	1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9	6					4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	11	4					4.7



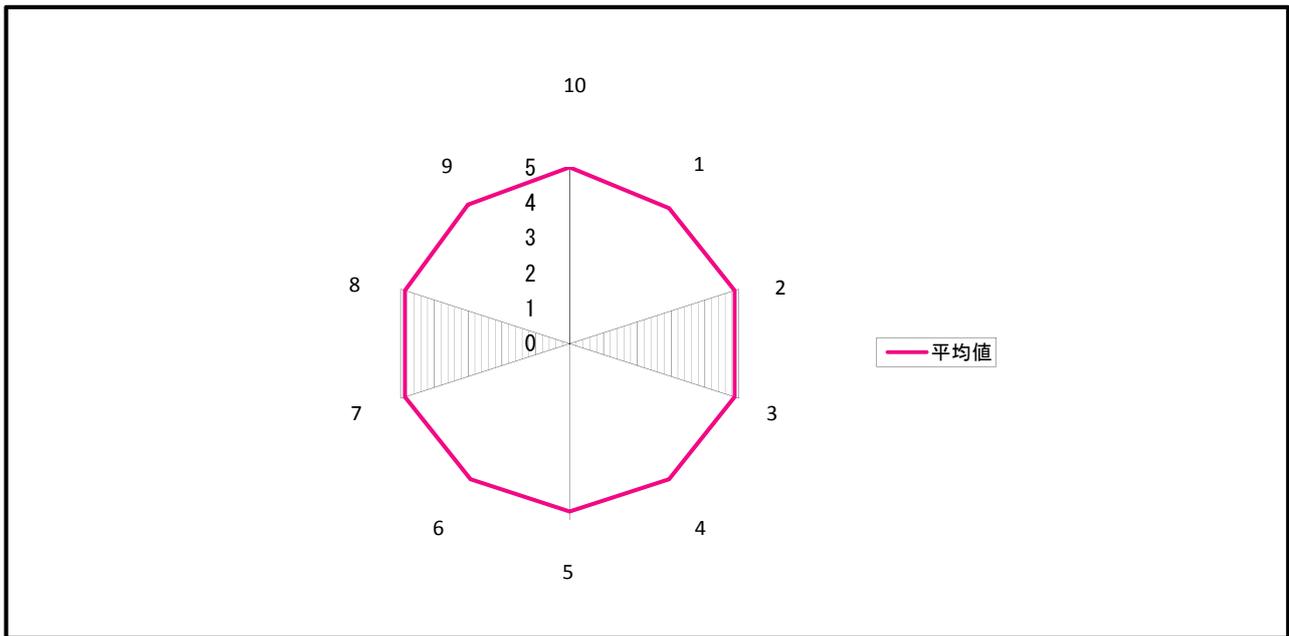
## 教員のコメント

総合評価が4.7、その他項目も4.6以上の高い数値を得ることができた。ただし、授業担当者としては、授業内容に関わる項目(2)と(3)について、「専門的知識」と「実践力」の両者をうまく織り交ぜて授業を組み立てることの難しさを感じているため、今後もそのあり方を追求したい。また、受講生の授業への主体的、積極的な参加に関する項目(9)についても、もう少し点数が高まるよう授業内容を工夫したいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 英語科教育演習Ⅲ  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 畑江 美佳      回答者数 8 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6	2					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	1					4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	1					4.9
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7	1					4.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7					1	5.0



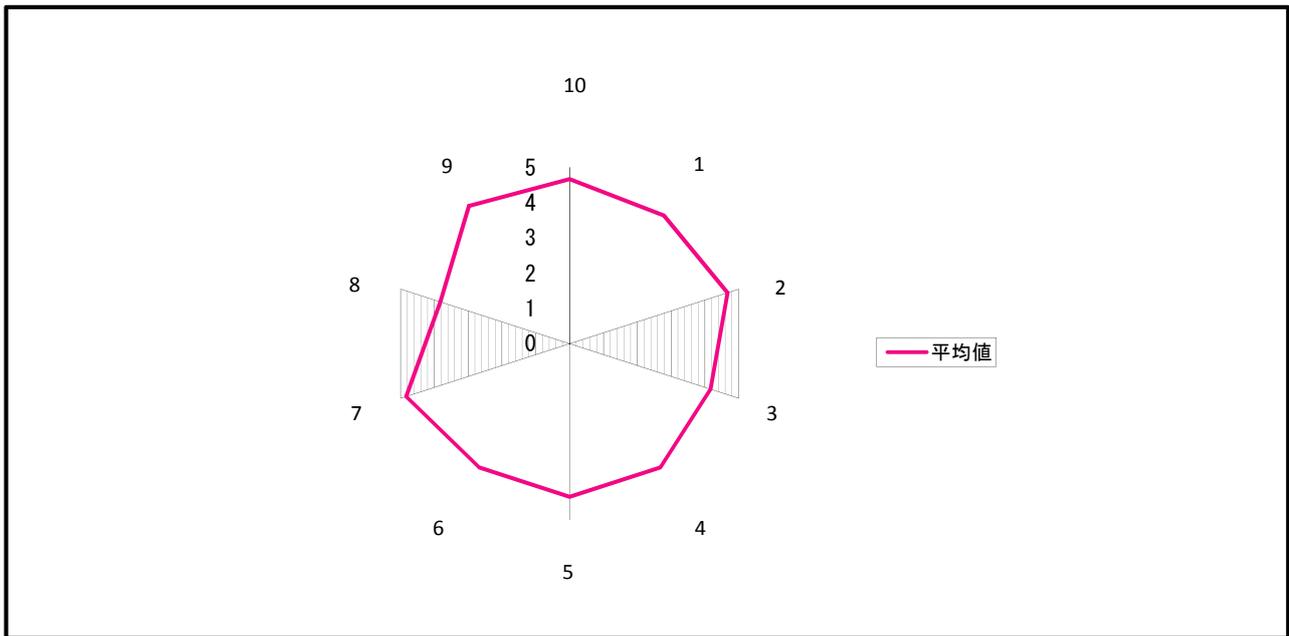
## 教員のコメント

英語科教育演習Ⅲは、小学校で始まる教科化もすでに見据えて、文字指導や評価の在り方や、中学校への接続を、具現化して指導を行った。グループ討議や授業実践もふんだんに取り入れ、教え込みではなく、学生に考えさせながら授業を展開した。評価は、4.8が4項目、4.9が5項目、そして5.0が全体を通した評価を含んで5項目にみられた。大変バランスのよい授業ができたと自負している。院の授業はできるだけ学生に考えさせるようにしている。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学研究 I  
 評価実施日 平成27年12月24日  
 担当教員名 川岡 勉                      回答者数 6 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	3					4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	3	1				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2	1				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2	1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		2				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	1	1			3.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	2					4.7



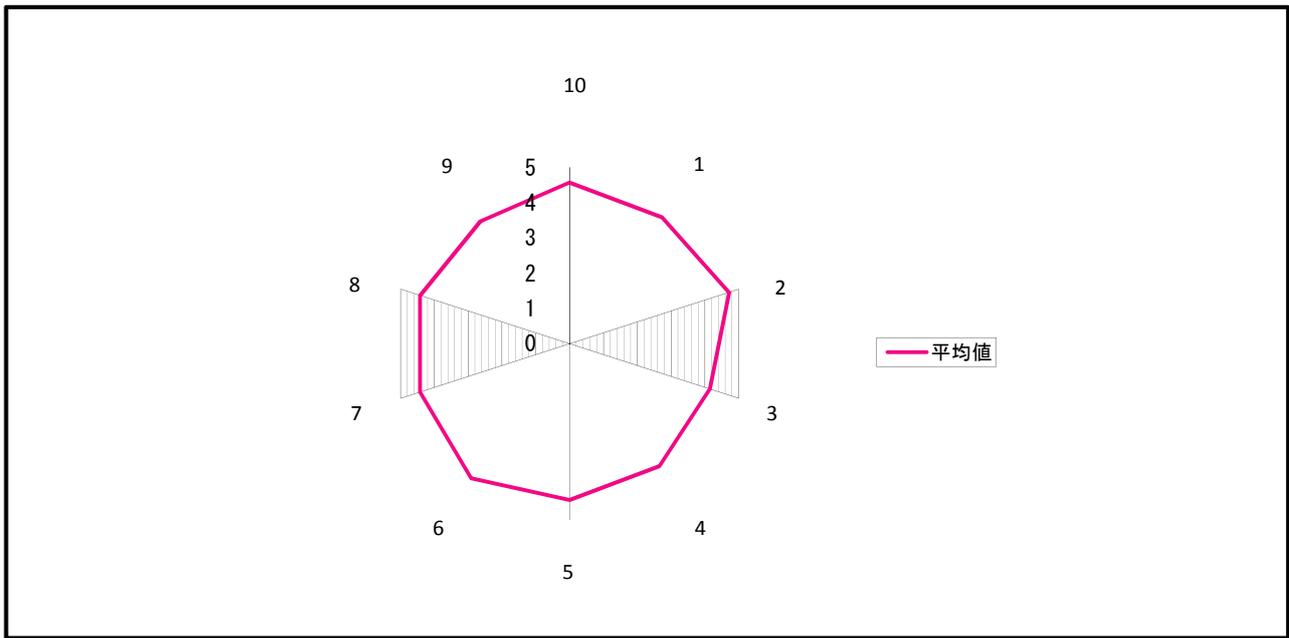
## 教員のコメント

6人の受講生は、いずれも熱心に授業にのぞんでいたように見受けられ、講義内容はかなり広範囲に及んだにもかかわらず、話によくついてきてくれた。一方通行で講義をするのではなく、できるだけ受講生の意見や疑問を聴取するように努めた結果、積極的に質問を投げかけてくれた。この点は、授業評価アンケートで主体的・積極的に授業に取り組んだと回答した受講生が多くいたことから裏付けられよう。提出されたレポートを読むと、講義内容をよく理解していたことが分かり、ポイントを突いた鋭い意見を書いた受講生もいた。アンケート項目の中では、板書や視聴覚教材の使い方が一番評価が低く、この点では改善の余地があると思われる。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学演習 I  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 大石 雅章      回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	2	1			4.4
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	2				4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	3		1		4.1
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1	2			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	2	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	2				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1		1		4.4
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5	1	1			4.6



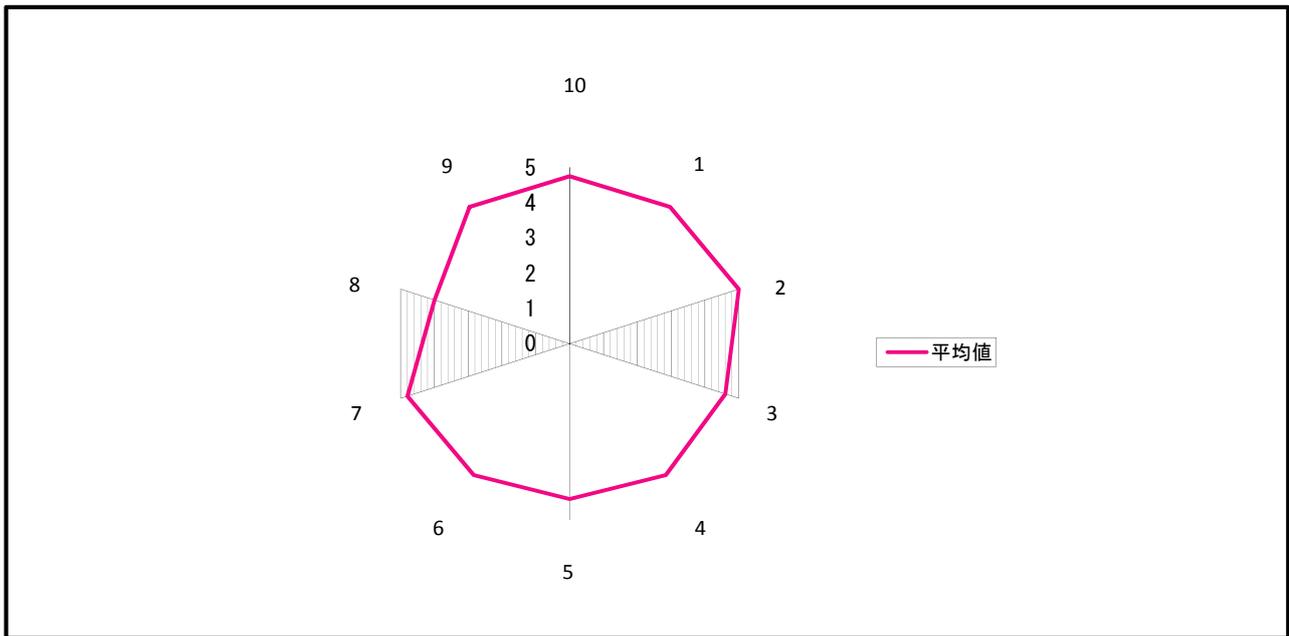
## 教員のコメント

項目の評価が4.1~4.7であり4以上であったこと、総合評価が4.6であったことなど、一定の評価を得たといえる。また(3)の評価から史学演習での論文分析と、教師の実践力との関わりについての説明や指導が十分でなかった点もわかり、そのことは反省し改善すべき点である。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学演習Ⅱ  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 町田 哲 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1	2			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1			1	4.8



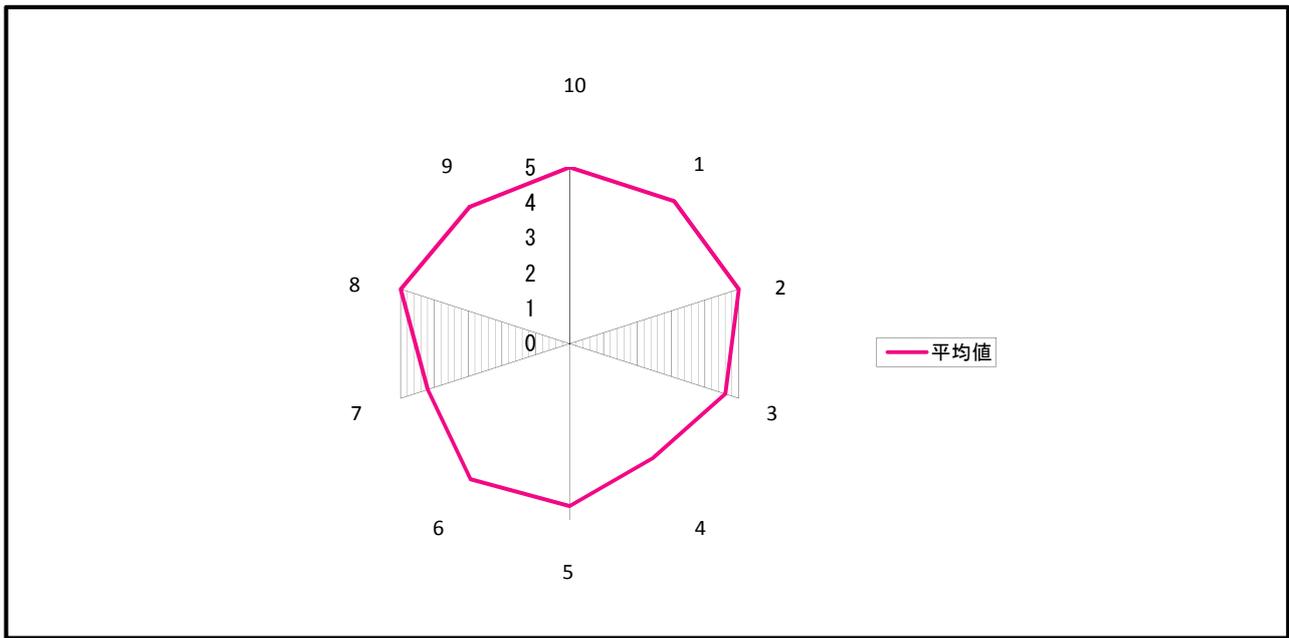
## 教員のコメント

今年度の歴史学演習Ⅱは、藩領社会を通して近世社会を捉える方法について、いくつかの論文を精読しながら考える内容であった。具体的には、徳島藩領を対象に、高橋啓『藩領社会の展開』や三宅正浩氏の最新の研究論文を読み、論文の読み方を培い、その分析手法や史料読解を確認し、論点をつきあわせながら検討するものであった。こうした手続きをへて歴史研究の方法を学び、歴史を考察することができる力量を高めようというのが狙いであった。毎週論文を読みこなす、かなりハードな内容であったにも関わらず、受講生は積極的にこれに参加し、その内容や意義についてもおおむね理解を得られたからこそ、総合評価4.8の数字になったものと考えられる。板書・機器利用の点が低いのは、演習が中心で使わなかったからであろう。

# 結果報告書

授業科目名 歴史学演習Ⅲ  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 原田 昌博      回答者数 5 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2					4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1	2				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2					4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1				1	4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	2	1				4.2
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5						5.0



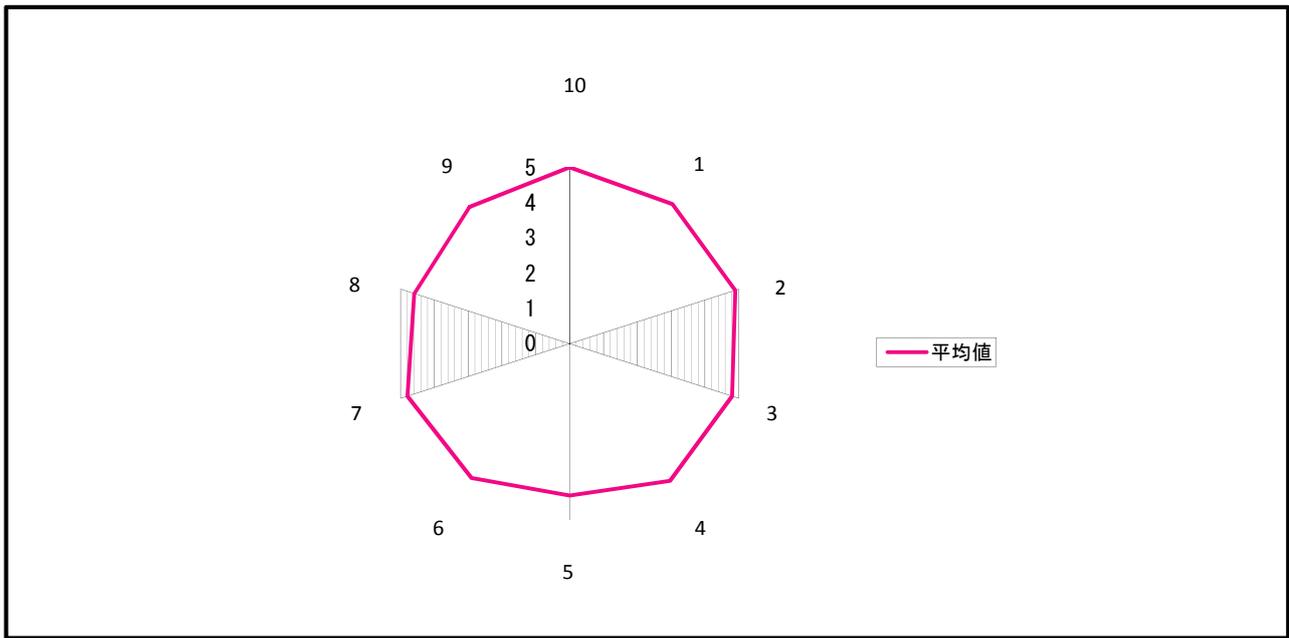
## 教員のコメント

本授業は受講者が決められたテキストの内容を毎週輪番で報告し、それに基づいてディスカッションする形で進められ、さらに、受講者はテキスト以外にも追加的に配布される関連論文も読んでテーマに対する理解を深めた。2015年度はJ・ハーバーマス『公共性の構造転換(第2版)』(未来社)をテキストにした。非常に難解な内容ではあったが、受講者数5名は全員が毎週丁寧にテキストを読んで議論に参加していた。ほぼすべての質問項目が「5」の評価となっており、授業担当者として概ね本講義の目標を達成できたのではないかと考えている。例えば、質問2で全員が「5」と評価していることから、受講者にとって本授業が歴史学(外国史)の専門的知識を習得にするうえで役立つものであったこと、また質問10でも全員が「5」と評価している点から、受講者が本授業に満足していたことが言えるであろう。

# 結果報告書

授業科目名 法学・政治学演習  
 評価実施日 平成28年2月16日  
 担当教員名 麻生 多聞      回答者数 10 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	1				4.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	9	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	8	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	8	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	5	1			4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	8	1	1			4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	8	2				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	4				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	9		1			4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	10					5.0



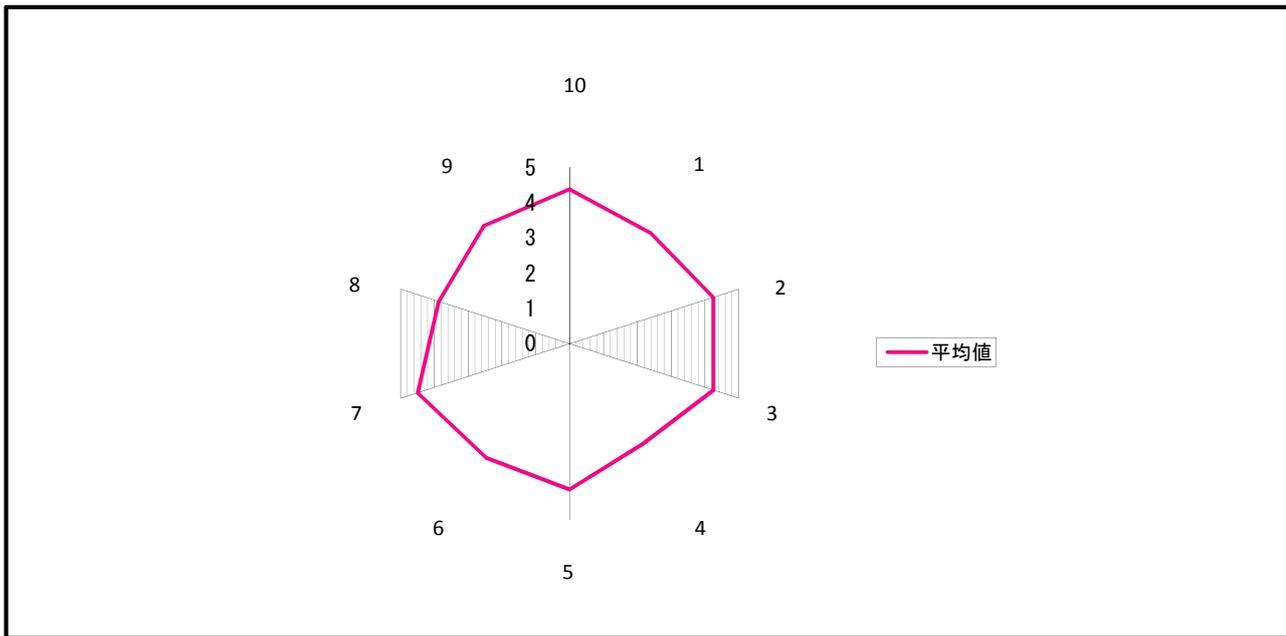
## 教員のコメント

授業評価の内容を拝見しました。今期は、ロメオ・ダレール著『世界はなぜルワンダを救えなかったのか・PKO司令官の手記』（風行社、2012）を講読したわけですが、内容にボリュームがあり（全500ページ）、また内容も皆さんにとって縁遠い（はるかアフリカ大陸のルワンダにおける民族紛争ということもあって、予習に労力を割かせてしまうこととなったように思います。毎回の演習では、ひとつの章ごとに区切って文献を精読していきましたが、教員の側でも毎週の予習は容易なものではありませんでしたので、学生の皆さんにとってはなおさらのことだったのではないかと思います。しかし、そのような事情の中でも、一部の学生は真摯に予習をしており、質問も活発に提起してくれるなど、やりがいを感じる瞬間が少なくありませんでした。また、大半の学生が予習をしっかりとこなしており、討議にも十分ついてくることが出来ていたように思います。教員の立場としても、一緒に勉強をさせてもらい、皆さんとの討議を通じて、国連平和維持活動の意義と課題について理解を深めることの出来る有意義な時間でした。受講者の皆さんに感謝を申し上げます。ありがとうございました。

# 結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習 I (地理領域)  
 評価実施日 平成28年2月5日  
 担当教員名 伊藤 直之      回答者数 8 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	3	3				3.9
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	2	2				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	2	2			3.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1	3				4.1
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	3	1	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	4					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2	2	1			3.9
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	3	2				4.1
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	3	1				4.4



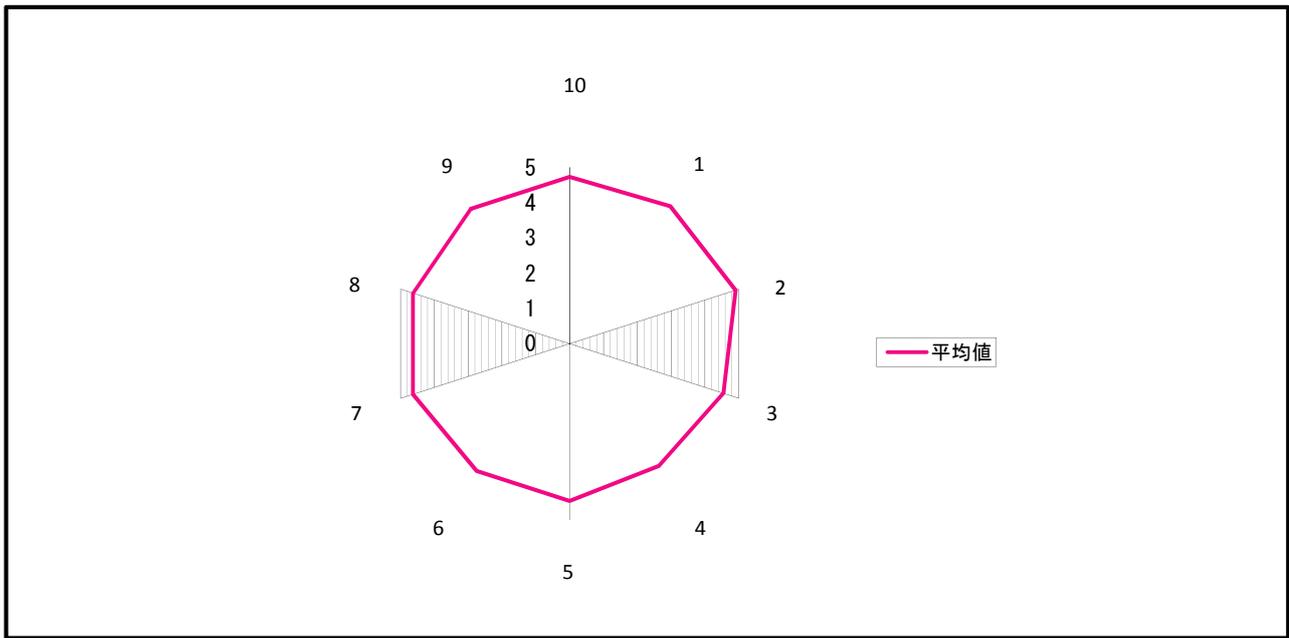
## 教員のコメント

成績評価の方法の説明について、課題を残したようである。  
 学期末課題のレポートの出題に際して、より丁寧な説明を心掛けることにしたい。

# 結果報告書

授業科目名 社会科教材開発演習Ⅱ(歴史領域)  
 評価実施日 平成28年2月18日  
 担当教員名 梅津 正美      回答者数 11 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	9	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	10	1				4.9
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	3	1			4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6	2	3			4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	3		1		4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7	2	2			4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7	4				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	8	2	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	8	3				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	9	1	1			4.7



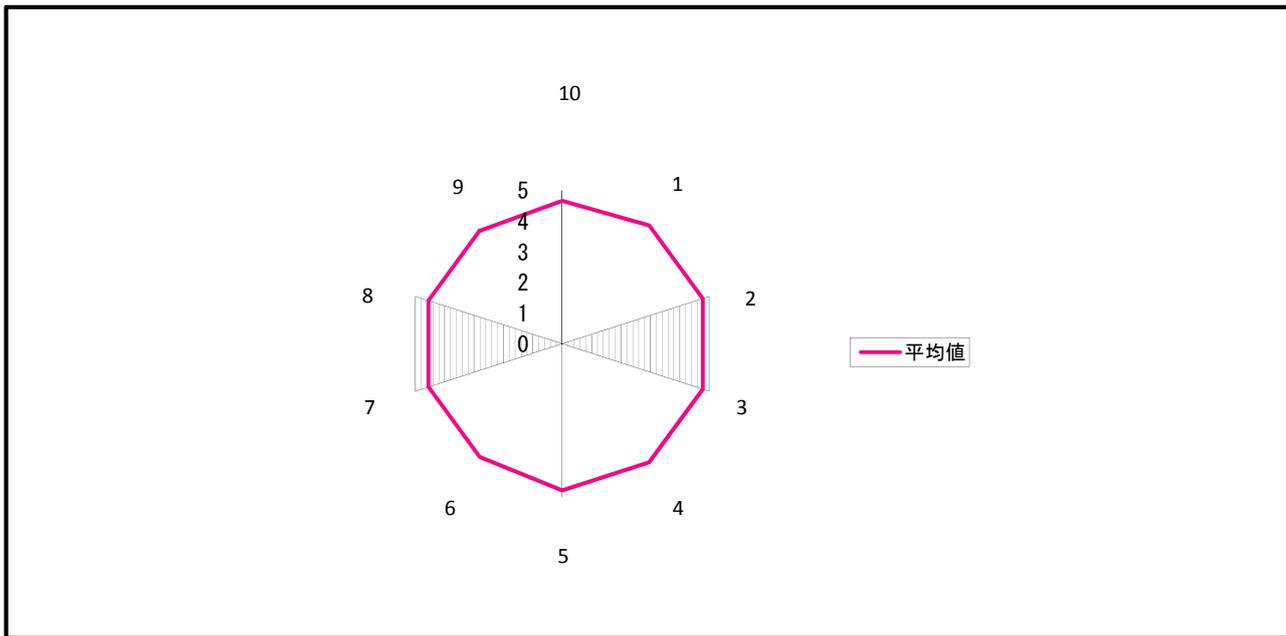
## 教員のコメント

歴史教育における目標・授業構成・実践・評価の結びつきを観点に、典型的な歴史授業研究の事例を学生自身が分析・発表・討論することを通じて、能力ベースの歴史授業の類型・特質・課題を明らかにしようとした。取り上げた授業研究例は、学校現場でなされた研究を基本とした。アンケート結果において、総合評価が4.7、個別項目では専門的知識を深める内容が4.9、実践力の育成につながる内容が4.5、学生が授業に主体的に取り組んだ内容が4.7であったことから、本授業のねらいと意義は概ね達成されたものと判断できる。

# 結果報告書

授業科目名 代数学演習  
 評価実施日 平成28年2月5日  
 担当教員名 平野 康之      回答者数 9 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7	2				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7	2				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	7	2				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	7	2				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	7	2				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6	2	1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6	2	1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6	2	1			4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6	2	1			4.6
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	3				4.7



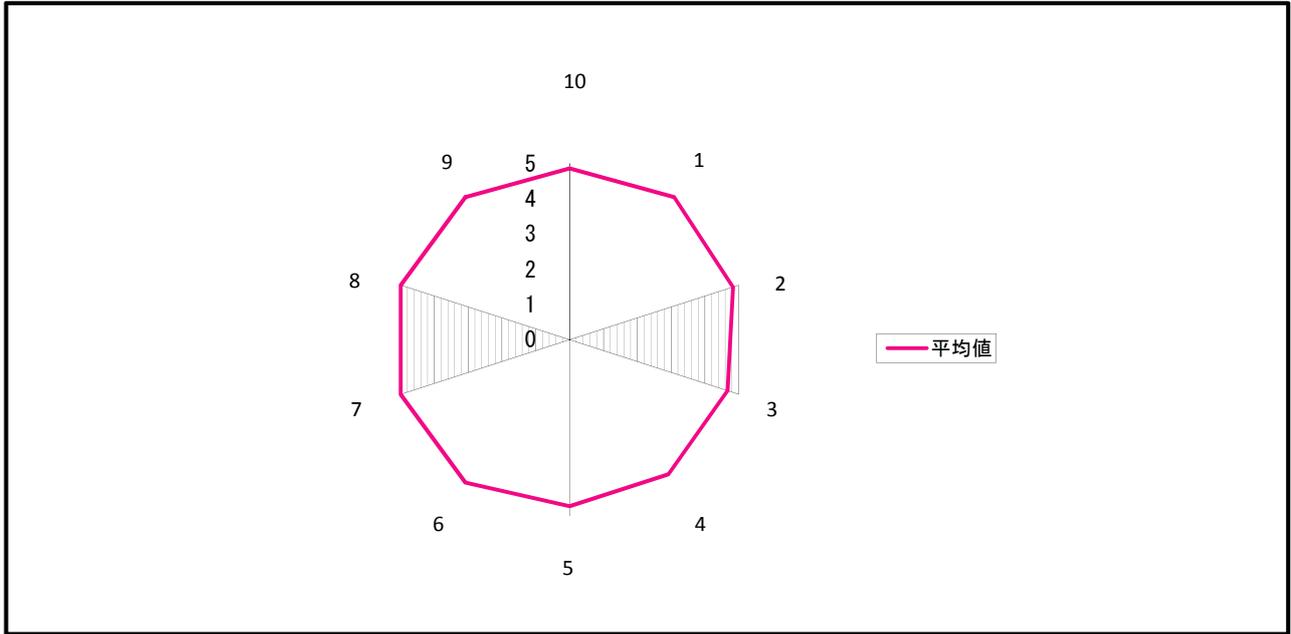
## 教員のコメント

すべての質問項目について、平均値が4.6以上の評価が出ており、特に質問項目[1]～[5]に対しては、平均値4.8の評価であった。総合評価の平均値の4.7であることから、本授業科目の目的はおおむね達成されたと評価できる。一方で、質問項目[6][7][8][9]に対し、3を選択した学生が1名いた。今後は、受講生に分かりやすく説明し、教科書や配布された資料についても吟味し、板書や視聴覚機器の使用も十分に考慮するなどの様々な工夫を取り入れることが重要であると思う。

# 結果報告書

授業科目名 幾何学研究  
 評価実施日 平成28年2月2日  
 担当教員名 松岡 隆      回答者数 7 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5	1			1	4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	2			1	4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6		1			4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	2				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6	1				4.9



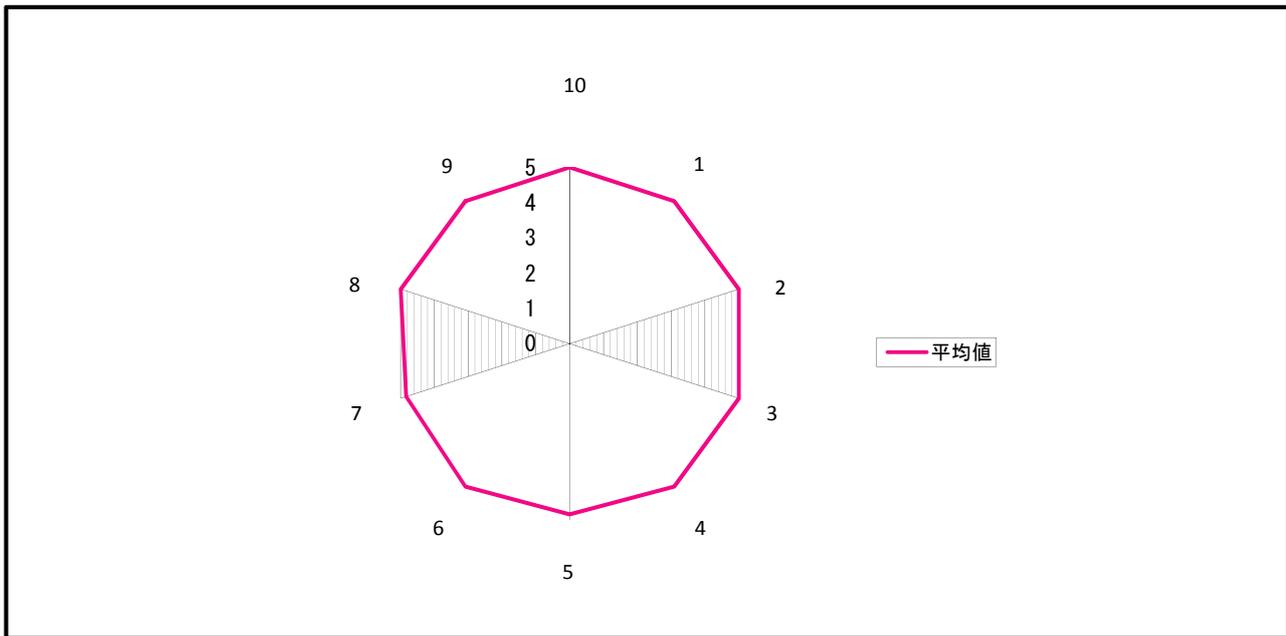
## 教員のコメント

45 各項目の評価平均値がすべて4.7以上で総合評価が4.9であり、高い評価が与えられていると考える。自由記述の「よかった点」欄には1件の記述があり、その内容は「アクティブラーニングがたくさんある授業でよかった。」であった。改善点に「解答スピードがみな違うのに、早く解けた人から加点の対象になるのは、いかがだと思います。」との記述があった。これは解答を発表した学生に加点していることに対する疑問であるが、この方式は大方の学生から支持を受けており、現状のまましていきたいと思っている。

# 結果報告書

授業科目名 幾何学演習  
 評価実施日 平成28年2月2日  
 担当教員名 松岡 隆      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



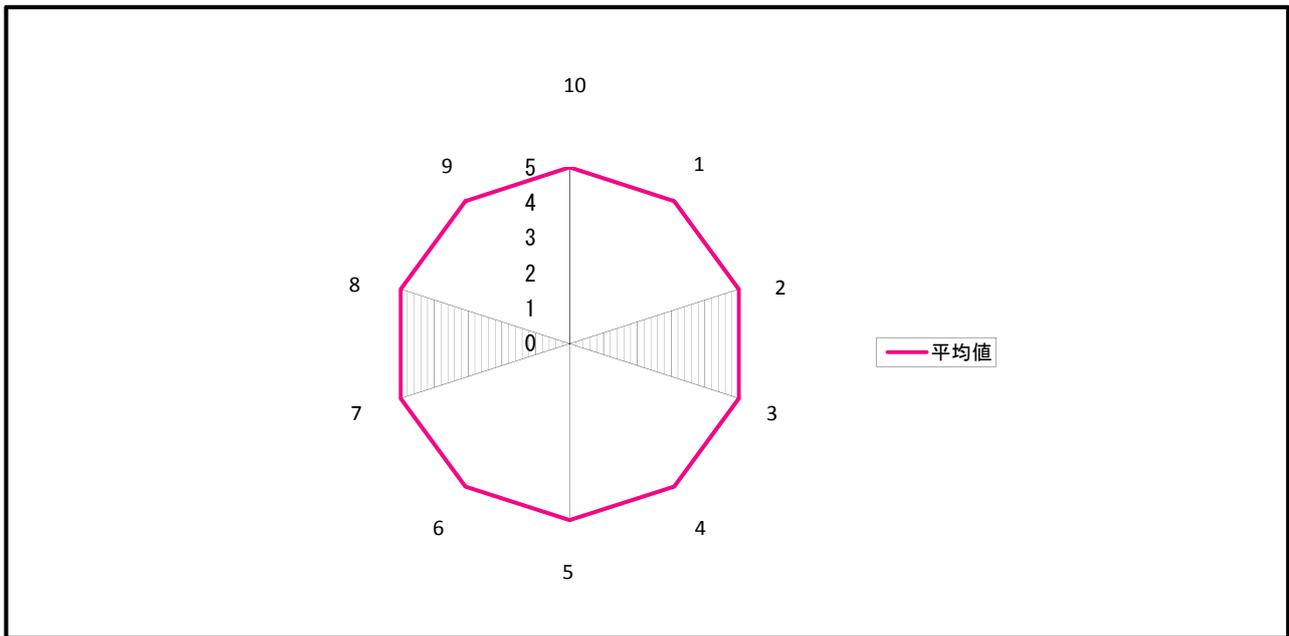
## 教員のコメント

各項目の評価平均値がすべて4.8以上で総合評価が5.0であり、高い評価が与えられていると考える。自由記述欄への記述は無かった。

# 結果報告書

授業科目名 解析学研究  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 成川 公昭      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



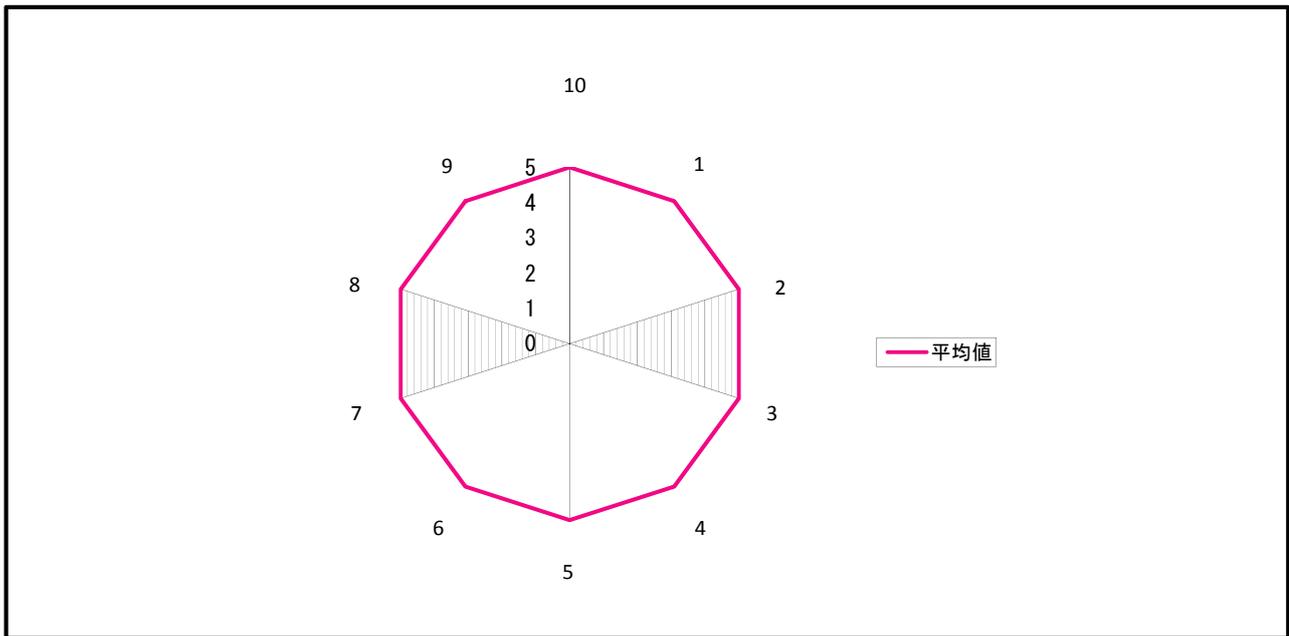
## 教員のコメント

大学院の授業では、できるだけ専門的内容と学校数学との関わりに重点を置いて進めた。また、学生の意見や発表を取り上げ、それを議論を通して深めることにつとめた。その結果、5名の受講者全員がすべての項目に亘って5の評価を出し、十分に授業の意図するところが伝わり、学生も満足できたと評価できる。記述欄はそれぞれの事項において1名の学生のみの記述しかなかったが、よかったと思われる点については「専門的知識がひろがり、また、高校生・中学生に指導する方法についても考えられた点」、授業に主体的・積極的に取り組んだ理由として「休まず出席して、発表をしっかりと行った。」とあり授業の目的が十分に捉えられ、学生の積極的な参加や満足度も十分であったことがうかがえる。

# 結果報告書

授業科目名 解析学演習  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 成川 公昭      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	5					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



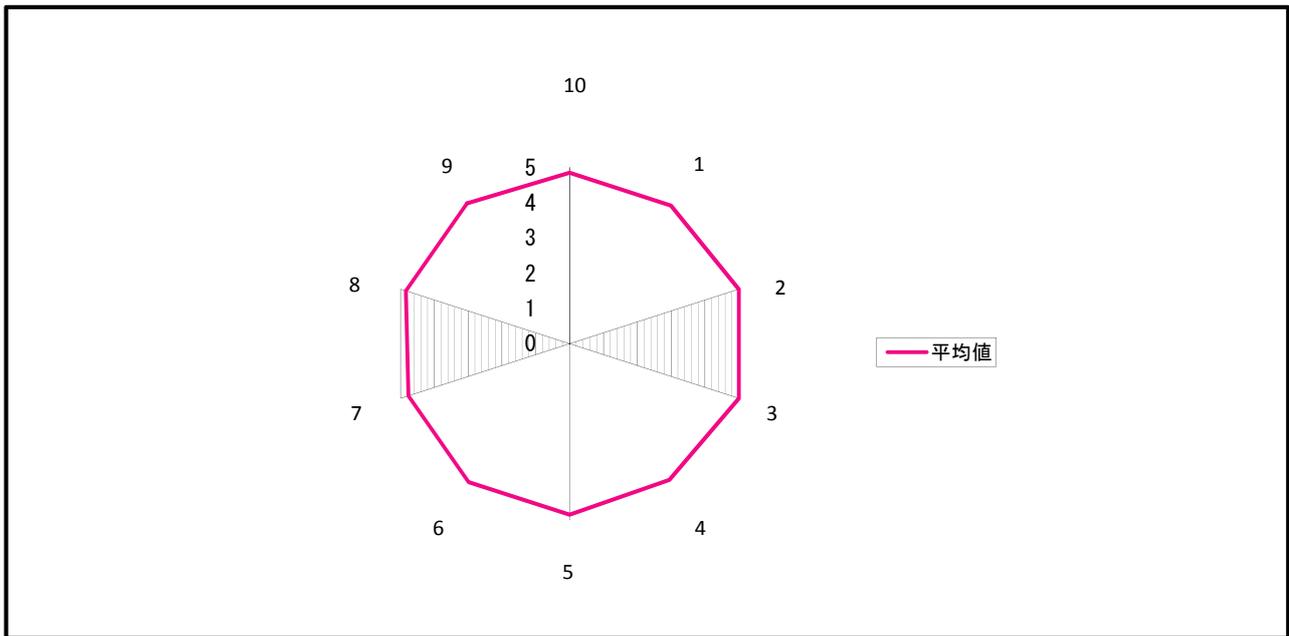
## 教員のコメント

解析学演習では解析学研究の内容を具体的な例題とともに演習として行った。この教科も解析学研究と同様に、解析学の専門的内容と学校数学の関わりについて重点を置いて行ったが、とくに具体的な問題を解析することにより、実際の学校教材にも触れることができた。その結果、選択式による回答は5人全員が5の評価を出しており学生の理解度、満足度、授業への主体的・積極的参加ともに十分出会ったと考えられる。記述式による回答が書かれていたのは1名のみであったが、「研究で習ったことを深めることができました。」「休まず出席し、課題を忘れなかった。」とのことであった。

# 結果報告書

授業科目名 数学科教育学演習  
 評価実施日 平成28年2月5日  
 担当教員名 秋田 美代      回答者数 13 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	12		1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	13						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	13						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	11	1	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	11	2					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	11	2					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	11	1	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	12		1				4.8
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	12	1					4.9
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	12		1				4.8



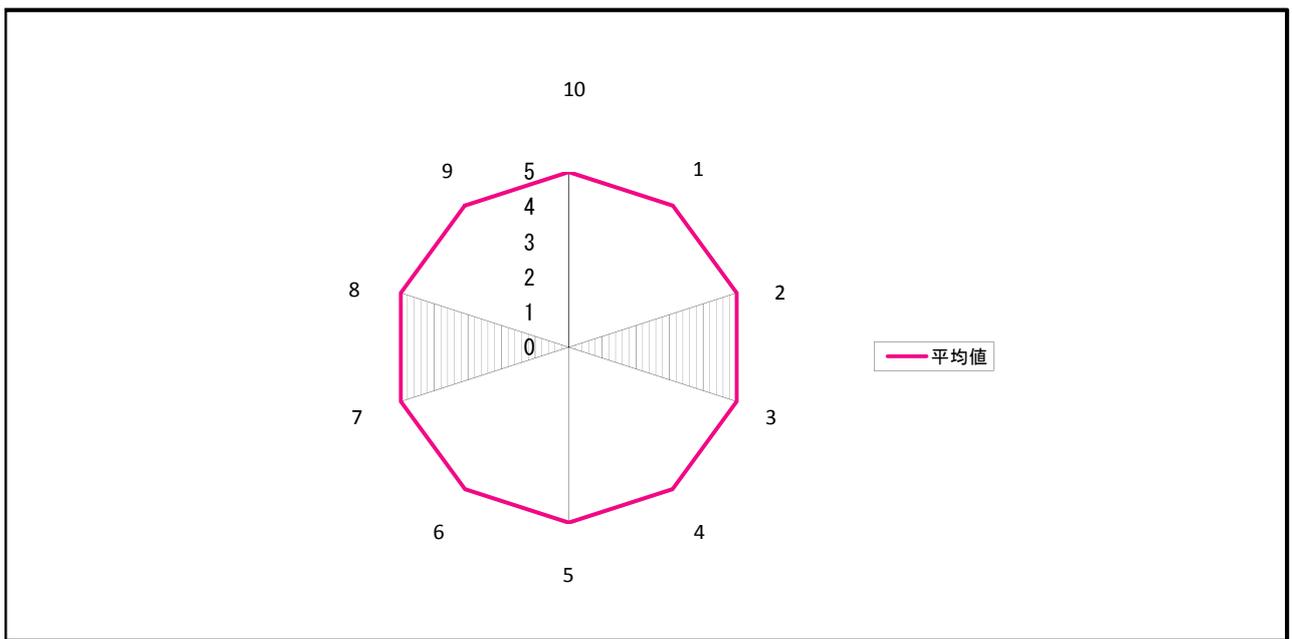
## 教員のコメント

この授業科目の主な目標は、「数学科教育学研究」の授業内容を基盤として、数学科における実践的課題を探究すること、及び数学教育学の研究内容・研究方法についての理解を深めることであった。総合評価の平均値は4.8であり、評価の平均値が高かった質問項目は、「(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった」、「(3)教師の実践力の育成につながる内容であった」、「(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ」等であった。アンケートの記述では、この授業のよかった点としては「論文を書くうえでの素地がついた」、「専門的な知識の習得に役立つ内容であった」、「算数・数学の授業の構造について分かった」、「専門性と実践力を身に付けることができた」等の回答が、授業に主体的・積極的に取り組んだ理由としては「授業設計、実践することで、理論だけでなく授業だったらどうするのかとよりリアルに考えたから」、「授業開発や発表に積極的に取り組んだから」、「自分の研究と関連づけて授業内容を考えたところ」等の回答があり、この授業科目での活動を自己の研究や授業としっかりと結びつけて捉えていると推測できる意見が多かった。各質問項目の回答状況及び記述の内容から、授業の内容は概ね履修者に適した内容であり、ほとんどの履修者は授業科目の目標を達成できたと考えられた。授業の改善点として、受講生の理解や授業を実践する力を一層伸ばせるような、授業の構成を工夫することがある。

# 結果報告書

授業科目名 数学科授業研究  
 評価実施日 平成28年2月15日  
 担当教員名 坂井 武司      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	6					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	6					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	6					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	6					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



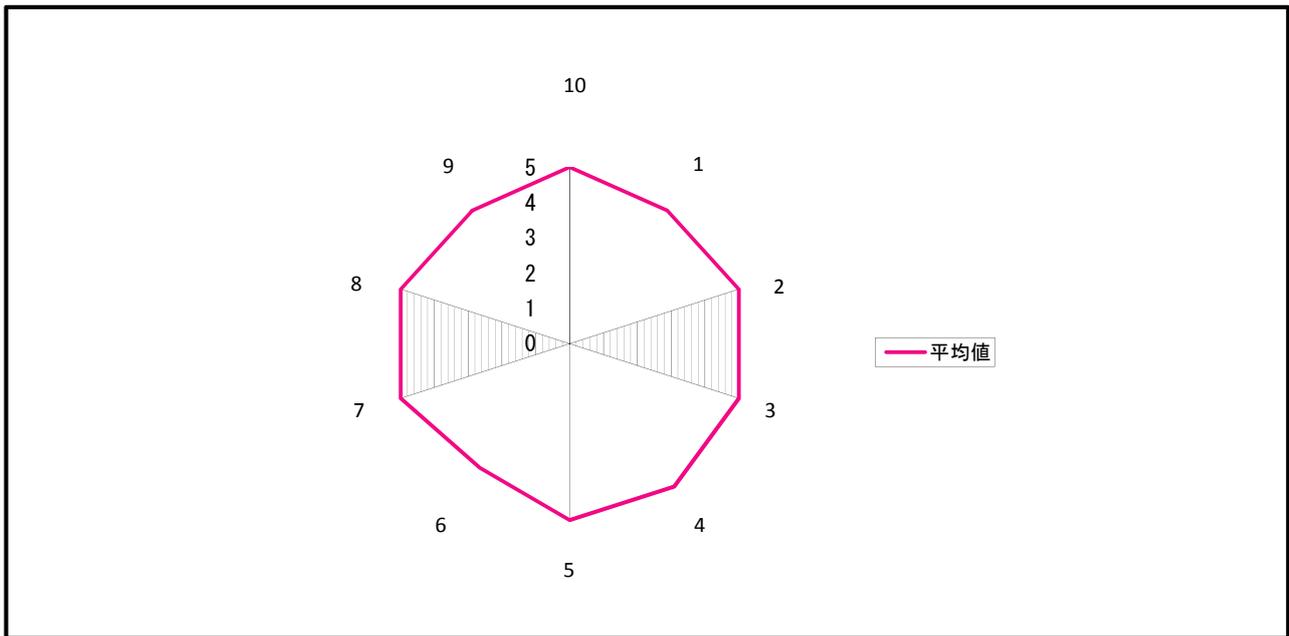
## 教員のコメント

シラバスに沿って、授業の前半では、子供の認識を調査する問題を各自で考え、それを基に、より良い調査問題となるよう議論を行った。また実際に実施した調査問題の結果を提示し、その考察を行い、子供の認識に沿った授業案の作成と模擬授業を行った。院生が今後研究として行うであろう調査や結果の考察といった内容を取り扱ったことが、院生の主体的な取り組みを促したと考えられる。授業の中盤では、数学と認知心理学に関する文献をもとに、各自が担当した章の概要と発展的に読んだ論文の報告を行い、それを基に議論を行った。院生がしっかりと文献を読み、関連する論文を調べる時間を確保するために、年末・年始をまたいだ授業構成をしたことで、質の高い報告がなされていた。授業の後半は、脳科学の知見を取り入れた授業設計を考え、模擬授業を行った。通常の学習指導案の内容を脳科学の知見に基づき解釈することで、準備された手立ての意図や、必要となる手立てを見出すことができたことが、専門的知識の深まりや授業実践力の育成に役立つと、院生が実感することにつながったと考えられる。模擬授業では、ロールプレイング型の模擬授業を行ったことにより、授業実践力を発揮せざるをえない現実的な授業場面を設定することができたことも功を奏した。全体として受講者数も少なかったため、院生の理解に合わせながら授業を進めることができ、教員・受講者ともアクティブラーニングを実施しやすかったように感じる。

# 結果報告書

授業科目名 数学科教材開発演習  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 佐伯 昭彦      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



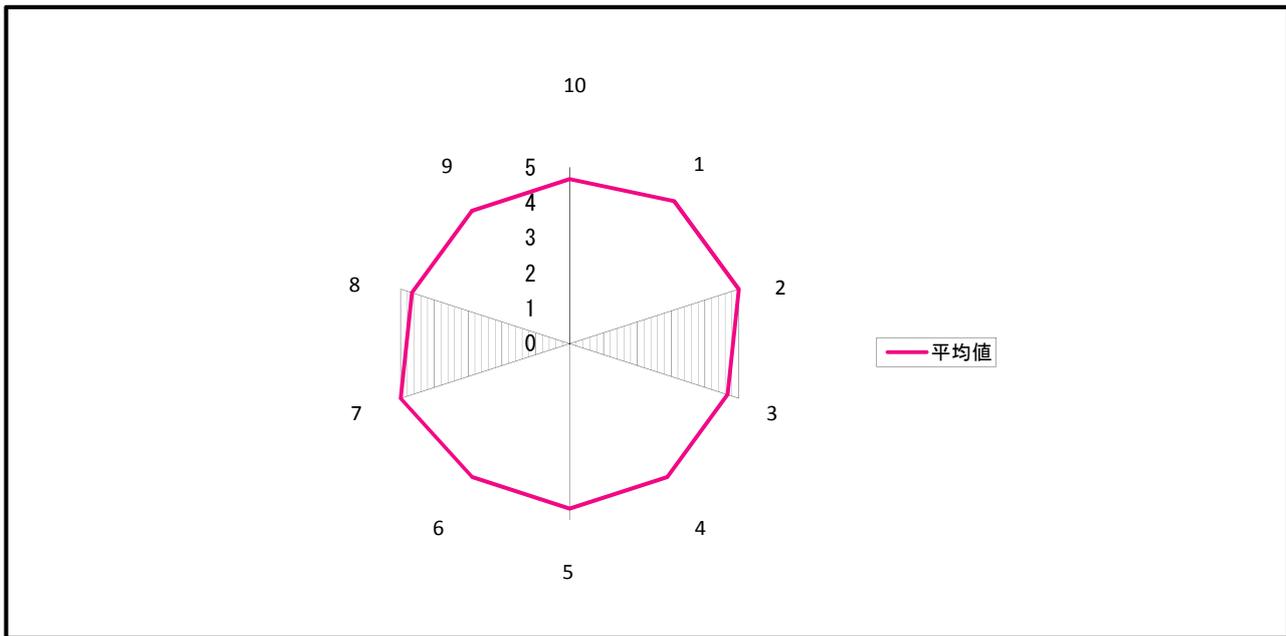
## 教員のコメント

受講生が3名のアンケートではあるが、全員の学生が総合評価で5を選択し、各質問項目も良い評価が得られた。本授業は、松茂町立図書館の来館者に和算を紹介する活動を通して、多種多様な来館者に応じて分かりやすく説明する能力を高めるとともに、文化を地域社会に継承する教師の役割の重要性を理解することが目的であった。このため、和算の題材の選択、教材開発、ワークショップの企画など、学生達の主体的活動を重視したアクティブラーニング型授業を行った。こういった学生の主体的活動が良い評価を得た大きな原因だと考えられる。参加者のアンケートは概ね良好な結果が得られた。また、新聞掲載や松茂エリアのケーブルテレビによる放映など、学外からも評価を受け、学生達の教育実践に関わる構想力・展開力・評価力を高めることができたと思う。以上のことから、本授業の目標は達成されたと思う。

# 結果報告書

授業科目名 物理学特論Ⅲ  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 粟田 高明      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



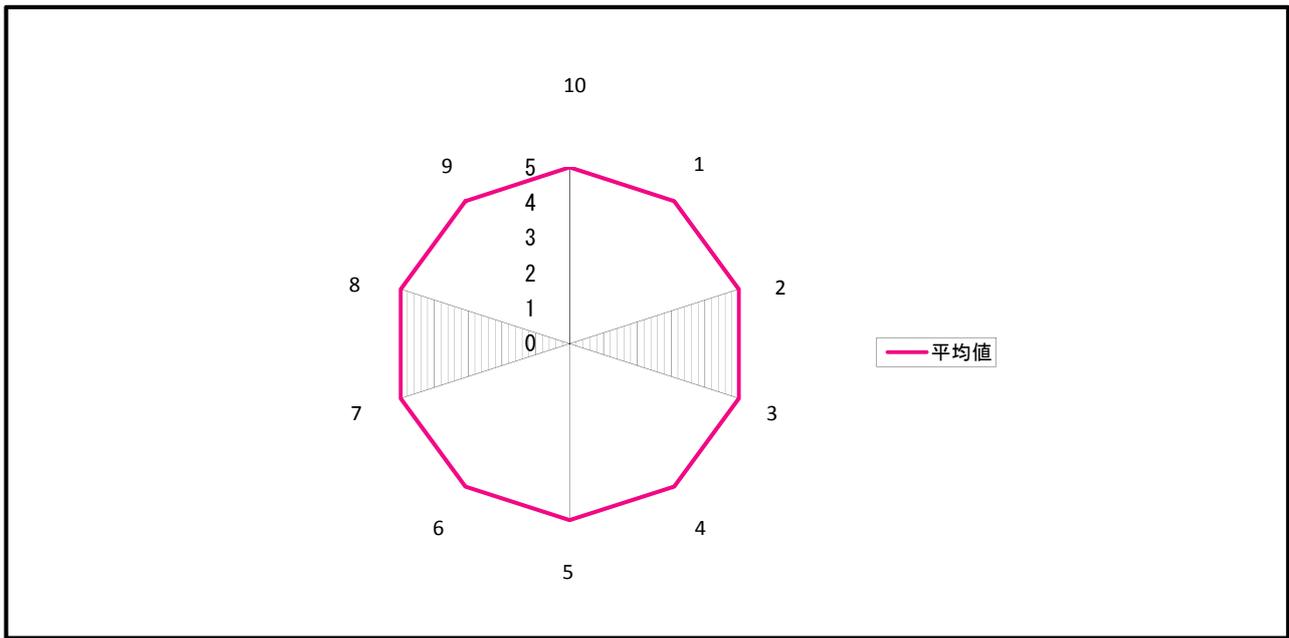
## 教員のコメント

物理学特論Ⅲでは、エネルギー資源や原子力、放射線の内容を扱う専門的な内容を取り扱っている。アンケート結果から授業内容について概ね好評であるので、来年度以降も同じ内容で続けていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 無機化学特論  
 評価実施日 平成28年2月19日  
 担当教員名 早藤 幸隆      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



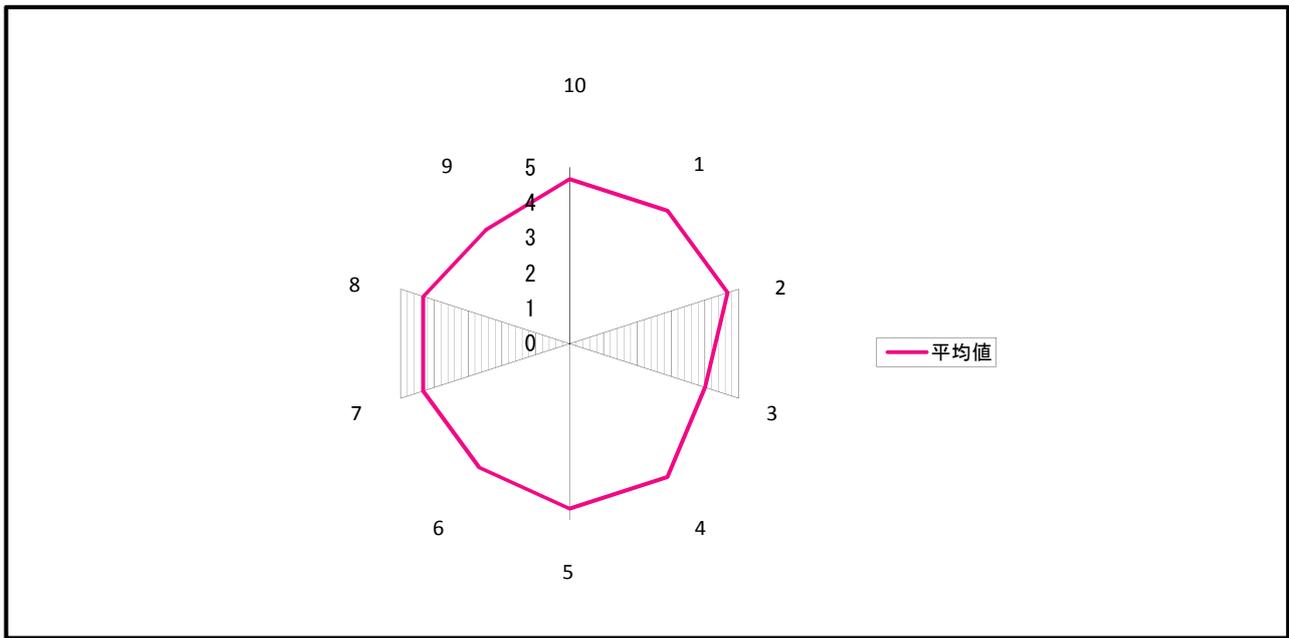
## 教員のコメント

受講者数が少ないため評価を把握する事は難しいが、全体的に受講者から講義内容に関する好意的な評価を受けている。質問項目(1)の結果より本講義における目標と目的は達成出来たと考えられる。無機化学の基礎・基本的な内容を重視した講義の構成と展開により、質問項目(2)が評価されると共に、単元の終わりに演習問題を繰り返し、その解説と説明により、質問項目(6)が評価されたと思われる。講義はパワーポイントの提示により説明を進め、パワーポイントの提示内容を資料として配付した。質問項目(10)より講義に関して好評価が得られた事から、来年度以降も講義内容や演習問題の形式などに改良を加えながら進めていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 化学特別演習 I  
 評価実施日 平成27年12月1日  
 担当教員名 武田 清                      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3					4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	2					4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		3					4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1					4.7



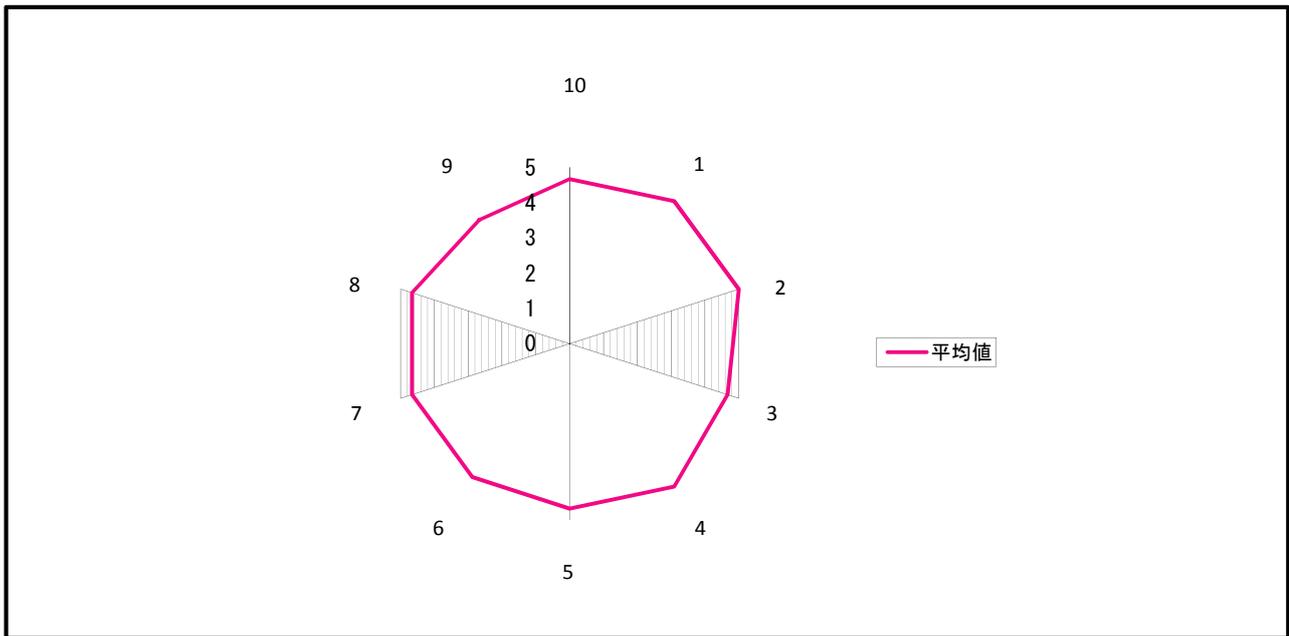
## 教員のコメント

相対的に評価の低い2項目「実践力の育成につながる内容かどうか」と「授業に主体的・積極的に取り組んだかどうか」について、一言書こう。前者については、実践力の育成が実践を伴わなければならないと考えるのは、浅はかである。大学で行っているいかなる講義も実践につながるはずがないのである。たとえ完全な座学であっても、実践に繋がれるかどうかは、受講者次第である。また、後者については、主体的に取り組んでいなければ、本科目のように実験・実習を含む授業で単位修得などできるはずがない。この項目の評価が低いのは、学生が謙遜しているだけである。

# 結果報告書

授業科目名 化学特別演習Ⅱ  
 評価実施日 平成28年2月23日  
 担当教員名 早藤 幸隆      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



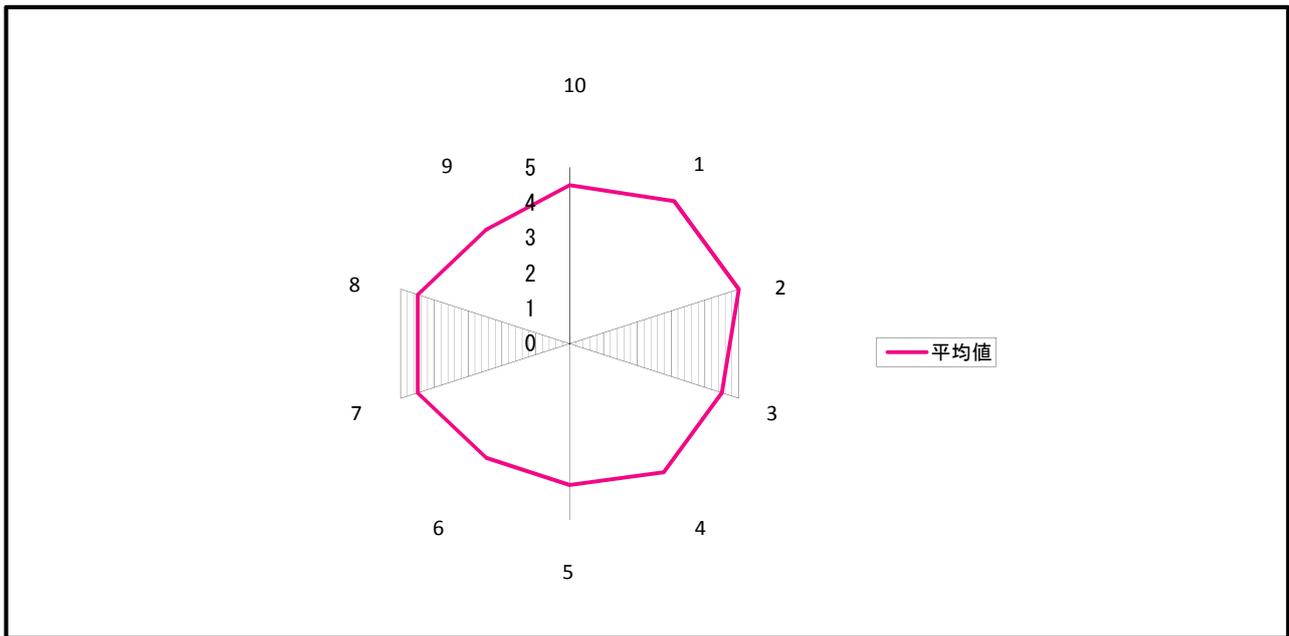
## 教員のコメント

受講者数が少ないため授業評価は難しいが、受講者から授業に関する好意的な評価を受けている。質問項目(1)の結果より本講義における目標と目的は達成出来たと考えられる。有機化合物の分子構造決定に関する基礎・基本的な内容を重視した講義の構成と展開により、質問項目(2)が評価されると共に、演習問題を繰り返し、種々の機器分析の情報解析における解説により、質問項目(6)が評価されたと思われる。講義はパワーポイントの提示により説明を進め、パワーポイントの提示内容を資料として配付した。質問項目(10)より講義に関して好評価が得られた事から、来年度以降も最新の機器分析の内容に即した形式として改良を加えながら、進めて行きたい。

# 結果報告書

授業科目名 生物科学特論 I  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 米澤 義彦 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	1				4.5
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1				4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1		1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1		1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1				4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		1			4.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1				4.5



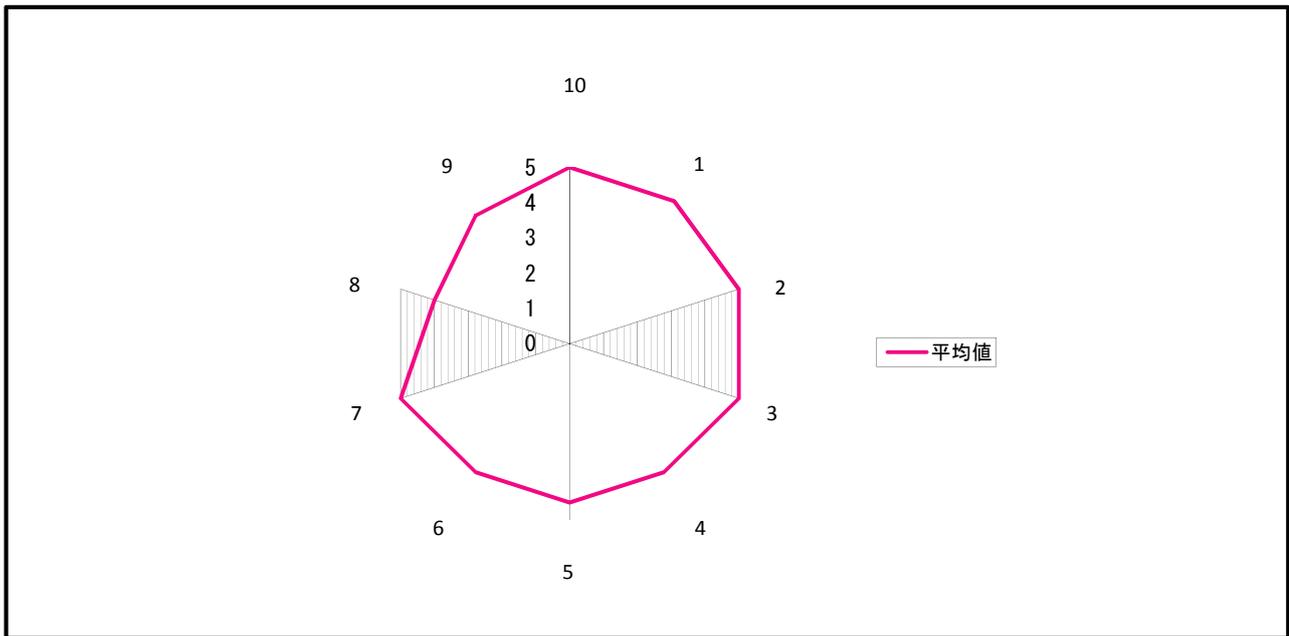
## 教員のコメント

受講者が2名であり、しかもいずれも生物学を専門としない学生であるので、授業評価の結果に対してコメントできる状況ではない。ただ1名の受講者は、授業者の質問に対して真剣に応答してくれたので、授業の内容をある程度理解してくれたものと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 地学実験法特論  
 評価実施日 平成28年2月16日  
 担当教員名 小澤 大成, 村田 守, 香西 武, 足立 奈津子      回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1					4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1					4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1		1				4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



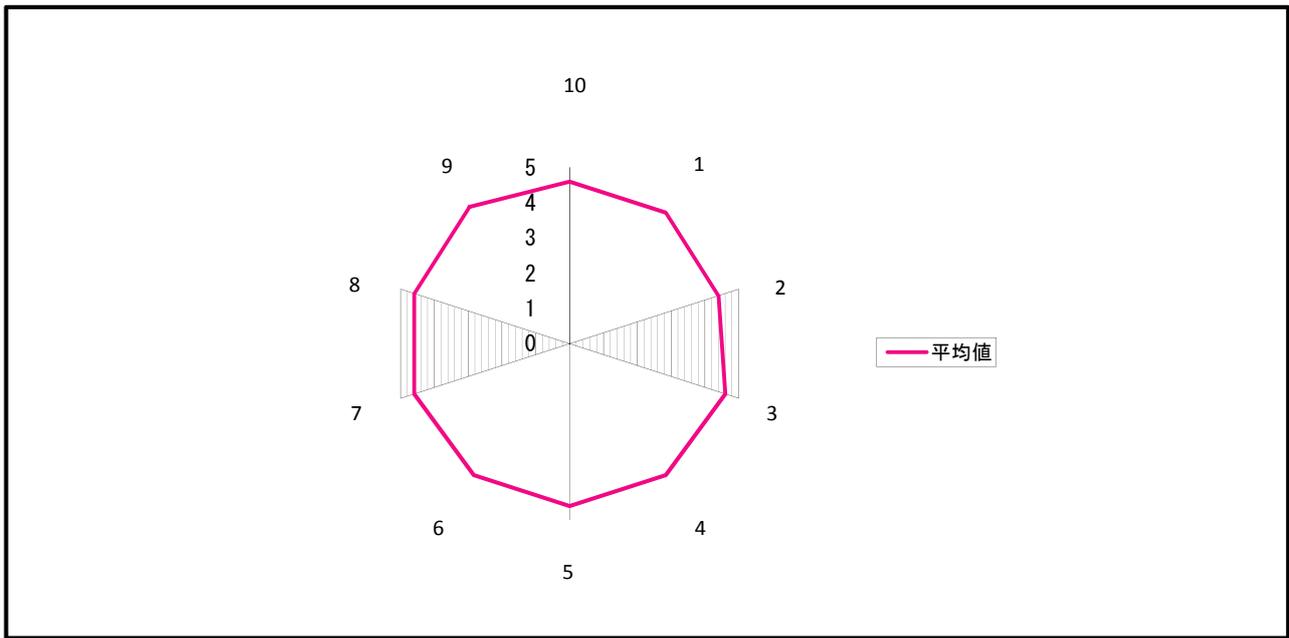
## 教員のコメント

総合評価は評価参加者2人とも5.0であり、授業に満足していると考えられる。その理由として「実習をともなう授業であった」というコメントが示すように、実験をしながら岩石や鉱物について学んだことが反映していると考えられる。引き続き同じような授業を提供していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 理科授業研究  
 評価実施日 平成28年1月21日  
 担当教員名 早藤 幸隆, 寺島 幸生, 佐藤 勝幸, 香西 武 回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	2				4.6
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1	1			4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	2				4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	2				4.6
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	2				4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4		1			4.6



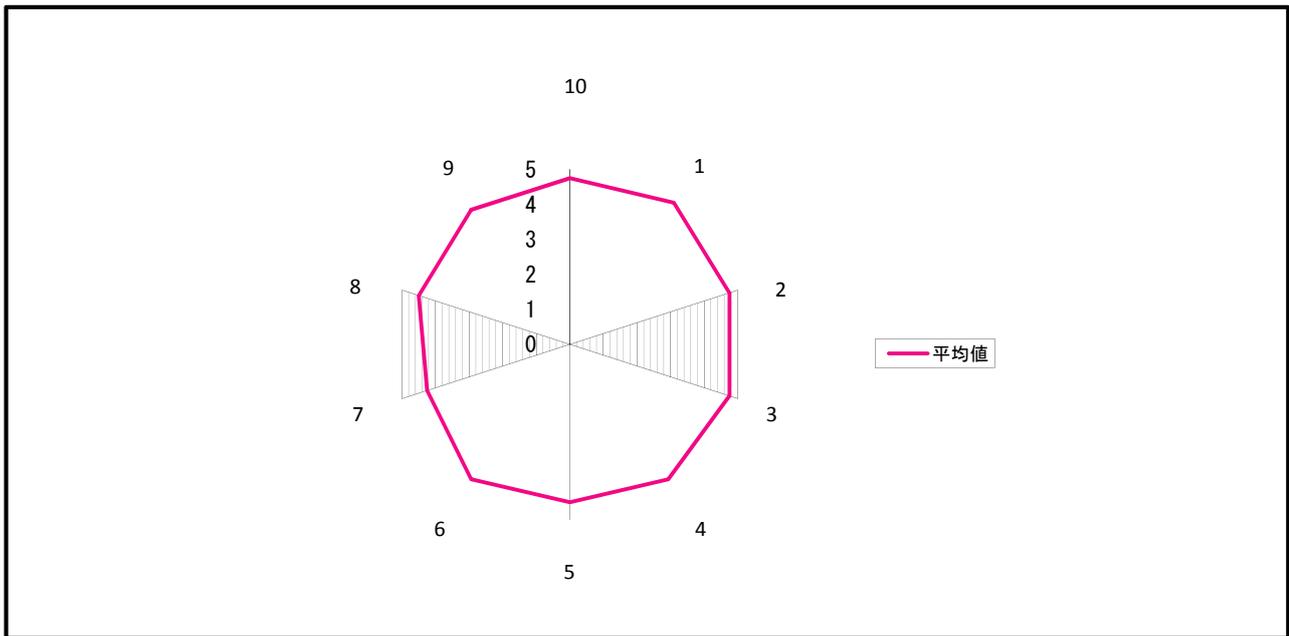
## 教員のコメント

全体的に受講者から授業内容に関する好意的な評価を受けている。質問項目(1)の結果より本授業における目標と目的は達成出来たと考えられる。学校現場での授業視察による実践的な理科授業における内容構成から、質問項目(3)が評価されると共に、各学校種における理科授業の展開・構成・内容を重視した講義により、質問項目(6)が評価されたと思われる。講義はパワーポイントの提示により説明を進め、パワーポイントの提示内容を資料として配付した。質問項目(10)より授業に関して好評価が得られた事から、来年度以降も授業内容や授業視察の形式などに改良を加えながら進めていきたい。

# 結果報告書

授業科目名 音楽劇総合演習  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 真鍋 美恵      回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3	1					4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3	1					4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3		1				4.5
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3	1					4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1	1				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3		1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1					4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1					4.8



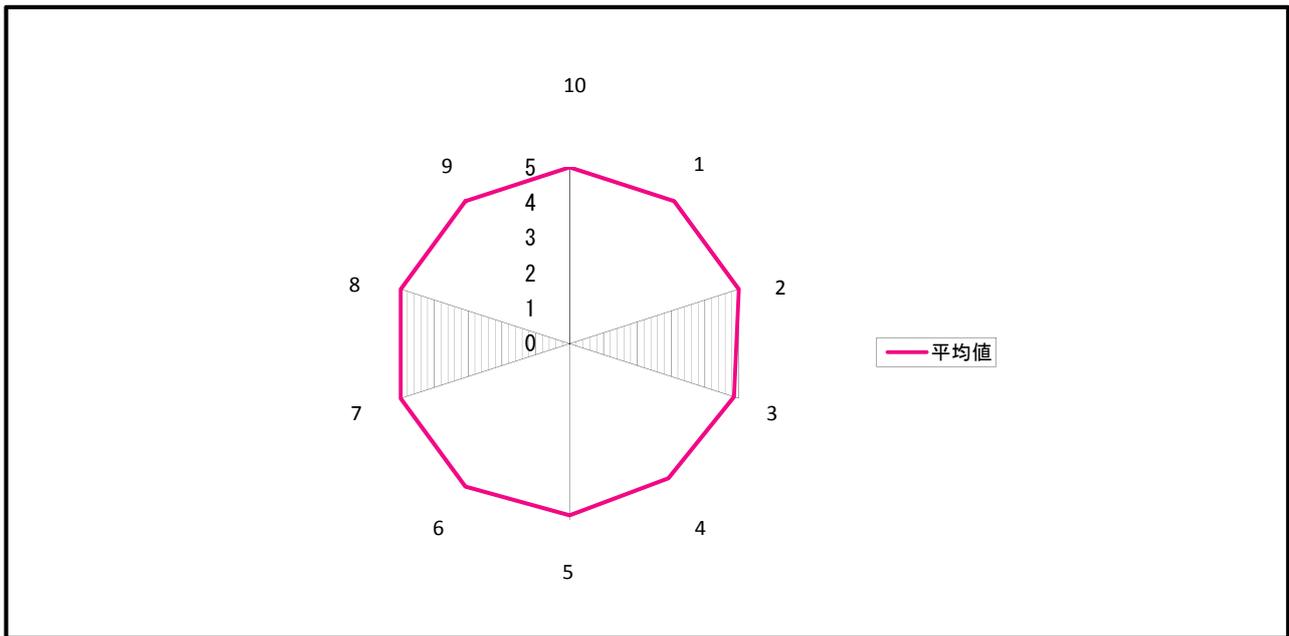
## 教員のコメント

本年は受講人数が4名だったので、それぞれに演目を設定し、重唱やアンサンブルを加えながらの課題を与えた。一作品に固定しなかったことで、授業内で各演目に割く時間が少なくなってしまうが、学生は他の学生の取り組みや歌唱を通して学び、気付くこともあったようで、一貫して積極的に活動していたと思う。科目の特性上、より専門性の高いレベルでの楽譜を読む力を身につけることにも重点を置いた。また同時に、ピアノの演奏を専科とする学生が履修していたので、授業を大変スムーズに進めることが出来た。学生のアンケートにもあった通り、限られた時間内で作品を演じる技術とそれに伴う歌唱力を身につけることは難しいが、着眼点や、スキルアップの方法を演習をとおして学ぶことで今後の取り組みに活かしてほしいと願っている。また、学生には、この授業の過程で見せてくれた自己の表現力と、各々の持つ豊かな感性を育ててほしい。

# 結果報告書

授業科目名 歌唱表現演習  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 頃安 利秀      回答者数 7 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	7						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	7						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	6	1					4.9
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	6		1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	6	1					4.9
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	7						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	7						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	7						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	7						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	7						5.0



## 教員のコメント

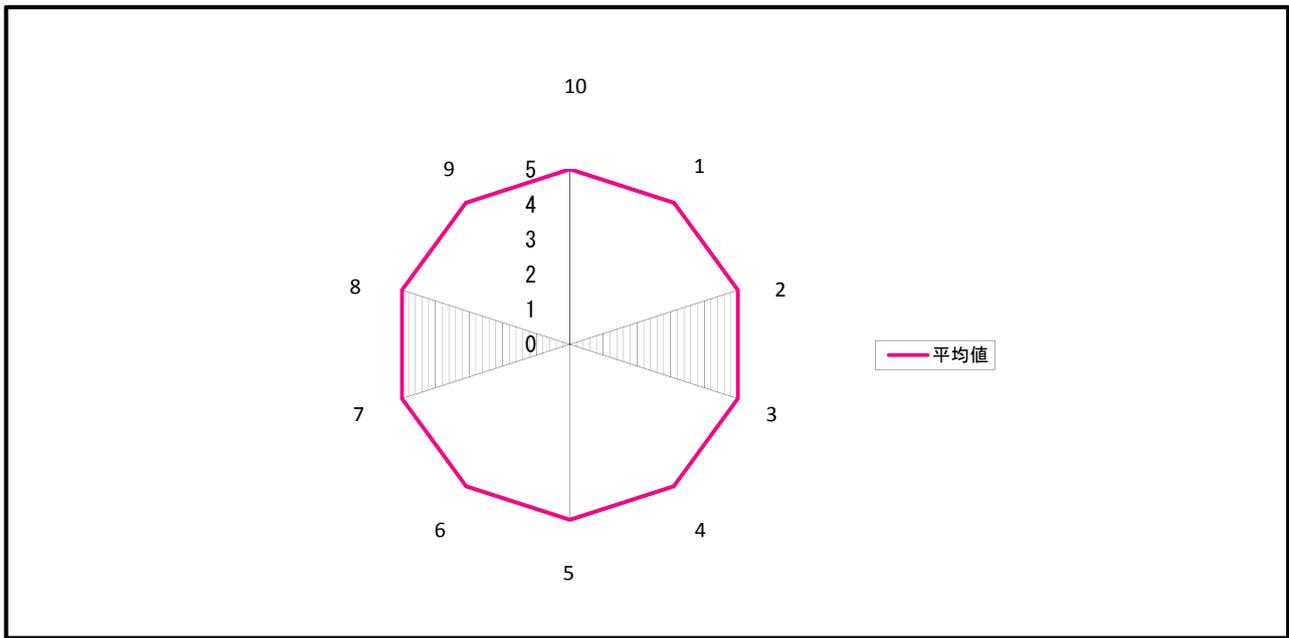
本演習は、声楽実技能力を高め、小・中・高等学校における歌唱教材が「自然で無理のない歌い方」で歌え、且つ指導できるようになることを目標としている。実技能力は受講生一人ひとり違っているため、できるだけ個々の能力に合った指導を心がけている。その結果としてこのような評価につながったと考えている。

この授業の受講生の中には芸術系コース(音楽)の学生以外にも他コースの学生や教職大学院の学生(聴講生)も含まれている。そのため、受講生個々の音楽的な実技能力にはかなり差があった。しかしこの授業では、夫々が自分のからだを無理なく使い、自然で無理のない歌い方ができるようになることが目的であり、決して音楽的な実力を評価する授業ではない。自分の実力に見合った楽曲を選び、自分なりに自然な歌い方ができればいいので、授業の評価については出席やレポートを主な評価の対象としている。専門的知識を深めるのに役立つ内容(5.0)であると同時に、教師の実践力の育成につながる内容(4.9)でもあったと評価されている。授業の進め方についても高い評価(4.9)を得られている。総合評価(5.0)からも、この授業が十分に教師の実践力育成に寄与するものであると考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 室内楽(器楽)  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 森 正, 山根 秀憲      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



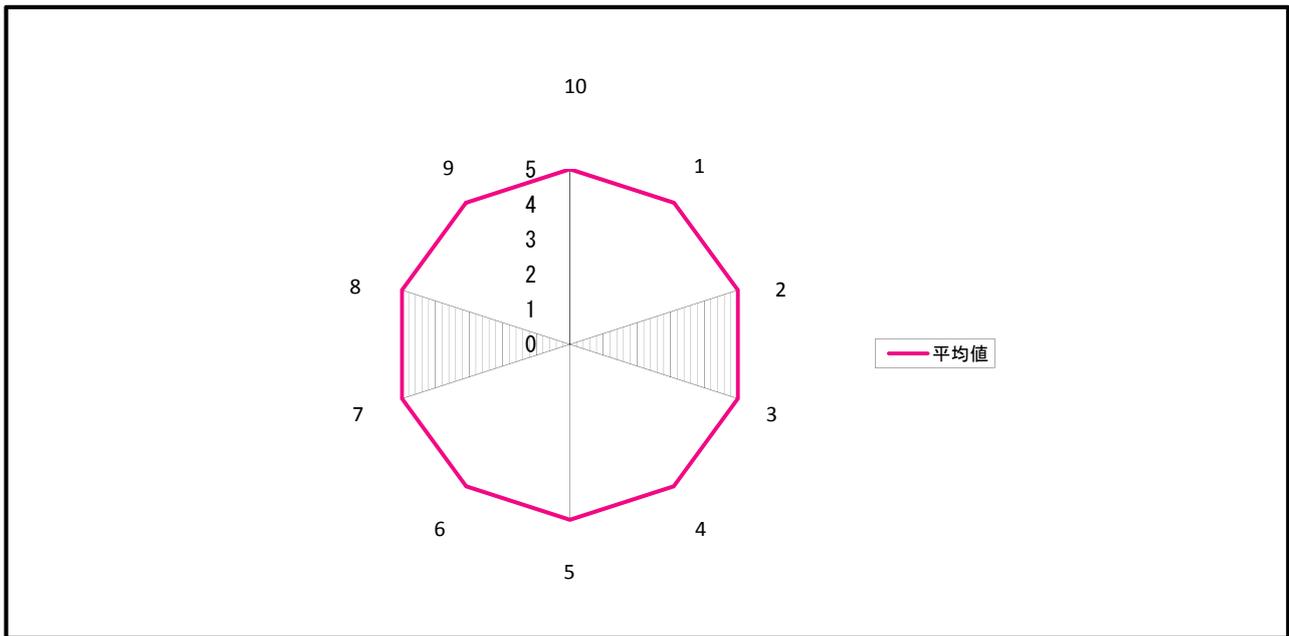
## 教員のコメント

受講生の数はこの数年目立った増減はいが、他人とのアンサンブルが授業の目的であるので、もう少し受講生が増えることが望ましいと考える。しかし受講生が少ないとはいえ、昨年度は受講生の意欲が非常に高く、音楽経験や演奏技術等には多少の差があったものの、その状況に適した課題を選ぶことによって、充実した授業になり、その結果受講生から高い評価を得ることが出来たと考える。このような状況での授業なので、教員は学生に与える教材についてマンネリになることなく、日頃からの研究、調査が必要であることも強く感じた。

# 結果報告書

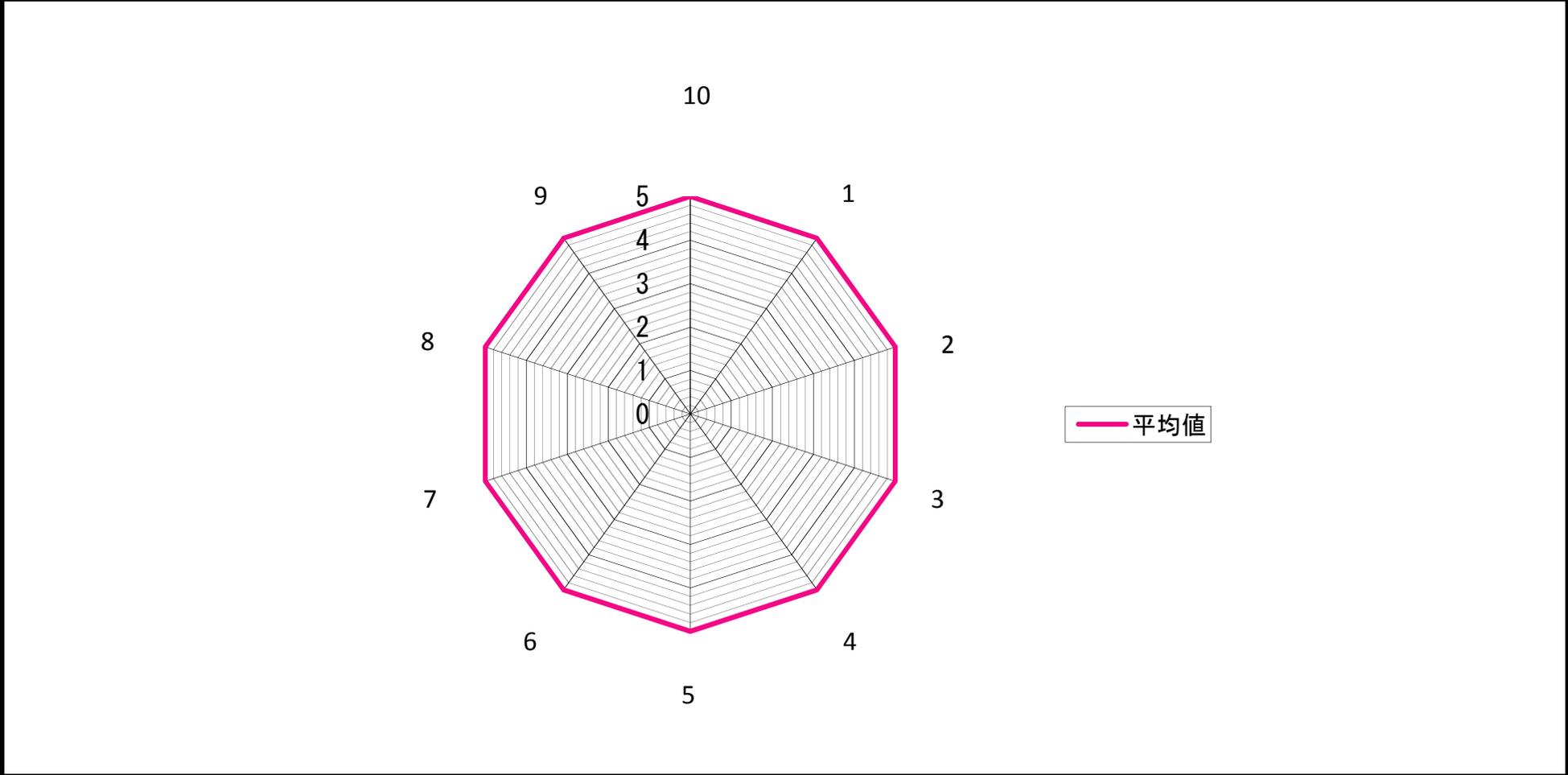
授業科目名 作曲法基礎演習  
 評価実施日 平成28年2月18日  
 担当教員名 松岡 貴史 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



## 教員のコメント

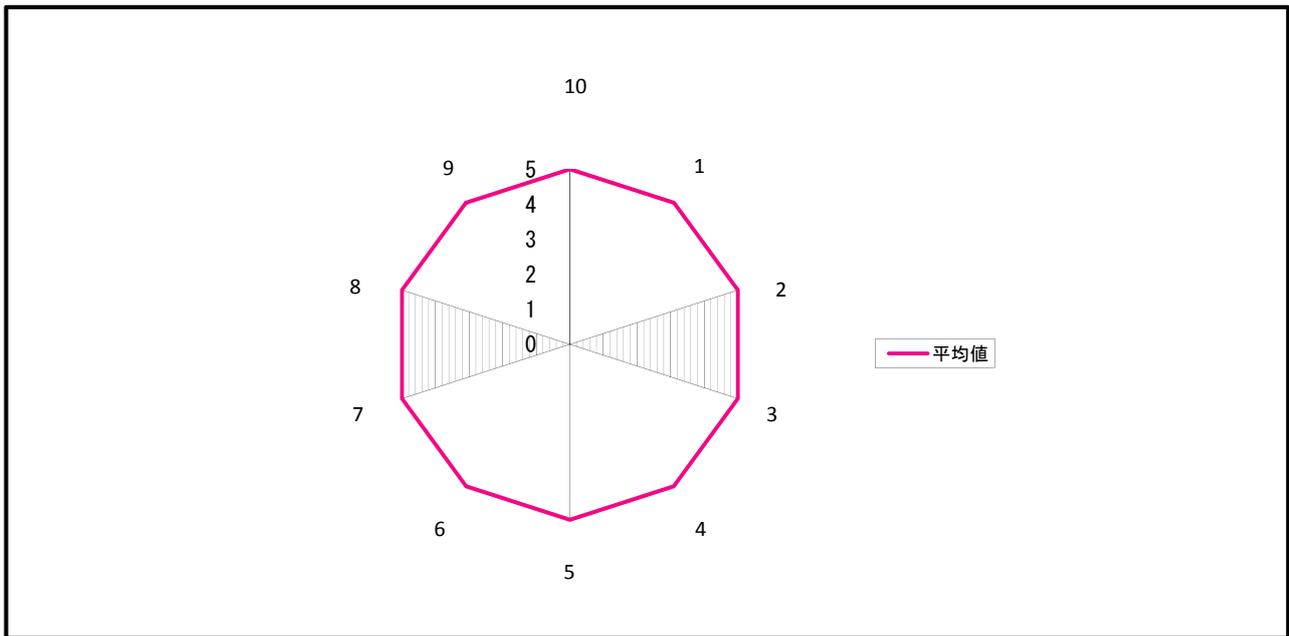
総合評価5など、授業に対しては肯定的な評価で占められた。特に、全受講者が、「授業に主体的・積極的に取り組んだ」と自己評価していることを嬉しく思う。自由記述には、「全体的に、大変勉強になった。実際に作曲をして演奏してみて、作曲のよさやおもしろさが深くわかり、自分でもまた作曲してみたいと思った。」「作曲上のいろいろな技法について豊富な実例を挙げながらわかりやすく講義をしていたので大変良かった。」「自分が創ったものが先生のアドバイスの見違えるようにすばらしいものになっていく様はとてもエキサイティングだった。」「例示等で先生が弾かれるピアノの音色がすばらしく、とてもぜいたくな授業だった。」などの声があった。



# 結果報告書

授業科目名 油画制作演習  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 鈴木 久人      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



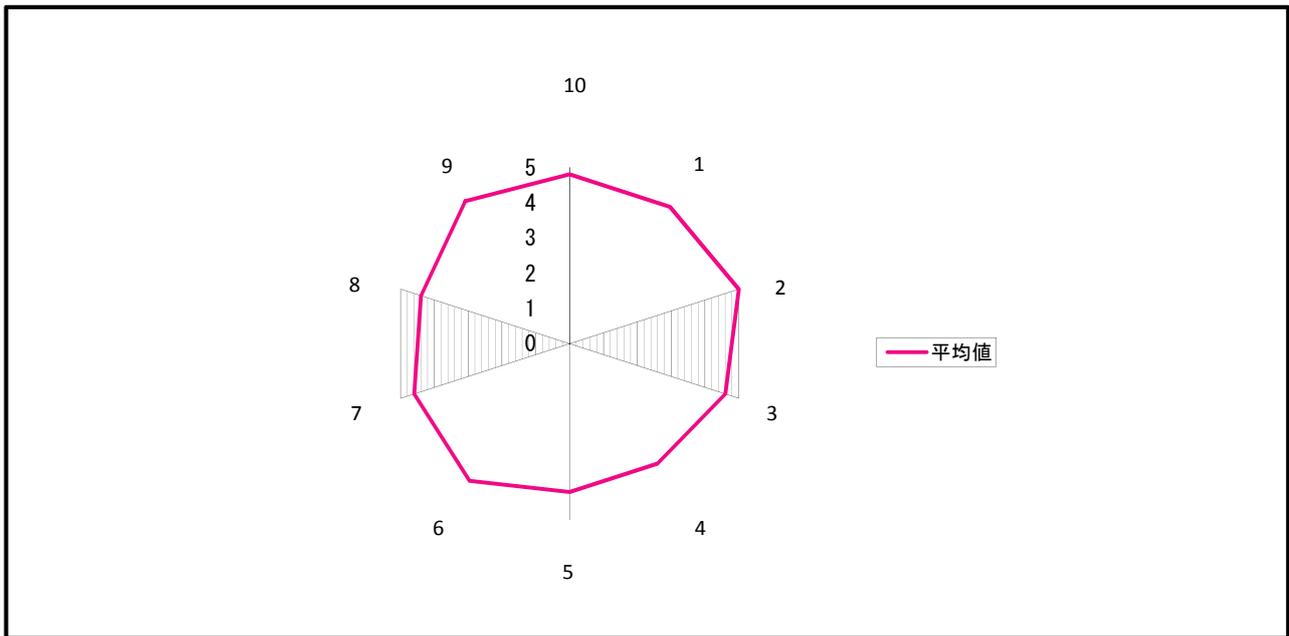
## 教員のコメント

受講生は3人であった。評価を選択する項目は全て最高評価の5であった。自由筆記の質問でもこの授業を制作面で高く評価していることが分かる。だが例年のことであるが教育現場での展開についての記載がない事が気にかかる。教育現場でどのように生かせるのかもより具体的に取り上げてきたつもりであるが、改善の余地がまだまだあるようである。

# 結果報告書

授業科目名 版画制作演習  
 評価実施日 平成28年1月22日  
 担当教員名 鈴木 良治      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4		1			4.6
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	2	1			4.2
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	2	1			4.2
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	2				4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	1	1			4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4	1				4.8



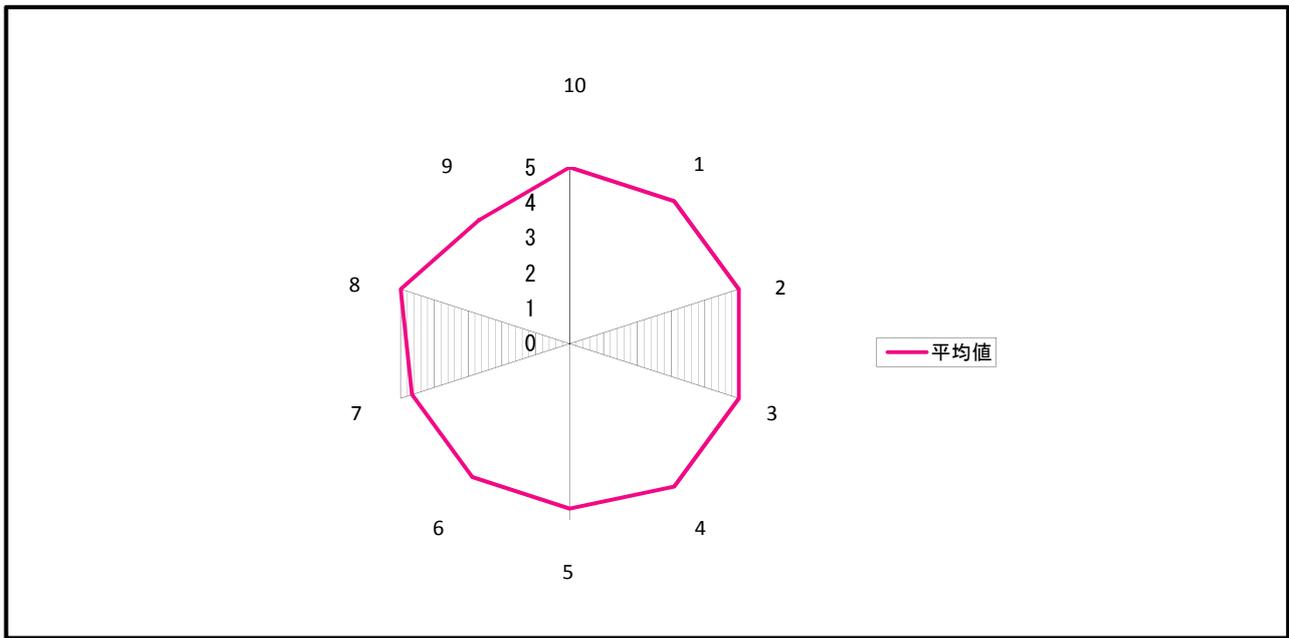
## 教員のコメント

紙版凹版 木版ニス凹版 塩ビ版凹版 アルミ平版 木版リトグラフ5種類の版画技法を15回の授業で制作してもらいました。  
 実演をし工程を説明して制作してもらいその版画技法を体験してもらう  
 細かいことは忘れてしまうかもしれませんがその技法の原理原則を理解してもらうことに重点を置くようにしました。  
 同じ技法のバリエーションを繰り返したため技法の定着を期待し、作業工程のスピードアップとデータ収集を促しました。  
 反省点は作品の完成度 数量を多めに設定したため 時間が足りなくなることが起きた。  
 各技法のまとめのため刷りのみを行う授業日を用意した。  
 プレス機を使わないで刷れる剥がし刷りと足刷り木版リトグラフを用意する。

# 結果報告書

授業科目名 彫刻制作研究  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 野崎 窮                      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1					4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1					4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



## 教員のコメント

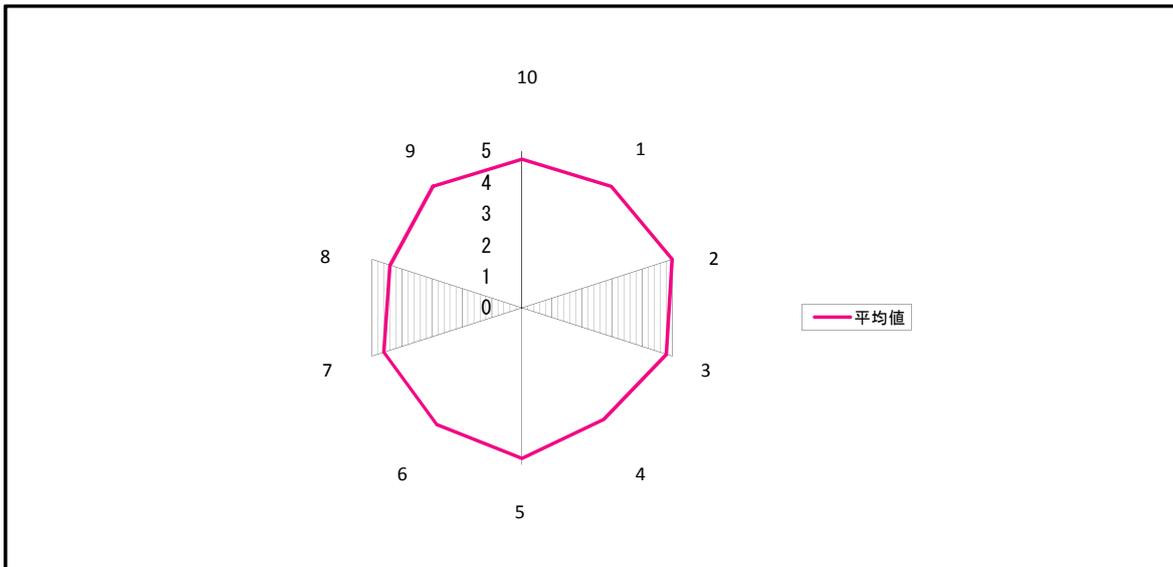
この授業は実技が中心であり、着衣のモデルを使用した塑造(全身像)制作である。受講生は本コースの院生だけであったが、絵画・彫刻・工芸・美術科教育と様々なゼミに属している。彼らが求めている彫刻における立体把握力を伸長させるべく、各自のその能力に応じて個別に指導した。結果として、各項目の平均値は「4」以上であり、特に10の項目で「5」という評価を得ている。導入において、現代美術の中の具象彫刻を制作している作家の作品解説を行い、鑑賞に関わる授業も行った。具象彫刻の現代における意味を考察していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 映像デザイン演習  
 評価実施日 平成28年2月15日  
 担当教員名 内藤 隆

回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4	1				4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1	1			4.4
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4		1			4.6
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4		1			4.6
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4			1		4.4
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4	1				4.8
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	1			1	4.8



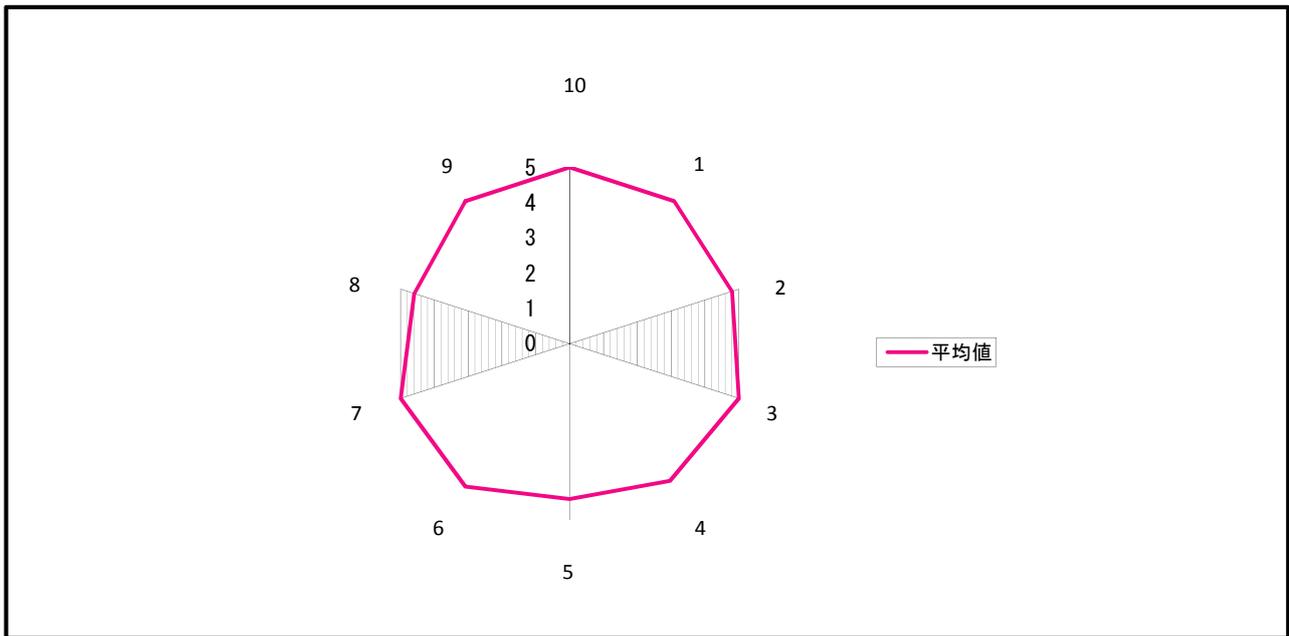
## 教員のコメント

本年度の受講者は5名であり、授業は昨年同様以下の流れで運営した。初回には、年間カリキュラムの説明に続き、映像資料の視聴と情報交換の手順説明を行った。2～10時間目は、研究室および図書館の映像資料を視聴させ(各自が別々の作品を鑑賞)、授業時には特に印象的だった部分等についてお互いに紹介させ情報交換しあう方法をとった。2・3時間目はサイレント映画時代、4・5時間目はトーキー映画黎明期、6時間目は日本映画、7・8時間目は実験アニメーション、9時間目はCM(海外・日本)、10時間目は実験映像・ミュージックビデオ作品という流れで視聴経験と情報交換を積み重ねさせた。11時間目前半にはデスクトップでのビデオ編集方法の概説と班分けを行い、14時間目まで2班に分かれて短編映像作品の制作を実施、最終回に作品提出・講評と言う内容に進めた。アンケート結果は概ね好評であるが、マークシートからみると「板書・視聴覚機器の使用」と言う項目で特に1名が低い評価をつけていた。情報交換時にソフトの頭出しに時間を要する点や、ネット上の参考映像による紹介を試みた際に学内の信号速度が遅くスムーズに紹介できなかったことが影響していると考えられる。この2点は残念ながら個人での改善対応が難しい。さて、本年度の自由筆記の感想で良かったと思われる点は「多くのジャンルの映像を見ることができて良かった」が4名、「映像ソフトを使った編集方法を修得できた」が3名、「構図など学べた」「映像史の知識が深まった」が各2名触れていた。他に「楽しみながら学べた」という回答が2名(内1名は積極的に取り組めた理由に記述)あった。昨年より1名少なかったため、時間管理に若干余裕があり順調に進めることができたためと思われる。改善すべき点については1名のみ「映像ソフトの使用法解説書があれば良かった」と指摘していた。研究室で該当書籍は用意していたが卒業制作に従事するゼミ生に貸し出しを優先してい

# 結果報告書

授業科目名 工芸制作研究  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 栗原 慶      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4	1				4.8
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1	1			4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3	2				4.6
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



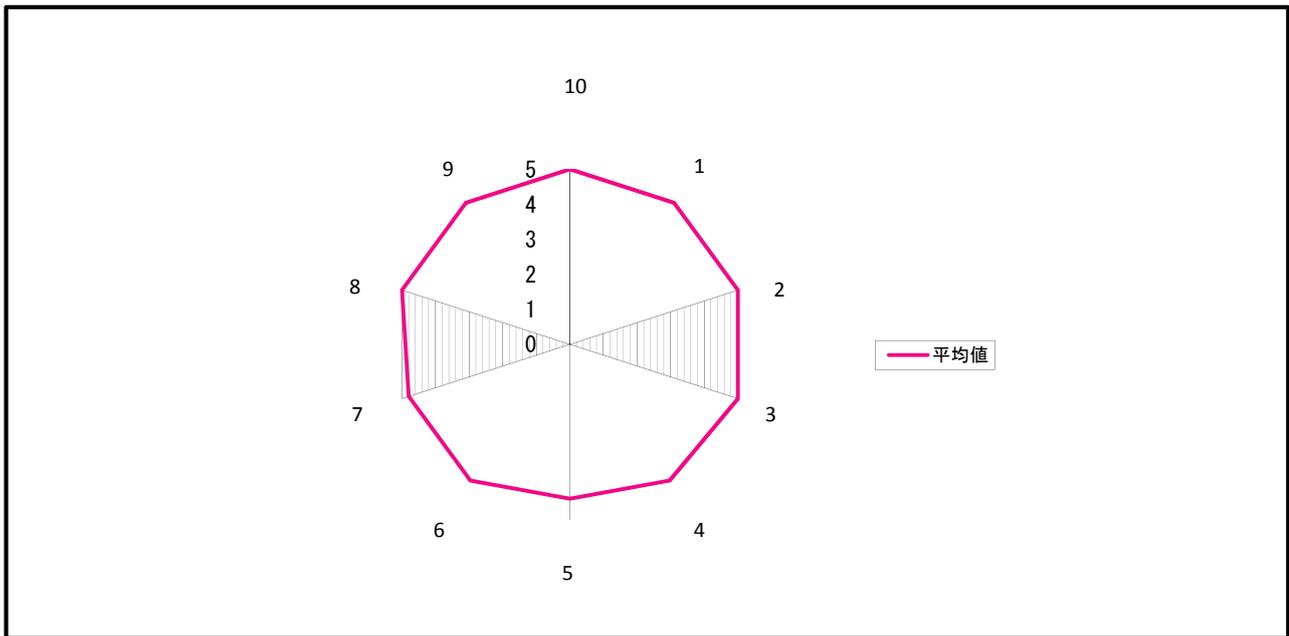
## 教員のコメント

総合評価が5.0であるため、全体としてはこのままの内容で進めていってよいと判断する。しかし(5)授業の進む速さが適切かについてが4.4であり、(8)板書や視聴覚機器の使用が適切かの項目も4.6の評価であった。授業の進む速さについては遅いのか速いのかコメントを得られてないのでどちらかわからないが、実作業が主であり個々によって作業に偏りが出来るための評価と思われる。視聴覚機器の使用についても同様に、作業中心という授業内容によるものだと思われる。とくに石膏の扱いで教員が個々に対応しなければならない場合があり、今後は作業手順の映像を見せるなどとして工夫していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 総合造形研究  
 評価実施日 平成27年12月21日  
 担当教員名 高橋 耕平      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	5					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	1				4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	3				4.4
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	5					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	5					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	5					5.0



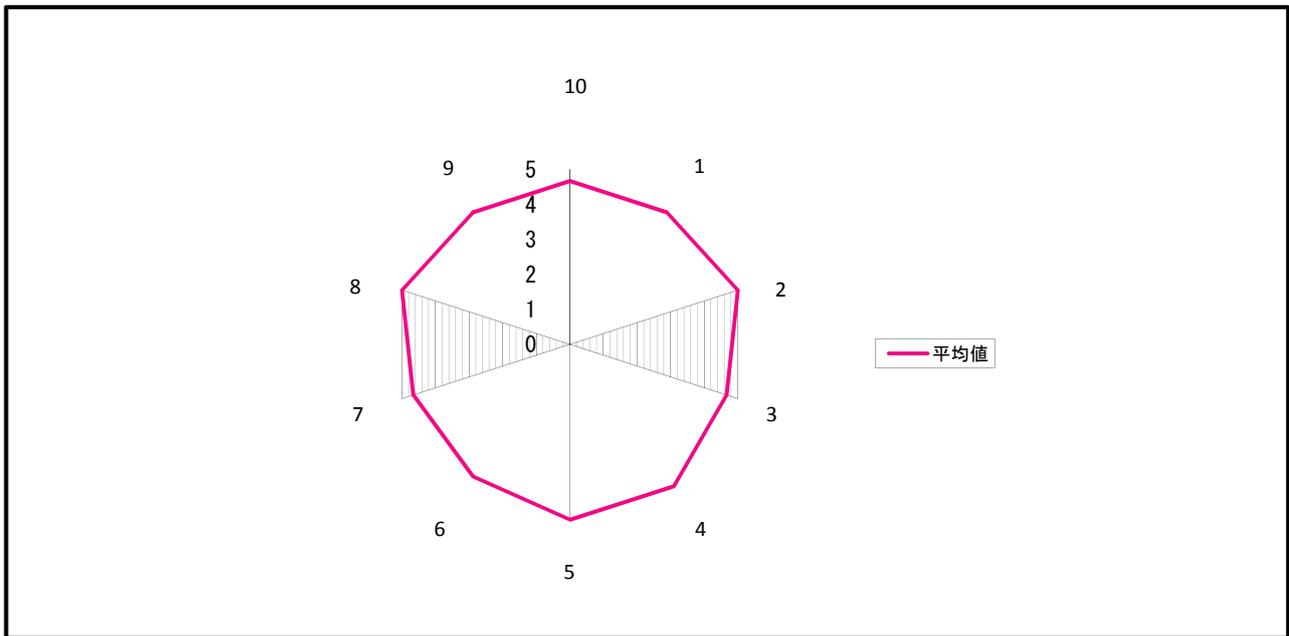
## 教員のコメント

学生の理解と制作スピードが、課題の難易度がやや合っていないかった為、授業の進むスピードへの指摘や体力的にハードだというアンケートの回答からカリキュラムを少し改善しなければならない箇所があります。しかしアンケート結果をみづ限りでは概ね授業満足度は満たされており、また授業へ臨む姿勢も大変積極的でしたので、授業内容の密度を維持しながら課題制作のペース配分を考慮し、2016年度の授業につなげたいと思います。

# 結果報告書

授業科目名 学校体育経営演習  
 評価実施日 平成28年2月10日  
 担当教員名 藤田 雅文      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



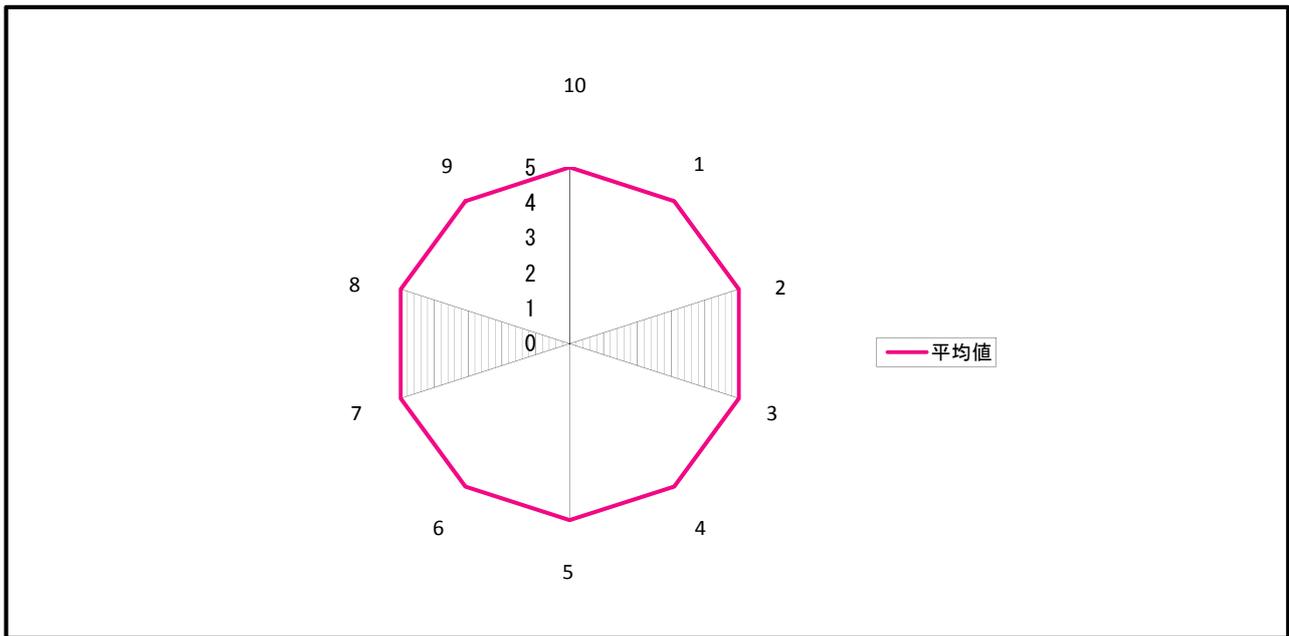
## 教員のコメント

9項目の平均評価点は4.8で、総合評価も4.7であることから、高い評価を得たと考えている。本授業では、パソコンを活用して、保健体育科の学習評価、体力テストのデータ分析、体育授業研究のデータ分析の演習を行っている。教育実践現場に役立つ内容をさらに厳選して、次年度以降も同様のスタイルで授業を展開したいと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 健康科学演習  
 評価実施日 平成28年2月5日  
 担当教員名 廣瀬 政雄      回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



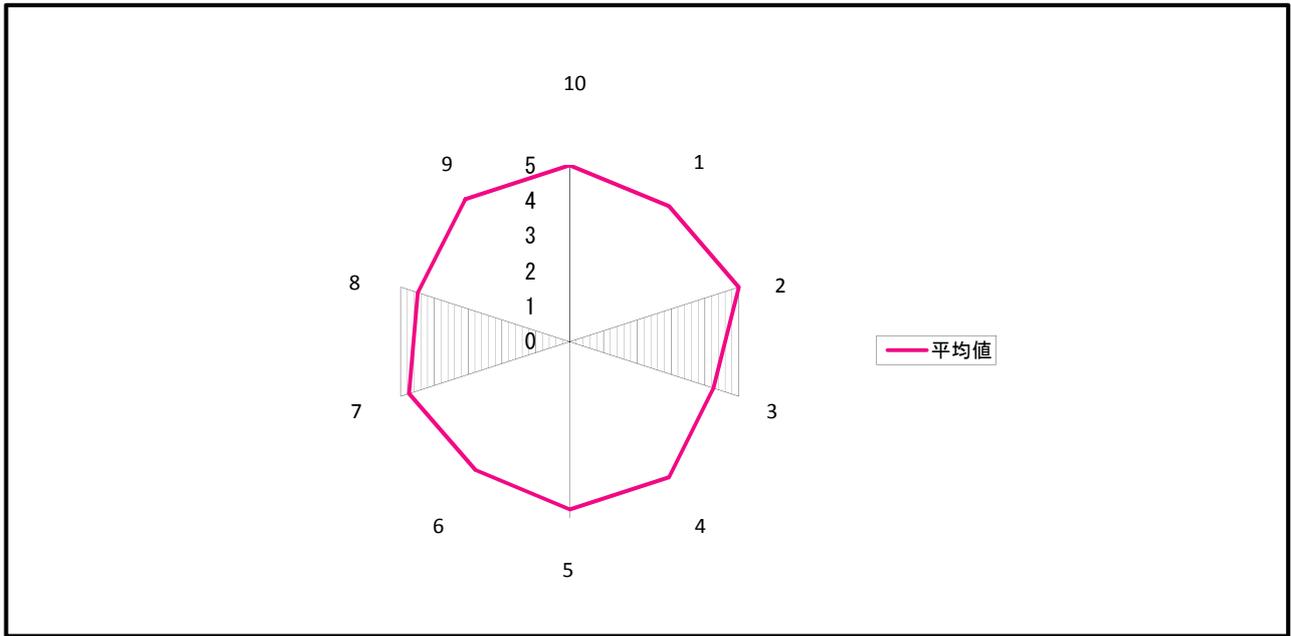
## 教員のコメント

受講者が1名であったので、アンケート結果は意味を持たないと思われる。ただし、受講者が1名であったことで、多人数の講義では話題としない内容にまで踏み込んだ講義となった。

# 結果報告書

授業科目名 情報技術演習  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 菊地 章                      回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3	1					4.8
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1	1				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	1					4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	2					4.5
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



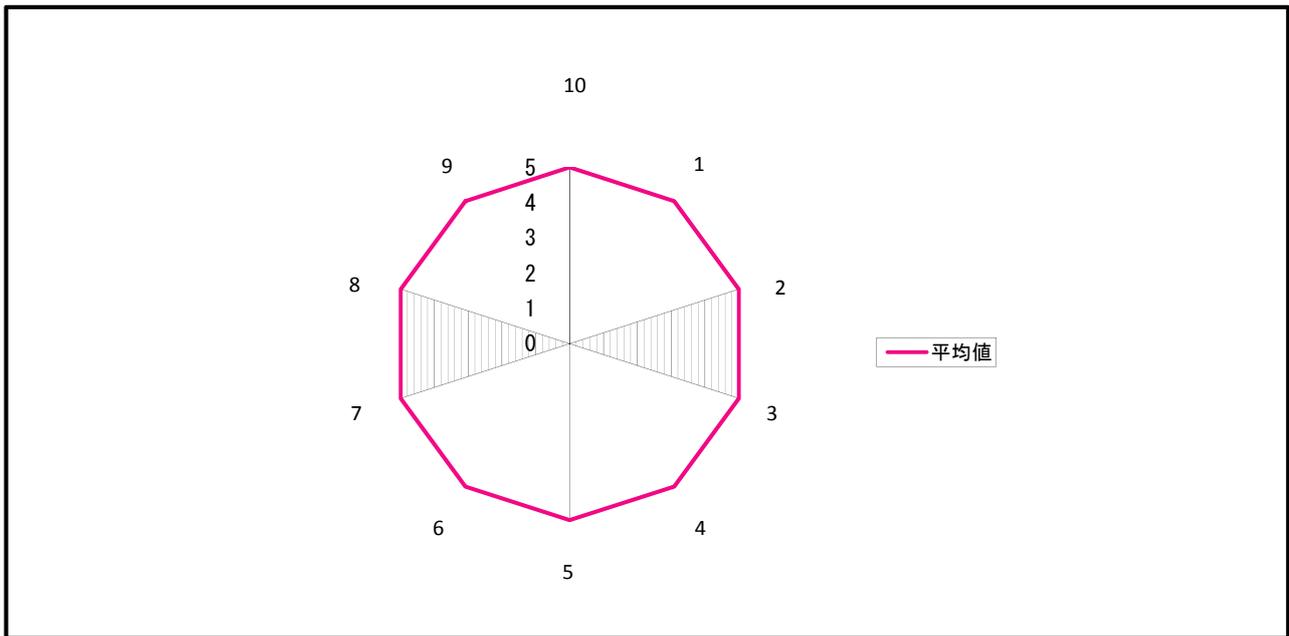
## 教員のコメント

受講者が少なかったため非常にスムーズに授業を進めることができた。また、受講生も活発に質問し、活性化した授業運営とすることができた。

# 結果報告書

授業科目名 エネルギー工学研究  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 長谷崎 和洋, 草野 剛嗣      回答者数 4 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	4					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4					5.0



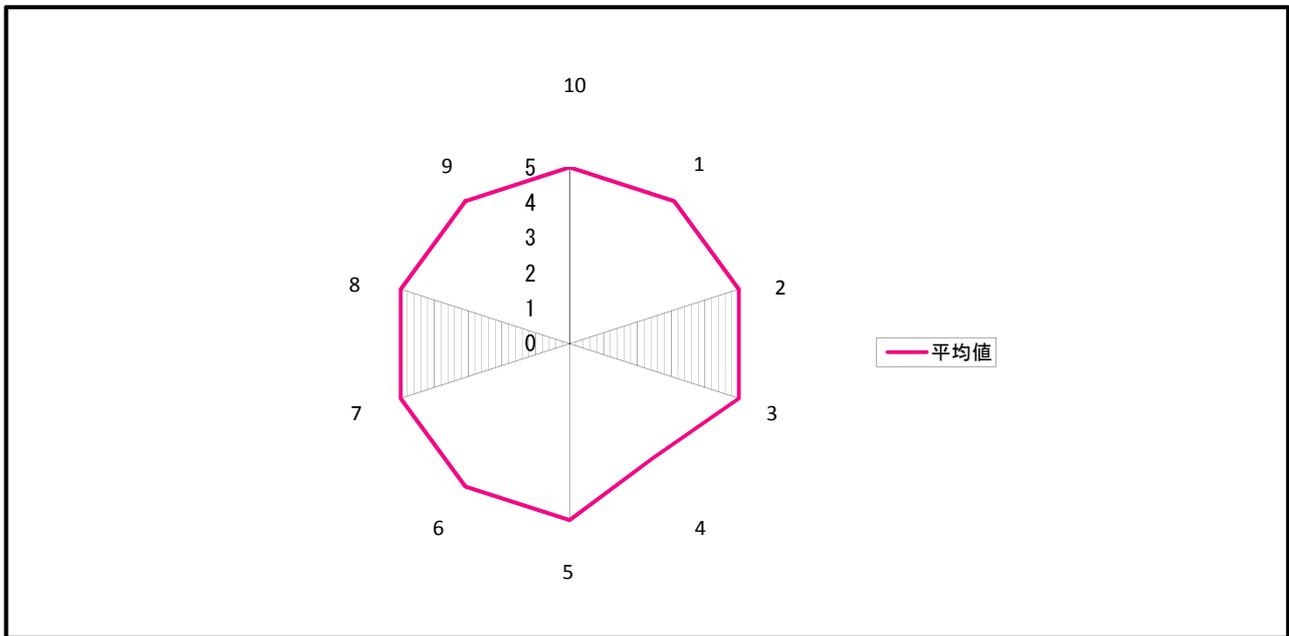
## 教員のコメント

担当教員にとってこの科目の担当は本学では初年度であったため、エネルギー工学が専門でない学生には内容が若干難しく感じられたかもしれません。すべての項目で高い評価を頂きましたが、次年度以降はさらにわかりやすく平易な解説に心がけたいと思います。

# 結果報告書

授業科目名 エネルギー工学演習  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 長谷崎 和洋, 草野 剛嗣 回答者数 1 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		1				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1					5.0



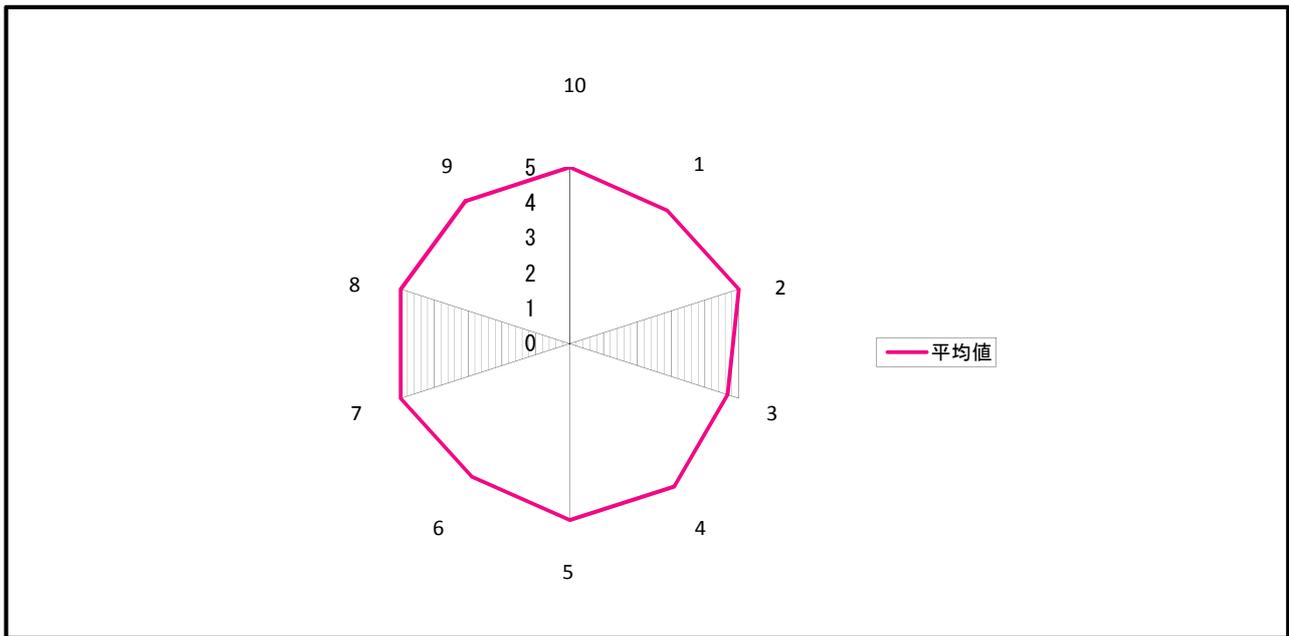
## 教員のコメント

受講者が一名であったため、教員側は講義・演習を進めやすかった反面、学生側にとっては学生間のディスカッションができないなどの観点からやりにくかったかもしれません。また、一人の受講でかつ実習(演習)科目のために評価基準の説明がわかりにくかったと思われます。さらに、担当教員にとってこの科目の担当は初年度であったため、演習用の工具・素材・材料などの準備が行き届かない点があり、次年度以降改善したいと思います。

# 結果報告書

授業科目名 画像情報処理研究  
 評価実施日 平成28年2月17日  
 担当教員名 伊藤 陽介      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1					4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1					4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3						5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3						5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



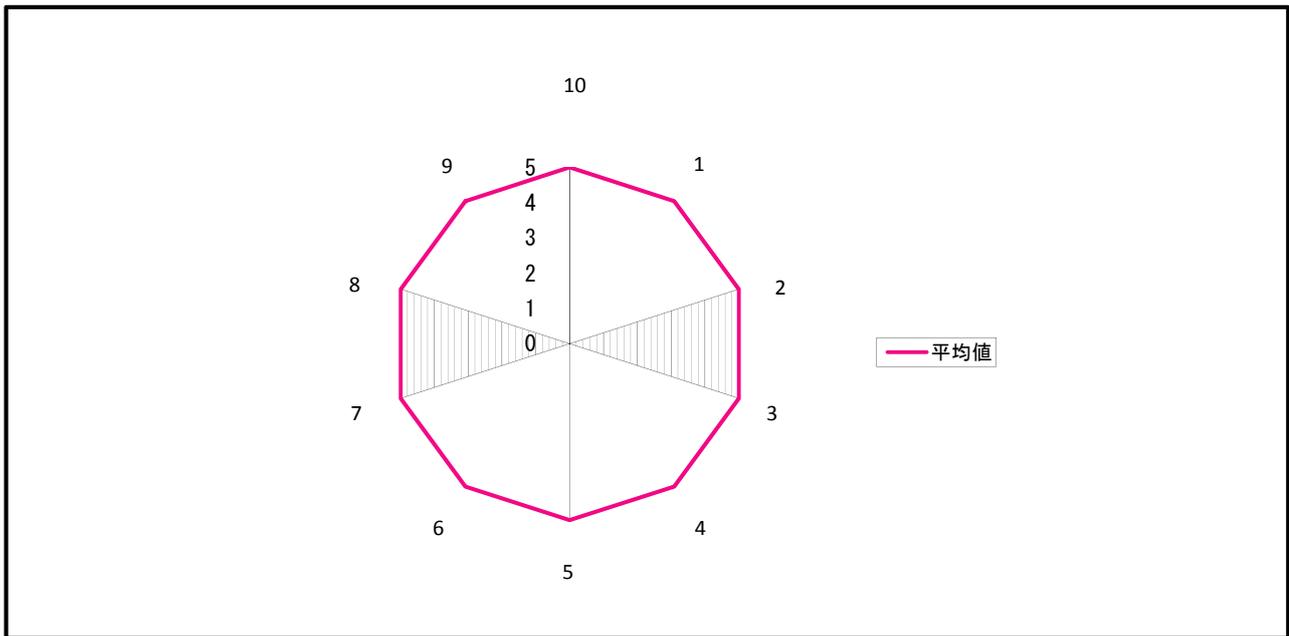
## 教員のコメント

総合的に見ると受講生にとって満足できた授業であったと思われる。今後も、提示資料や実習内容の改善を図りつつ画像処理に関する専門的な内容に加えて、情報技術教育への応用についても取り扱う必要がある。

# 結果報告書

授業科目名 デジタル制御研究  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 菊地 章                      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



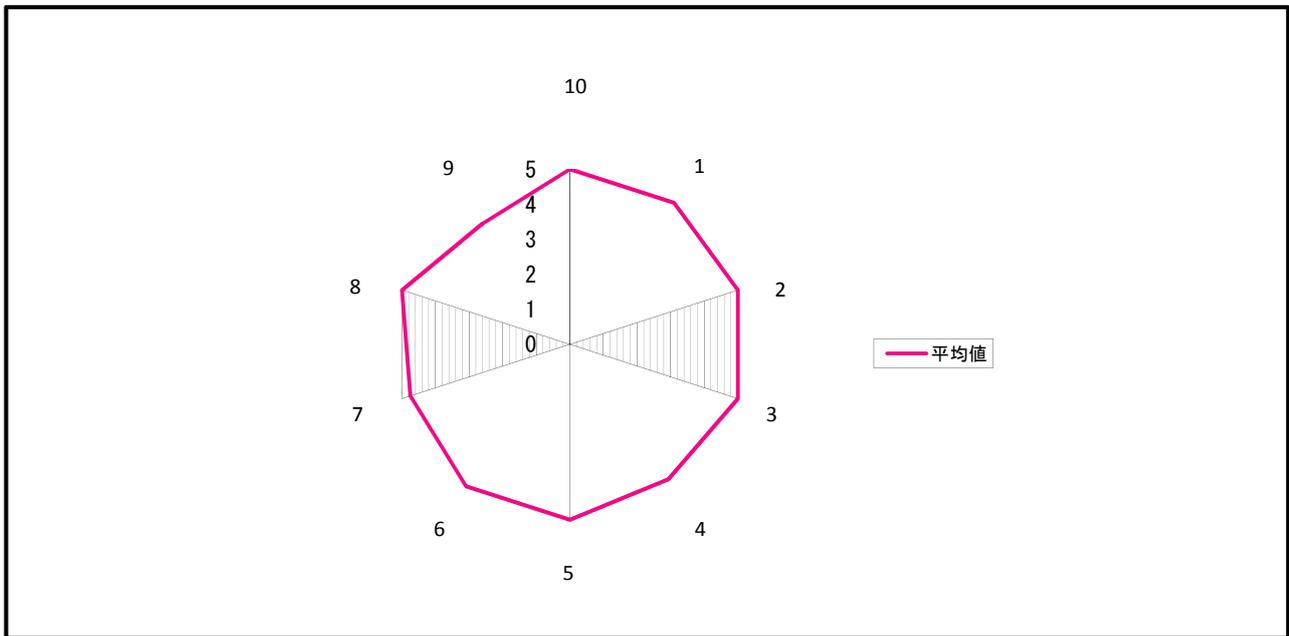
## 教員のコメント

受講者が少なかったため非常にスムーズに授業を進めることができた。また、受講者と連名で学会発表を行う内容まで授業を深化させることができた。

# 結果報告書

授業科目名 情報応用演習  
 評価実施日 平成28年2月22日  
 担当教員名 曾根 直人      回答者数 4 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	4						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	4						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	4						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3	1					4.8
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	4						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3	1					4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4						5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1	1				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	4						5.0



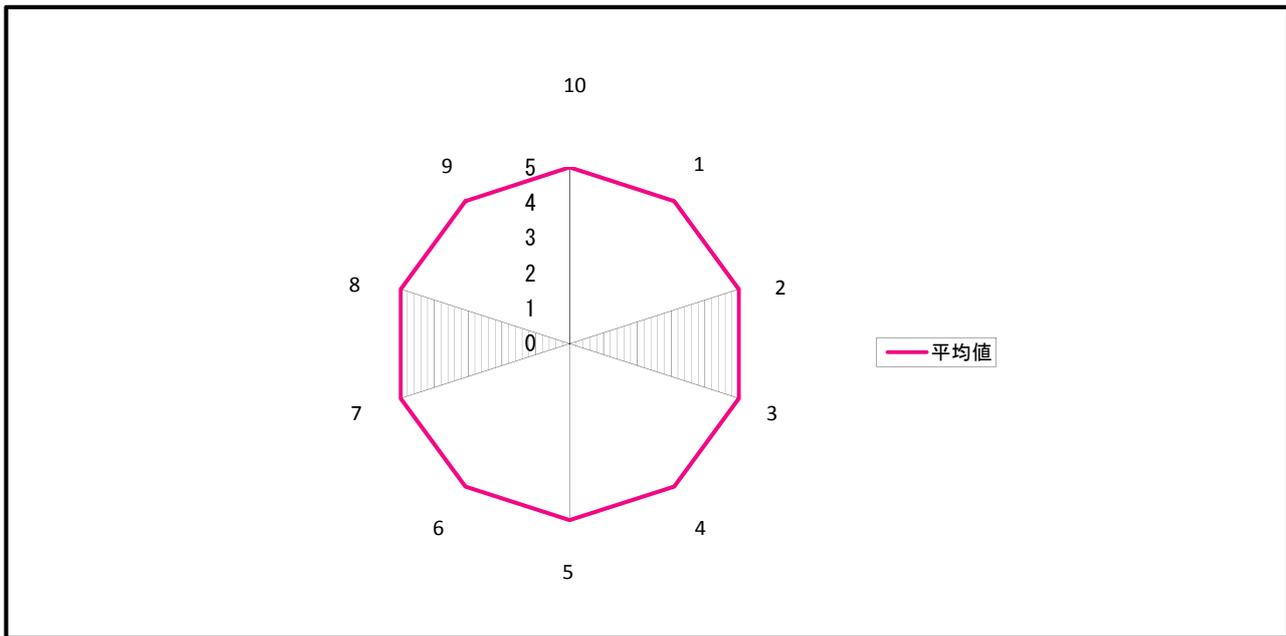
## 教員のコメント

受講者が4名と少なかったこともあり、細かな指導を行うことができたことが高評価に繋がっていると思われる。他にも実際のネットワーク機器を利用した演習も、授業でなければなかなか体験できないことであり、こちらも評価が高い要因の一つと考えている。ネットワーク機器を利用した演習のためには、その機器を動かすための基礎知識も必要になるため、講義的な内容と演習のバランスを考慮しながら、さらに受講者が実際に触って操作を体験できるような演習を行いたい。

# 結果報告書

授業科目名 コンピュータ科学演習  
 評価実施日 平成28年2月4日  
 担当教員名 宮本 賢治      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



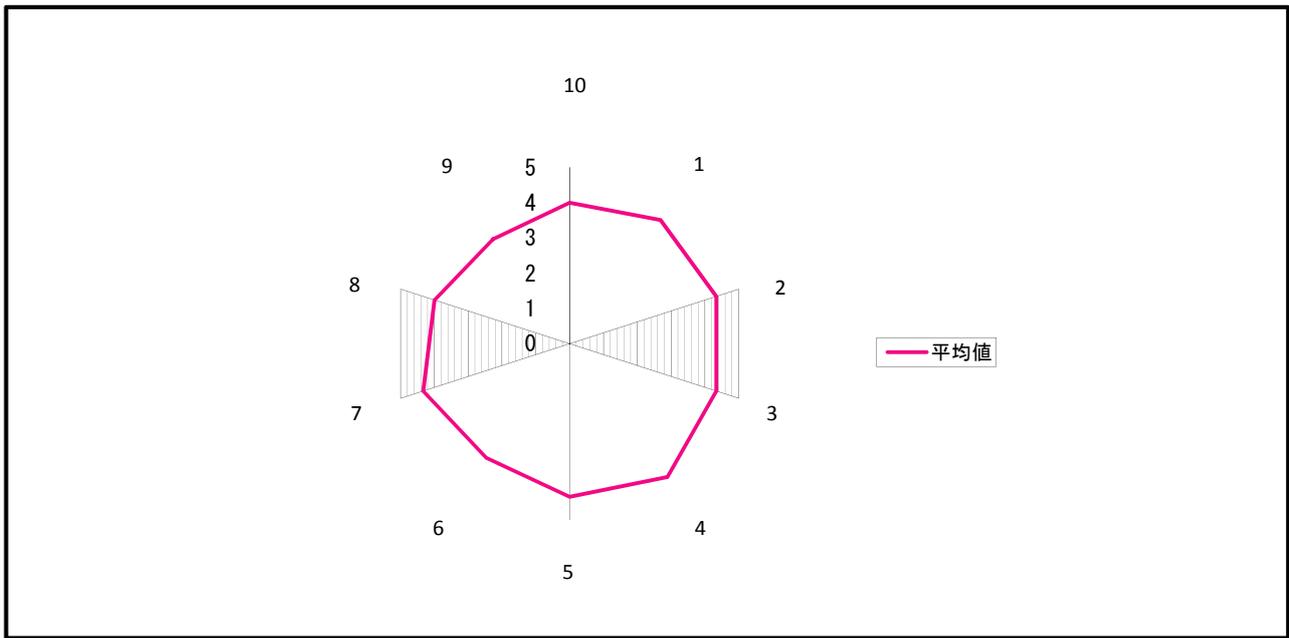
## 教員のコメント

人数が2人で統計的には不十分であるが、すべての質問項目で5.0の高評価が得られて満足できる結果となった。今後も授業内容や教材の一層の工夫・改善を図りたいと思う。

# 結果報告書

授業科目名 機械工学演習  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 宮下 晃一      回答者数 3 人

質 問 項 目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	2				4.3
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	2				4.3
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	2				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	1	1	1			4.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2		1			4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1	1			4.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1		2			3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	1	1	1			4.0



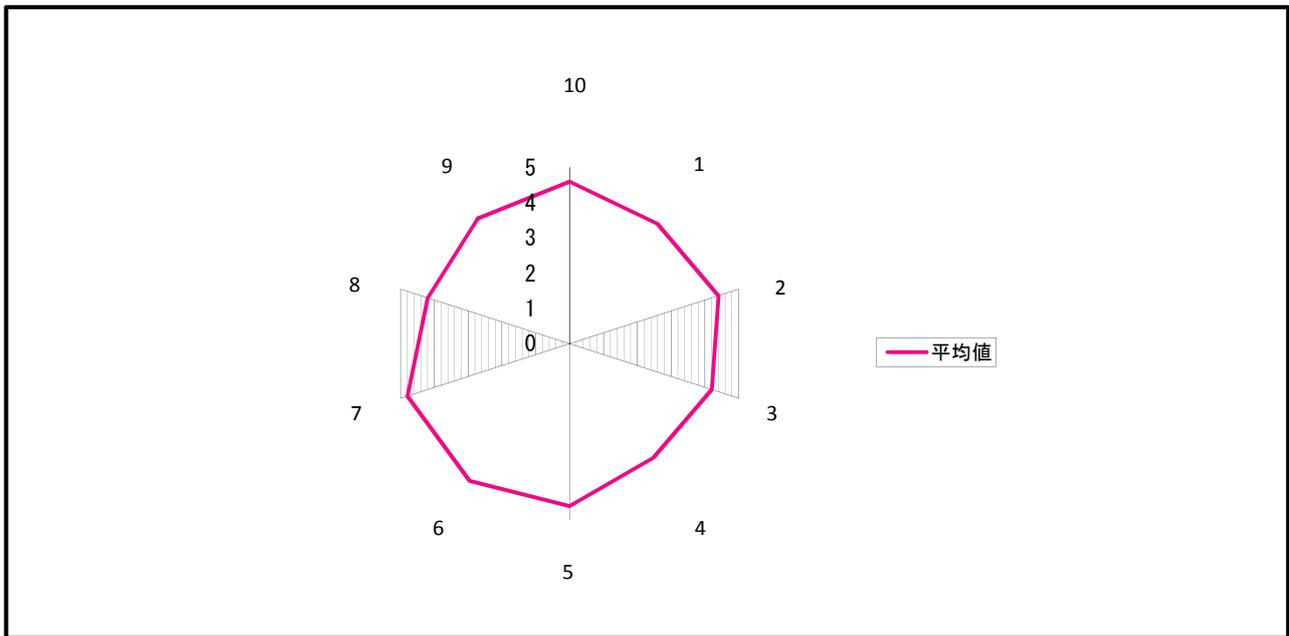
## 教員のコメント

少し高度な機械の仕組みを把握するために、古いオートバイの分解と構造把握を行った。機械の構造を把握しながら適切な工具を使用して複雑な機械を分解していく工程から、受講者は機械整備の方法を習得できたものと思う。毎年異なる題材を扱うために教科書等の資料を配布することはないが、機械が組み立てられた順番を想像しながら適切に分解を進めることによって、実践的な技術力の向上につながった。

# 結果報告書

授業科目名 技術科教育演習  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 尾崎 士郎, 宮下 晃一      回答者数 5 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	4				4.2
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	3				4.4
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	1	4				4.2
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。		5				4.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3	2				4.6
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	4	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	4	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	2	1			4.2
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3	1	1			4.4
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3	2				4.6



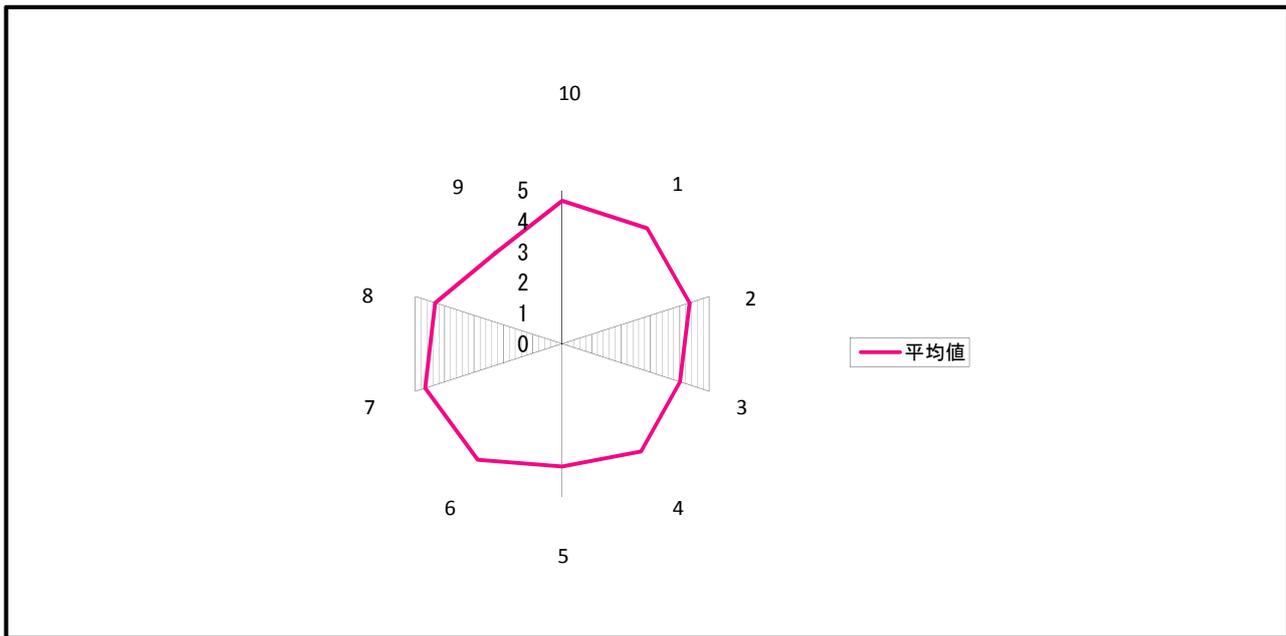
## 教員のコメント

冒頭の3コマぐらいを技術教育の基礎的な内容として理解してほしいことを一斉授業で行い、その後は各人に文献を配布して、ゼミ形式で授業を行った。配布した文献は研究論文や総説など、受講者の研究内容は異なるが、今後の研究への取り組みで関連しそうな内容に配慮した。評価としては満点ではないものの高い側ではないかと理解したい。今後も、同じ方式を継続し、技術教育の観点から教育実践や研究能力の醸成に貢献できる内容に配慮したい。

# 結果報告書

授業科目名 生活経営学演習  
 評価実施日 平成28年2月8日  
 担当教員名 坂本 有芳      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2	1				4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	1	2				4.3
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。		3				4.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	2				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	1	1	1			4.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2	1				4.7
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2				4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。		2	1			3.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1				4.7



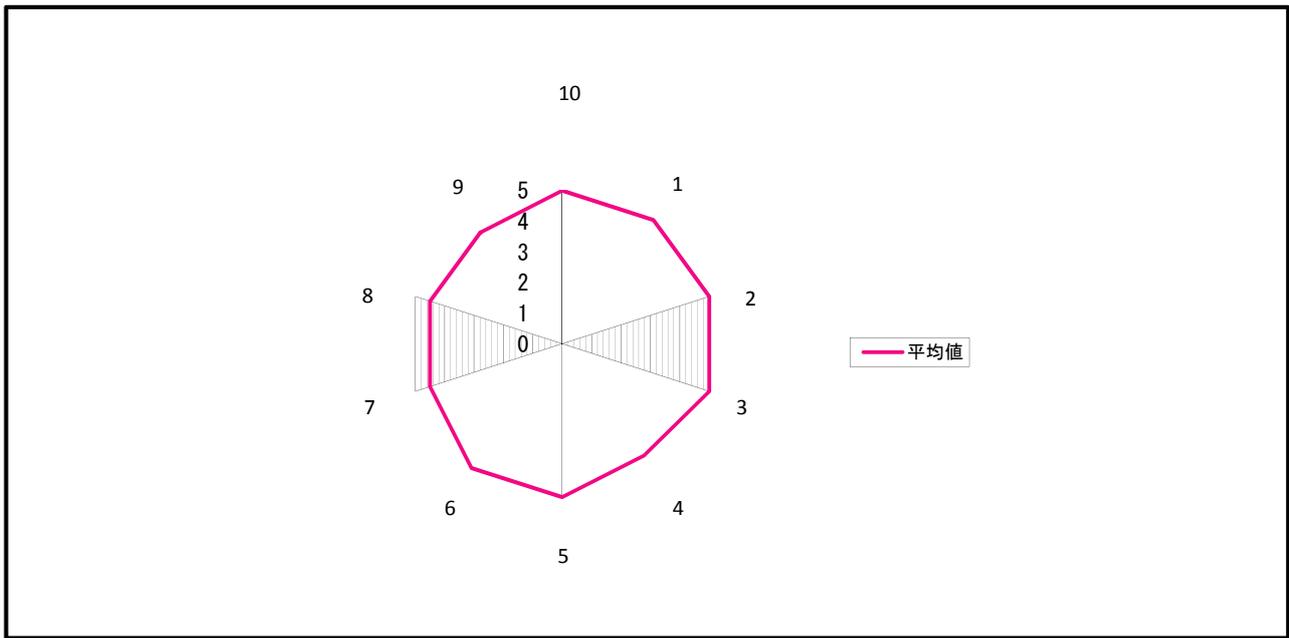
## 教員のコメント

専門分野の基本的知識を養う目的で、専門書に基づいた授業を実施したが、受講者には難解で消化不良の面もあったようである。ただし、教材のレベルを落として懇切丁寧に教えるのが教育として適切とも言えないように思う。主体的な学習をうながしながら、多くの知識を習得できるような授業方法を改めて考えてゆきたい。

# 結果報告書

授業科目名 衣生活学演習  
 評価実施日 平成28年1月25日  
 担当教員名 福井 典代      回答者数 2 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	1	1					4.5
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2						5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1					4.5
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1					4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1					4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2						5.0



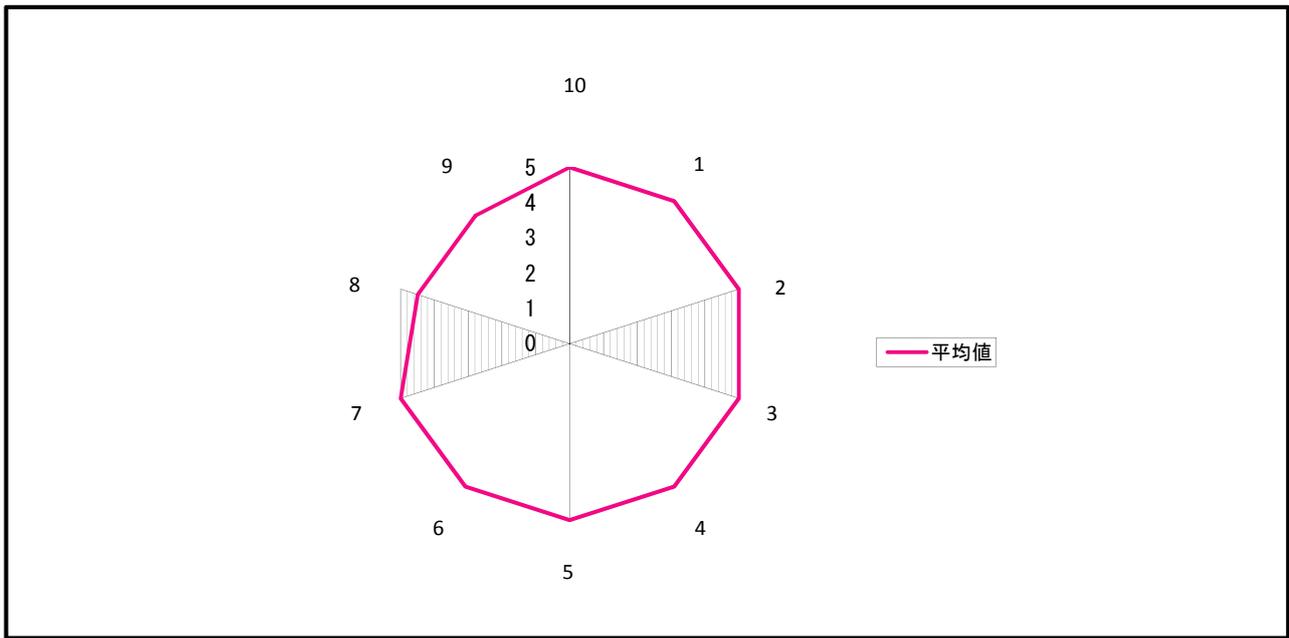
## 教員のコメント

この授業では、受講生が受験する中学校家庭科の教員採用試験にあわせて、中学校や高等学校の教科書で扱われている浴衣を製作した。学部の授業では、実習に必要な時間数が取れない教材である。この実習を通して、浴衣の専門用語の習得と、平面構成と立体構成の違いを理解させた。  
 この授業でよかったと思われる点について、「浴衣を初めて作った！ミシンが不安だったが、ある程度できるようになった。」という意見がみられた。ミシンの取扱いについては、中学校・高等学校を通して扱う機会が少なく、今回の実習を通してミシン操作の自信につながったと思われる。来年度も受講生の要望に添った授業内容としたい。

# 結果報告書

授業科目名 家庭科教育学演習  
 評価実施日 平成28年1月28日  
 担当教員名 速水 多佳子      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1				4.5
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	1				4.5
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



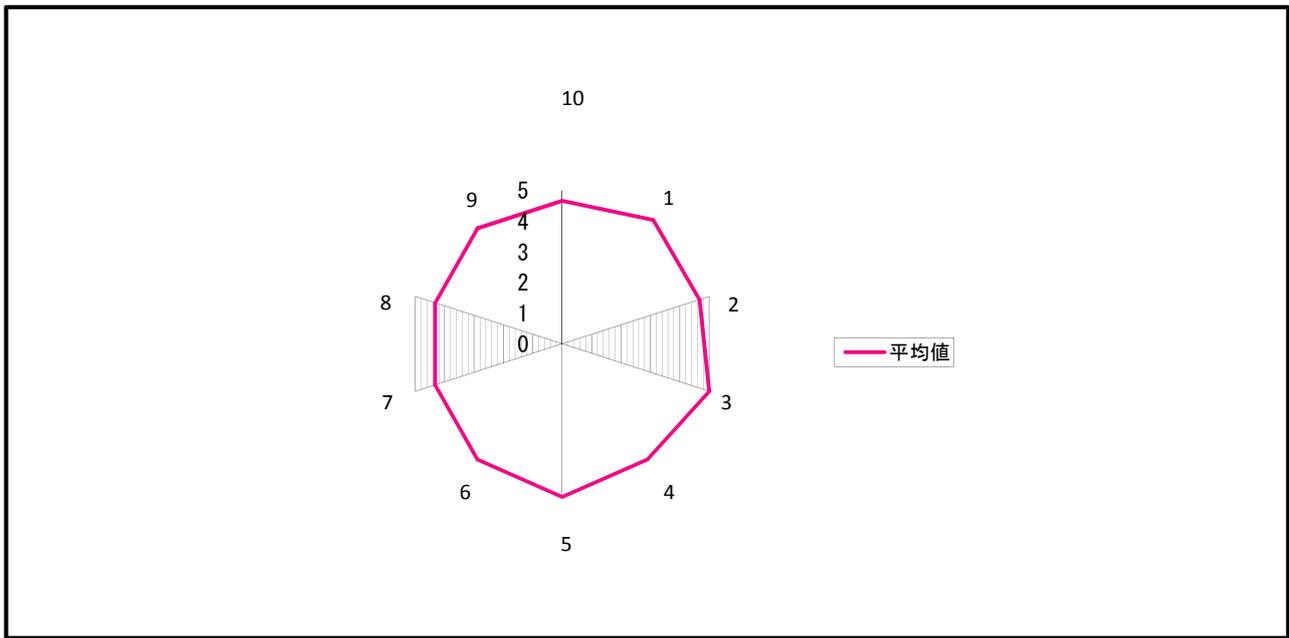
## 教員のコメント

受講者は2名であったが、中国からの留学生の聴講希望者がいたため合計で3名の授業となった。  
 2名の受講者は、大学院修了後に教員となることを目指しており、1名の留学生は、日本の家庭科教育の内容について興味をもつての聴講であった。そのため、前半は現在の家庭科教育ではどのような課題があるかについて取り上げ、後半は家庭科が学習方法として重視している実践的・体験的な学習活動について、実際に体験しながら学んだ。実際に学校現場で活用できる教材を用いて、授業での配慮点などについてを体験しながら考察したので、受講者は積極的に参加して意欲的に取り組むことができていた。  
 授業に対する総合評価は5.0であり、授業者のニーズに合った授業展開ができたと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 家庭科授業・教材開発研究  
 評価実施日 平成28年2月5日  
 担当教員名 坂本 有芳, 福井 典代, 松永 哲郎      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2	1					4.7
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1					4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3						5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1					4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2					4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	2					4.3
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1					4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2	1					4.7



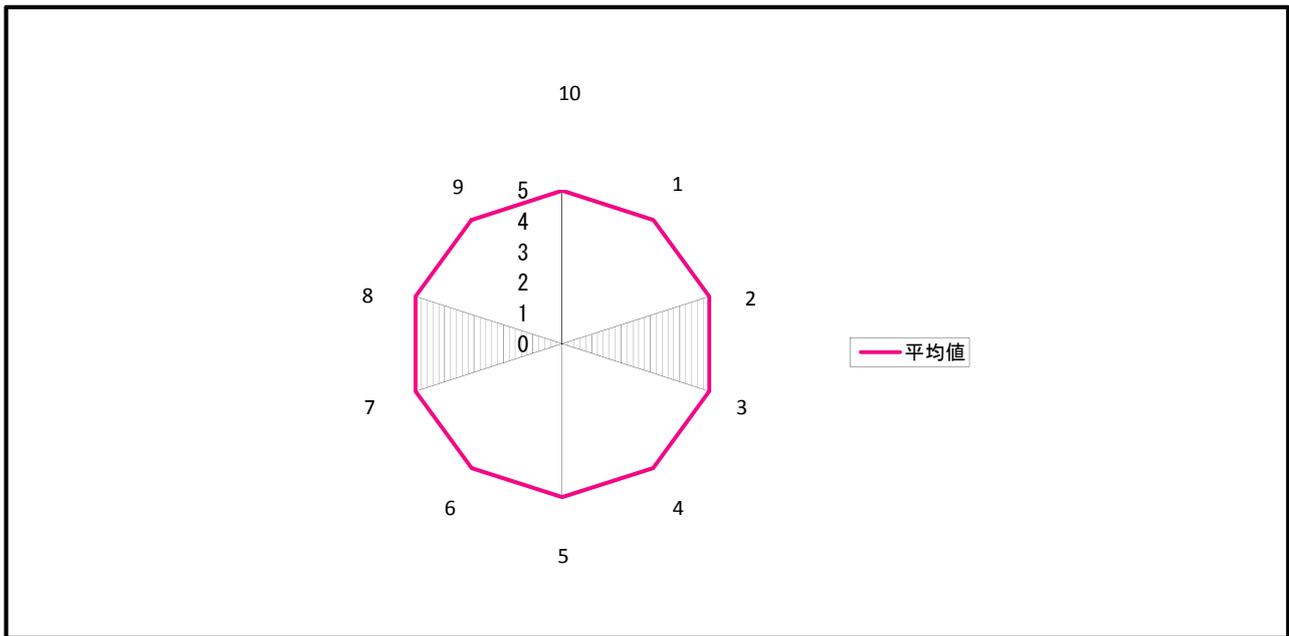
## 教員のコメント

各専門分野に関する様々な専門知識や最近のトピックスを取り扱うとともに、学校現場において応用可能な実験や実習を実施した。製作作業や実習を交えた授業であったため、受講生は興味を持って授業に臨んでいたように思う。家庭科の目標である”日常生活における実践につなげる”教材のあり方については、さらに検討を進めてゆきたい。授業評価から、本科目の目的・目標は概ね達せられたものと考えられる。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育演習 I  
 評価実施日 平成28年2月23日  
 担当教員名 近森 憲助, 石村 雅雄, 小澤 大成, 石坂 広樹 回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1) 授業概要は、この授業を適切に表現していた。	2					5.0
	(2) 専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3) 教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4) 成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5) 授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6) 受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7) 教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8) 板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9) 授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10) この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



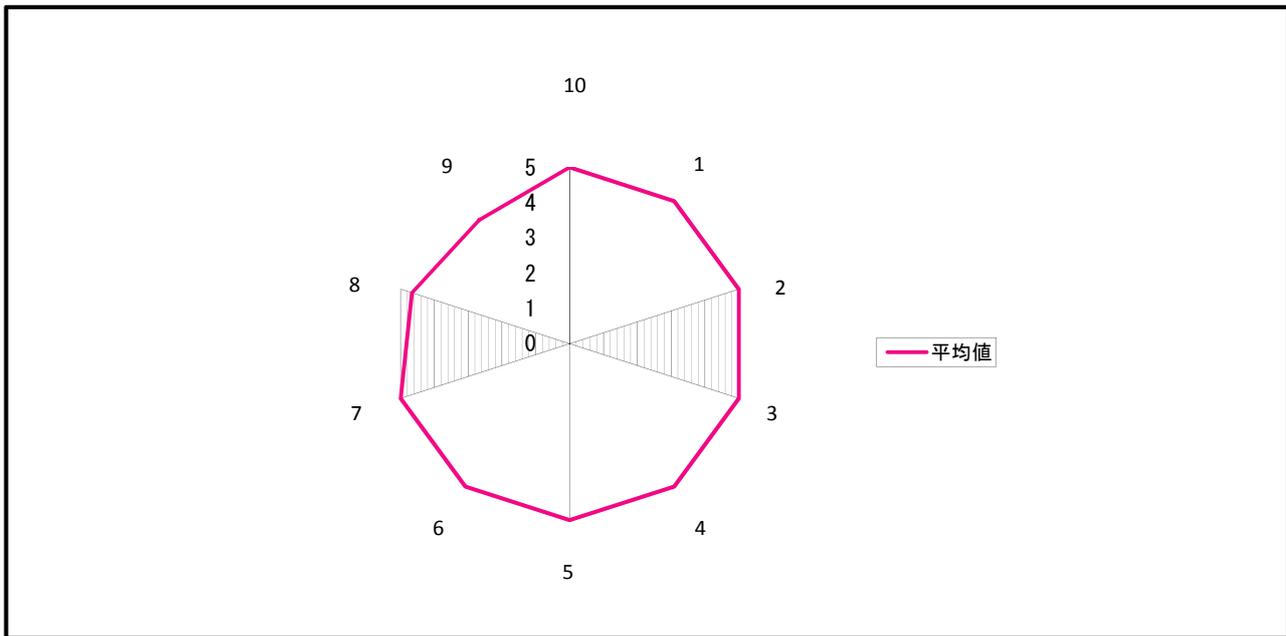
## 教員のコメント

受講生は2名であったため、指導教員が発表した論文も含めた国際教育開発に関する論文の講読を集中講義によるセミナー形式で行った。講読した論文は、ここ3年以内に発表されたものばかりであったため、受講生にとって、国際教育に関する最新の情報を提供することができたと思われる。そのために、このような高い評価が得られたものと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育協力特論Ⅱ  
 評価実施日 平成28年2月15日  
 担当教員名 小澤 大成, 近森 憲助      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2	1				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2		1			4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



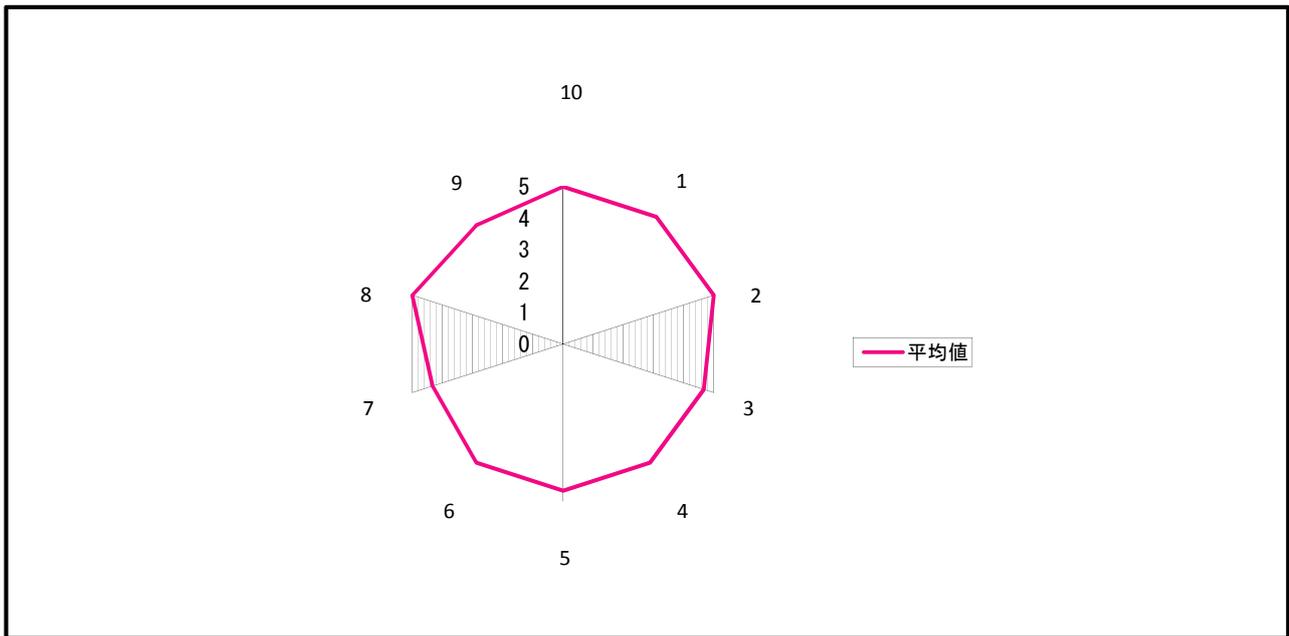
## 教員のコメント

本講義の総合評価は3人も5.0と高い評価であった。その理由として「授業の計画や教授法を学ぶことができた」があげられる。本年度も引き続き参加型の授業を展開していきたい。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育協力研究  
 評価実施日 平成28年2月18日  
 担当教員名 石坂 広樹, 近森 憲助      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2	1				4.7
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2	1				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2	1				4.7
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2	1				4.7
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	2				4.3
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2	1				4.7
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



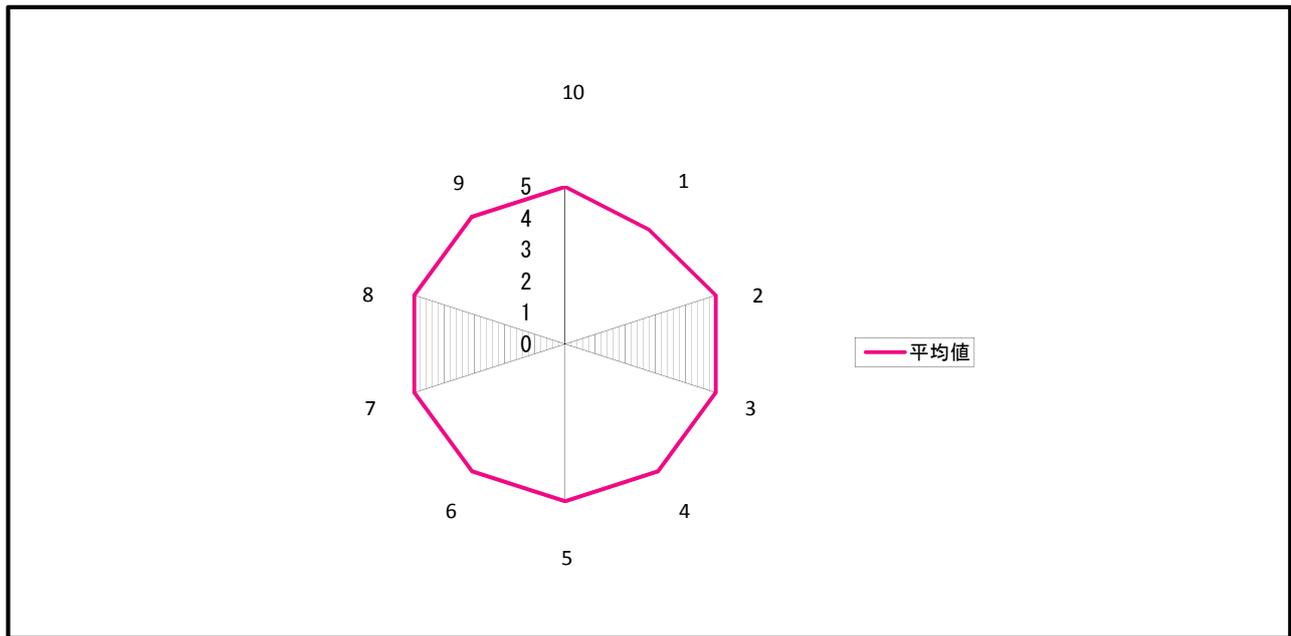
## 教員のコメント

本年度は、内容を大幅に変更し、授業の7割をアクティブラーニングとなるようにグループワークをメインとして取り入れた。学生による発表もあり、非常に有意義な議論を交わすことができたものとする。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育協力演習  
 評価実施日 平成28年2月9日  
 担当教員名 石坂 広樹, 近森 憲助      回答者数 2 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	1	1				4.5
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	2					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	2					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	2					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	2					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	2					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	2					5.0



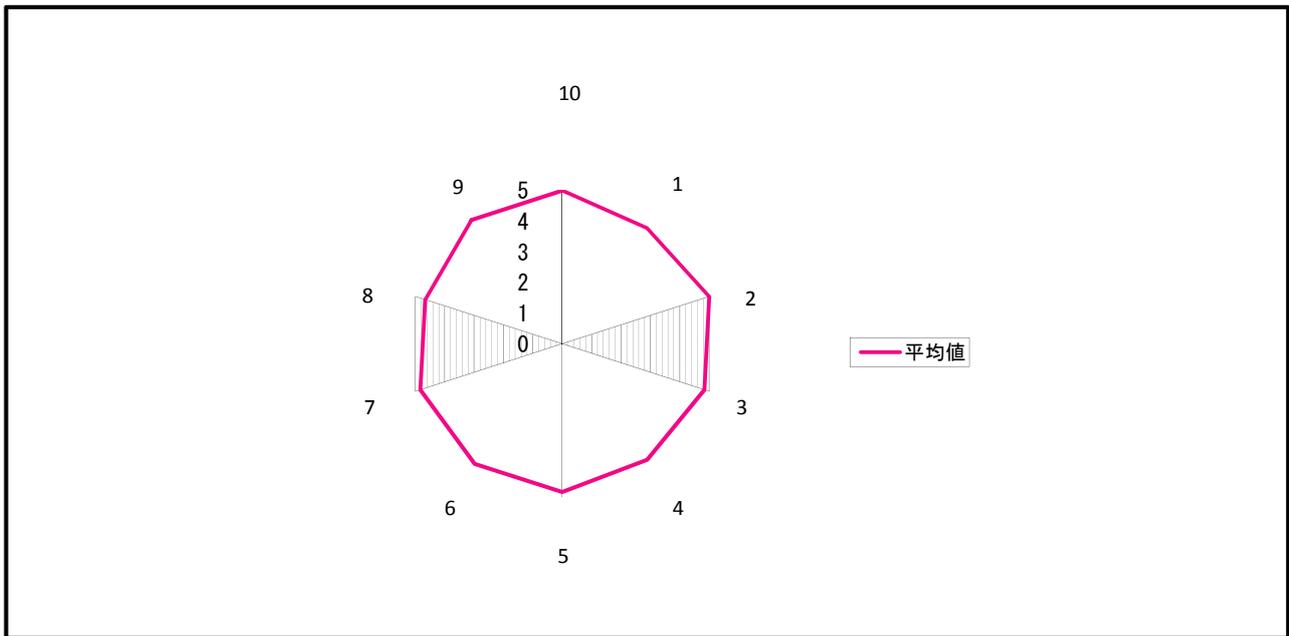
## 教員のコメント

聴講生の留学生にも参加してもらい、英語での授業を行った。授業内容はすべてグループワークであり、アクティブラーニングの実践を率先して行うことができた。その成果が出たものと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 国際理解教育特論Ⅱ  
 評価実施日 平成28年2月12日  
 担当教員名 近森 憲助, 小澤 大成      回答者数 6 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	5		1			4.7
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	6					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	5	1				4.8
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	4	2				4.7
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	5	1				4.8
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	5	1				4.8
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	5	1				4.8
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	4	2				4.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	6					5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	6					5.0



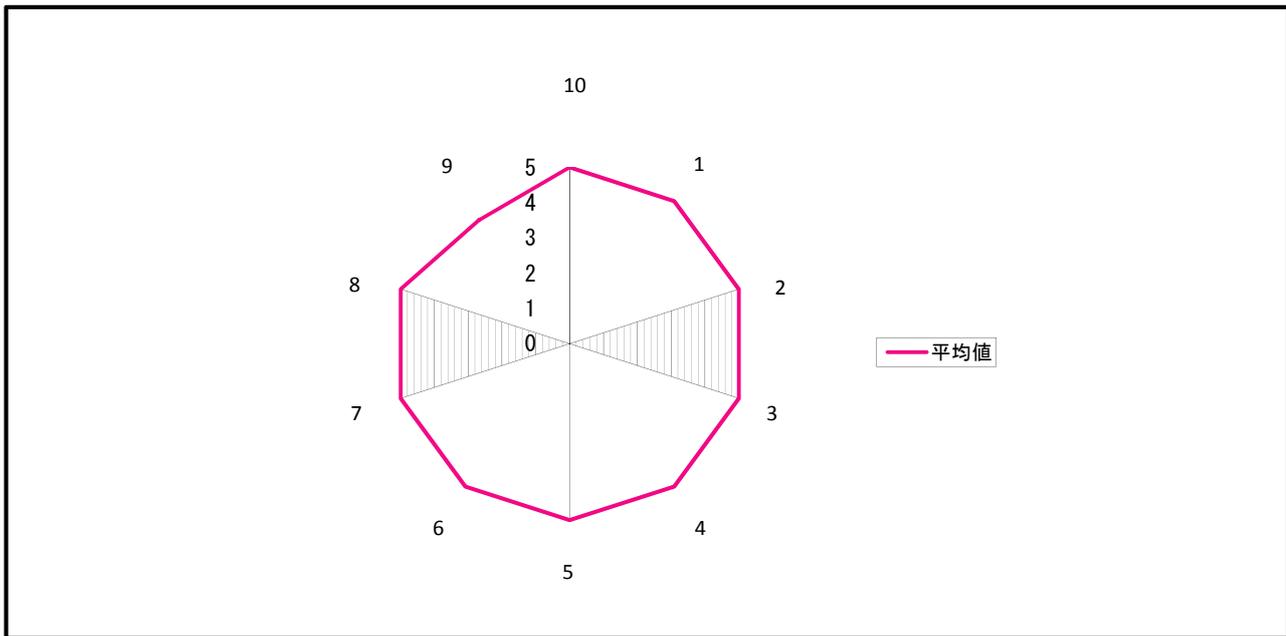
## 教員のコメント

持続可能な開発のための教育(ESD)の枠組みの中で国際理解教育について受講生との対話を重視しながら授業を実施した。その中でESDについての解説、国際理解教育の実践事例の検討及びESDという枠組みの中での国際理解教育に関する評価などについて検討した。このような受講生との対話を重視した授業のあり方が、高く評価されたものと思われる。

# 結果報告書

授業科目名 国際理解教育演習  
 評価実施日 平成28年2月15日  
 担当教員名 近森 憲助, 小澤 大成      回答者数 3 人

質問項目	評価選択人数						平均値 (項目別)
	5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3					5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3					5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3					5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	3					5.0
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	3					5.0
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	3					5.0
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	3					5.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	3					5.0
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	1	2				4.3
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3					5.0



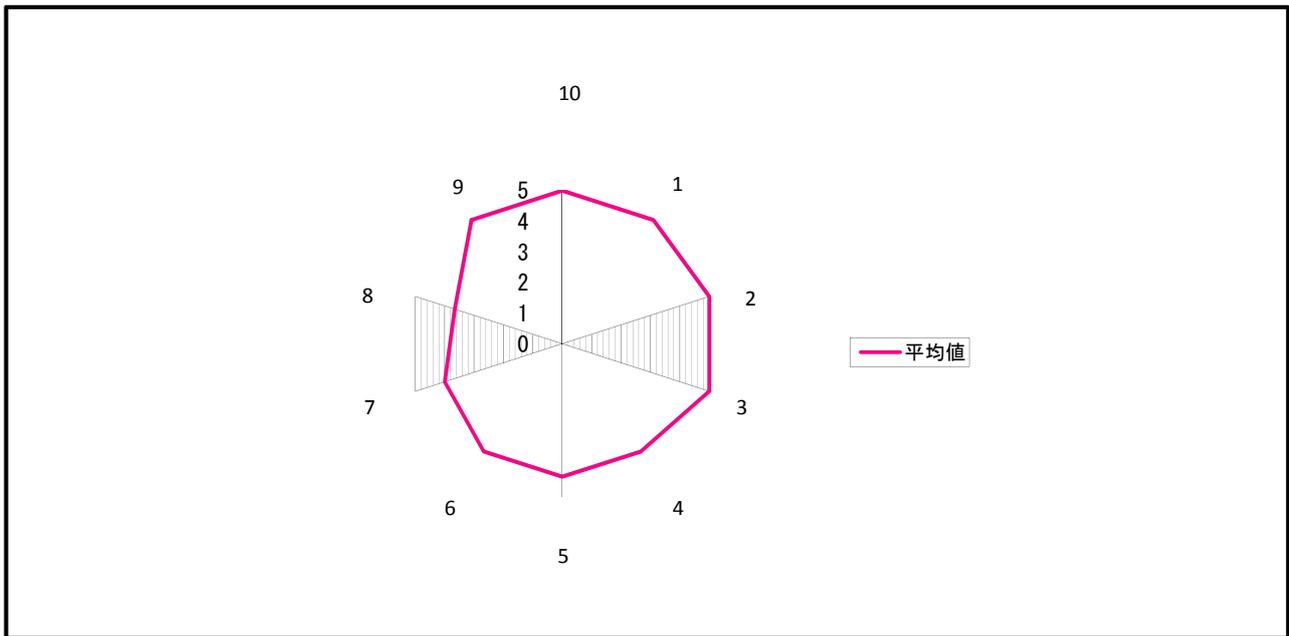
## 教員のコメント

この授業は演習形式であり、良かった点として「人数が少なく参加型授業で個々の経験を話しながら授業を進めたところ」「広範囲に及ぶ内容を知ることができたこと」というコメントがあった。総合評価も5.0と高く、「来年度身同様に進めてほしい」というコメントがあり、本年度も参加型の形式で進めようと考えている。

# 結果報告書

授業科目名 国際教育総合セミナーⅡ  
 評価実施日 平成28年2月23日  
 担当教員名 近森 憲助, 石村 雅雄, 小澤 大成, 石坂 広樹      回答者数 3 人

質 問 項 目		評価選択人数						平均値 (項目別)
		5	4	3	2	1	N.A	
授業の内容について	(1)授業概要は、この授業を適切に表現していた。	3						5.0
	(2)専門的知識を深めるのに役立つ内容であった。	3						5.0
	(3)教師の実践力の育成につながる内容であった。	3						5.0
教員の授業の進め方について	(4)成績評価の方法の説明は、適切であった。	2		1				4.3
	(5)授業の進む速さは、適切であった。	2		1				4.3
	(6)受講生に分かりやすく説明した。	2		1				4.3
	(7)教科書や配布された資料は、適切であった。	1	1	1				4.0
	(8)板書や視聴覚機器の使用は、適切であった。	1	1		1			3.7
あなたの授業への取り組みについて	(9)授業に主体的・積極的に取り組んだ。	3						5.0
総合評価	(10)この授業を総合的に評価すると、よかったと思う。	3						5.0



## 教員のコメント

この授業では、受講生による発表、発表を踏まえた質疑応答及び授業担当者による指導助言が中心となっている。全般的に評価は高いが、教室のプロジェクターが故障していることが多かったため不便を感じるが多かったこと、配布資料の質のばらつきが比較的大きいこと、また成績評価については、授業の最初に説明しているが、周知されていないことなどが評価結果から読み取れる。今後の課題としたい。